

＜健康食品等に関する日本語記事情報 統合版＞

2022 年後半（7 月号 No.1～12 月号 No.2）

本資料は、公益財団法人日本健康・栄養食品協会 学術情報部が、概ね隔週で会員向けに配信している「健康食品等に関する日本語記事情報」の 2022 年 7 月から 12 月配信分を統合したものです。

公益財団法人日本健康・栄養食品協会 <https://www.jhnfa.org/>

内容についてのお問合せ：学術情報部 E-mail：gakuj@jhnfa.org

健康食品等に関する

日本語記事情報（2022 年 7 月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元ので承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022 年 7 月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2515>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2512>

素材情報データベース（新規） 2022 年 7 月 6 日 13 時現在、ありません

2022 年 6 月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2494>

素材情報データベース（更新） <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2493>

素材情報データベース（新規） 6 月は、ありませんでした。

食品安全情報（化学物質）No. 13/ 2022（2022. 06. 22）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202213c.pdf>

別添 <http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202213ca.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

21 年度の景表法運用状況「認知機能」「脂肪」機能性表示食品に指導も

健康メディア.com - 2022/7/6 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16441

消費者庁は 5 月 26 日、2021 年度の景品表示法の運用状況等を取りまとめた結果を公表した。機能性表示食品の表示で「指導」が行われている。

消費者庁では調査に基づき、景表法違反に対し措置命令を実施。「措置命令を行うに足る事実が認められなかった場合」でも、景表法違反のおそれがあるときは、是正措置をとるよう指導している。

21 年度の調査件数は計 374 件。処理件数は、措置命令が 41 件、課徴金納付命令が 15 件、指導が 172 件だった。このほか、都道府県等に移送したものが 19 件、公正取引協議会等が処理したものが 18 件となっている。-----

21 年定期購入相談、2 割減少 「健康食品」5 割減 「化粧品」5 割増

健康メディア.com - 2022/7/4 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16435

消費者庁は6月7日、2022年版「消費者白書」を公表した。

それによると、2021年度に通知された消費者事故等は1万4,941件で、前年度比30.9%増。「生命身体事故等」が3,992件で同63.9%増と大幅に増えた。

「重大事故等を除く生命身体事故等」が2,492件で前年度の948件を大きく上回ったことが要因。食品リコール届出制度が創設されたことと、指定成分による健康被害情報の届出義務化で、都道府県等保健所を経由して厚生労働省に集約される仕組みとなったことなどによるものとしている。-----

■ 行政・法令関連情報（その他）

令和4年6月13日指定成分等含有食品等との関連が疑われる健康被害情報への対応ワーキンググループ（第2回） 議事要旨

厚生労働省 - 2022/6/24 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_26167.html

令和3年度 食品表示に関する消費者意向調査報告書

消費者庁 - 2022/6/24

https://www.caa.go.jp/policies/policy/food_labeling/information/research/2021/#food220624

■ 海外公的機関情報

EU理事会と欧州議会、企業持続可能性報告指令案に暫定合意

日本貿易振興機構（JETRO） - 2022/6/24

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/06/04ad18431e2a3a2f.html>

以下の8件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fscis/>) の更新情報(2022/6/29・30 確認)の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧ください。](#)

6月30日

[16. 米国環境保護庁\(EPA\)、健康保護を強化するために、PFAS の新たな飲料水健康勧告と 10 億ドルの超党派インフラ法の財政的支援について公表](#)

6月29日

[25. 世界保健機関\(WHO\)、「より健康的な食事ための食品及び飲料製品の組成変更:政策概要」を公表](#)

[29. 国際がん研究機関\(IARC\)、アスパルテーム、メチルオイゲノール、イソオイゲノールを対象とする IARC モノグラフ会合 vol. 134 の開催\(2023年6月6日～13日\)を発表](#)

[33. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、データ・ギャップ及び不確実性を指摘する、新食品としてのカンナビジオールの安全性に関する声明を公表](#)

[34. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、カンナビジオール\(CBD\)の新食品評価の進捗について情報を提供](#)

[39. 世界保健機関\(WHO\)、「栄養表示:政策概要」を公表](#)

[47. 国際連合食糧農業機関\(FAO\)、第 94 回 FAO/世界保健機関\(WHO\) 合同食品添加物専門家会議\(JECFA\)のサマリー及び結論を公表](#)

[51. 世界保健機関\(WHO\)、「ガイドライン:公衆衛生戦略としての小麦粉のビタミン・ミネラル強化」を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

【マーケット】 SPING : 2022 年の食品トレンド

ウェルネス総研レポート online - 2022/6/27 <https://wellnesslab-report.jp/1916/>

市場調査会社の SPINS 社は、クリーンラベルの商品、ヘルスサプリメント、および RTD アルコールを 2022 年の主要な食品トレンドとして挙げ、これは今年以降も続くと予想した。これらのカテゴリーの商品は、消費者が購入している「商品」に加えて、購入する「方法」も変化している。同社の CEO である Tony Olson 氏によると、「売上高は店頭販売がその 70% 以上を占めているが、その成長のほぼ 3 分の 2 はオンライン販売によるものである」という。また、成分のパーソナライズ化が進んでいる。-----

元ナチュラルローソン MD が語る！関心が高まる「食×健康」市場。専門家が語る商品開発や売り場づくりのポイント【前編】

ウェルネス総研レポート online - 2022/6/27 <https://wellnesslab-report.jp/1929/>

近年はコロナ禍の影響により、外食を控え、「これまでの食生活を見直して健康について考えることが多くなった」という人が増加しています。それにともない、体にいい食品へのニーズも高まっています。株式会社ローソンで「ナチュラルローソン全般」の開発やマーケティングに携わり、現在、株式会社エールズの代表取締役を務める山口英樹氏に、「食×健康」をキーワードに商品開発やマーケティングのポイントなどについてお話を伺いました。

マーケティングをより効率的かつ効果的に！「ウェルネストrend白書」活用法【前編】

ウェルネス総研レポート online - 2022/6/28 <https://wellnesslab-report.jp/1949/>

一般社団法人ウェルネス総合研究所は、20代～70代、約4,600名の生活者の健康・ウェルネスに関する意識と行動分析に基づき、今後予測されるヘルス・トレンドシナリオを洞察した調査レポート『ウェルネストrend白書 Vol.2』を2022年5月31日に刊行しました。Vol.2では、Vol.1からさらに細分化された生活者の「7つの健康セグメント」について、商品開発やマーケティングをする上で性年代別に留まらない考え方の重要性や、トレンドワードおよびヘルスベネフィットの捉え方をひも解いています。

前編では「7つの健康セグメント」を効率的・効果的に使いこなす方法について、本調査の設計、調査、分析をおこない監修をつとめたウェルネス総合研究所のエグゼクティブフェローである赤坂幸正氏にうかがいました。-----

健康的で持続可能な食の未来へ...アジアの35社が代替たんぱく質食品を提供、GI値調査で食の見直しも

Science Portal Asia Pacific - 2022/6/28

https://spap.jst.go.jp/other_asia/news/220605/topic_nt_01.html

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

期待のエイジングケア成分 臨床レベルの研究報告 相次ぐ (特集/ NMN)

健康メディア.com - 2022/6/27 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16407

業界注目のエイジングケア成分 NMN (ニコチンアミドモノヌクレオチド)。一昨年の非医薬品リスト追加を受けて、注目度が一気に上昇。大手ブランドの参入もあり、国内でも徐々に市場形成が進んでいる。原料相場もキロ当たり 10~15 万円台まで下がり、カプセル、顆粒、錠剤、チュアブル、ドリンクなど様々な新商品が上市されている。主たる購入層は、美容目的の中高年女性だが、フレイル対策、抗肥満、血糖値抑制などのエビデンスが蓄積されたこともあり、男性や若年層にも浸透が見られる。-----

天然の着色料 豊富な機能性データに脚光 (特集/カロテノイド)

健康メディア.com - 2022/7/1 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16431

天然の着色料として食品業界で、重宝されるカロテノイド。高い抗酸化力を持ちアスタキサニン、β-カロテン、リコピン、ルテイン、クロセチンなど健康食品に利用される素材も少ない。アイケア、美肌、疲労回復、認知改善など様々なデータが蓄積されており、血中のカロテノイド濃度が心血管疾患やがん、認知症などの発症リスクと密接に関係することも示唆されている。カロテノイド類を活用した機能性表示食品は約 400 品に達しており、紫外線対策、疲労感軽減などポストコロナを見据えた届出を目指すメーカーも増えている。-----

遺伝子活性のスイッチを制御する「エピジェネティクス」。健康や美容への応用に期待

ウェルネス総研レポート online - 2022/6/24 <https://wellnesslab-report.jp/1909/>

私たちの生活環境や習慣が、遺伝子の活性化スイッチの ON/OFF に影響を与えています。この「エピジェネティクス」と呼ばれる仕組みはいま、医療や健康・美容への応用が期待され、大幅な成長が予測されています。今回はエピジェネティクスの研究や市場の動向を解説します。-----

腸内細菌が深く関与。「脳腸相関」で腸活に新しい健康価値

ウェルネス総研レポート online - 2022/6/24 <https://wellnesslab-report.jp/1905/>

緊張などでお腹が痛くなる経験は、誰もが一度はあるのではないのでしょうか。最近、この脳と腸の関係「脳腸相関」に腸内細菌が深く関わっていることがわかり、「脳・腸・腸内細菌」の三者の関係という新しい概念へと進化しています。今回は新しくなった脳腸相関について解説します。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

たんぱく質コーソシウム「めざせ1日80g!たんぱく摂ろう会」が設立、たんぱく質摂取を通じて"ウェルネス社会の実現"を目指す

マイライフニュース - 2022/6/23 <https://www.mylifenews.net/drug/2022/06/180g.html>

明治、マルハニチロ、伊藤ハム、米久は、たんぱく質コーソシウム「めざせ1日80g!たんぱく摂ろう会」を6月17日に設立し、同コンソーシアムの設立記念発表会を開催した。発表会では、コーソシアムの目指すゴールや今後の具体的な取り組みを紹介したほか、日本栄養士会の中村丁次代表理事会長が、たんぱく質に関する基礎知識や現状の栄養問題とたんぱく質の関係について講演を行った。-----

政府公認の検査能力で注目の CBD をより安全に！

財経新聞 - 2022/6/21 <https://www.zaikei.co.jp/releases/1701543/>

プレスリリース発表元企業：Anresco Japan 株式会社 配信日時：2022-06-21 10:00:00

78年の食品検査実績を持つ米・民間検査機関 日本上陸

日本での安心・安全な CBD 市場作りを支えグローバルスタンダードを目指す

米国で食品及びカンナビス関連製品における検査・分析サービスを提供する Anresco Laboratories（場所：カリフォルニア州サンフランシスコ、代表：David Eisenberg）は、この度日本支社（場所：東京都中央区、代表：神津 大地）を6月1日（水）に設立し、国内でのサービス提供を6月27日より開始いたします。

[画像 1: <https://prtimes.jp/i/103320/2/resize/d103320-2-ff1bdd2f61af1d35587c-1.jpg>]

免疫機能で初めて機能性表示商品として届出受理

キリンホールディングスが「プラズマ乳酸菌」でめざす健康社会

ウェルネス総研レポート online - 2022/6/29 <https://wellnesslab-report.jp/1957/>

ここ数年、コロナ禍にともない、免疫にいい影響を与えると言われる乳酸菌への関心が高まっています。キリンホールディングス株式会社は、健康な人の免疫機能の維持をサポートする「プラズマ乳酸菌」の食品事業を展開。このプラズマ乳酸菌の開発を担当したのが、同社ヘルスサイエンス事業部部長の藤原大介氏。「研究者としてまず直視すべきは『世の中の課題』。その課題を解決した先に商品化や事業化が待っている」と語る藤原氏に、研究・開発にかける想いと姿勢について伺いました。-----

■ 消費者意識等の調査・分析

キューピー、介護にまつわる意識調査、20年目の「UDF」の認知率は約4割で"イメージのしにくさ"に課題も

マイライフニュース - 2022/7/1 <https://www.mylifenews.net/data/2022/07/20udf4.html>

キューピーは、7月11日の「UDF（ユニバーサルデザインフード）（UDF（ユニバーサルデザインフード）：日常の食事から介護食まで幅広く使える、食べやすさに配慮した食品のこと。かむ力や飲み込む力に応じた4区分（容易にかめる・歯ぐきでつぶせる・舌でつぶせる・かまなくてよい）と、「とろみ調整」で構成（日本介護食品協議会が定めた自主規格）の日（UDFの日：2003年7月11日に「UDF（ユニバーサルデザインフード）」の名称と「UDFロゴマーク」が商標登録を受けたことにちなんで、7月11日を「UDFの日」（に制定）」に向けて「介護にまつわる意識調査」の結果を公表した。-----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

皮膚の伸び縮みによる刺激でシワが定着する一因を解明 「ビタミンB6」にシワ改善につながる効果を確認

「ビタミンB6」を含有した独自の単層リポソームを開発

富士フイルムホールディングス株式会社 - 2020/6/20

<https://www.fujifilm.com/jp/ja/news/list/8037>

富士フイルム株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長・CEO：後藤 禎一）は、皮膚の伸び縮みによる刺激（以下、メカニカルストレス）でシワが定着する一因を解明しました。またエネルギー代謝に関わる成分として知られる「ビタミンB6」に、メカニカルストレスによって定着したシワの改善につながる効果があることを見出しました。さらにビタミンB6を含有した独自の単層リポソームを開発しました。-----

表皮幹細胞の情報伝達物質 cAMP が加齢で減少することを発見 「カフェイン」に cAMP を増加させ“若々しい肌”へ導く効果を確認

「カフェイン」を含有した独自の単層リポソームを開発

富士フイルムホールディングス株式会社 - 2020/6/20

<https://www.fujifilm.com/jp/ja/news/list/8038>

富士フィルム株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長・CEO：後藤 禎一）は、皮膚の正常なターンオーバーを維持する表皮幹細胞の情報伝達物質である cAMP（サイクリックエーエムピー）が、加齢に伴い減少することを発見しました。また、「カフェイン」に、cAMP を増加させ“若々しい肌”へ導く効果があることを見出しました。さらにカフェインを、独自開発した単層リポソーム※2 に含有することで、その作用が高まることを確認しました。-----

マカが骨格筋細胞の生育・成長を促し、筋肥大をもたらすことを発見

立命館大学 - 2022/6/24 <http://www.ritsumeit.ac.jp/file.jsp?id=541453&f=.pdf>

立命館大学大学院スポーツ健康科学研究科の易東さん（博士課程後期課程 2 回生）、橋本健志教授らの研究チームは、伝統的に滋養強壯、活力増強、栄養補給などの補助栄養剤として用いられている薬用植物のマカが、骨格筋の生育・成長を促し、筋肥大をもたらすことを明らかにしました。本研究成果は、2022 年 6 月 19 日 20 時（日本時間）に「International Journal of Molecular Sciences」へ掲載されました。-----

[北海道大学、弘前大学、酪農学園大学] タマネギの糖質分解に関わる新規酵素遺伝子を同定 -- タマネギの生産性向上や機能性タマネギの育成への貢献に期待

財經新聞 - 2022/6/27 <https://www.zaikei.co.jp/releases/1707733/>

北海道大学大学院農学院博士後期課程の奥聡史氏（研究当時、現所属：農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター）、同大大学院農学研究院の志村華子講師、酪農学園大学農食環境学群食と健康学類の上野敬司准教授、弘前大学農学生命科学部の前田智雄教授らによる研究グループは、タマネギで初めてとなるフルクタン分解酵素をコードする遺伝子を見出し、その酵素機能や細胞内局在を明らかにした。フルクタンの代謝に関わる遺伝子の学術的な知見はタマネギの育種へ活かし、環境ストレスに強く作りやすいタマネギやヒトの健康に役立つフルクタンをたくさん含むタマネギなど、有用なタマネギ系統の育成に貢献することが期待される。-----

海洋深層水由来のバランスウォーターに健康効果を発見

芝浦工業大学 - 2022/6/17 <https://www.shibaura-it.ac.jp/news/nid00002428.html>

バランスウォーターの最適な硬度を提案

芝浦工業大学（東京都港区／学長 山田純）生命科学科・福井浩二教授らの研究チームは、海洋深層水由来のバランスウォーターを継続的に飲用することで多くの健康効果が期待できることを発見しました。ミネラルは生物にとって必要不可欠ですが、ミネラルを多く含

◎抹茶と健康研究会 第3回セミナー開く◎ 心理的ストレス、肺炎球菌、動体視力で新知見

ウェルネス総研レポート online - 2022/6/30 <https://wellnesslab-report.jp/1982/>

抹茶の多彩な健康機能を追求する「抹茶と健康研究会」は、5月13日に第3回の公開セミナーをWEB開催した。2021年6月からの第2期としてあいや、伊藤園、共栄製茶、ネスレ日本の4社による共同運営体制で初の公開セミナーとなった。農研機構の山本(前田)万里氏による基調講演をはじめ、かねて進めてきた数々の助成研究から最新の報告として、心理的ストレス、肺炎球菌、動体視力に対する影響という、抹茶と健康に関する3つの新知見を発表し、古くから身近に実践できる健康習慣として知られてきた喫茶の有用性をさらに裏付けた。外国人観光客の受け入れ再開に向けた準備が進むなか、抹茶のおいしさと新たな健康機能がインバウンド需要再燃に結び付くことも期待される。-----

以下の4件は、リンク DE ダイエット (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所) 掲載記事 (2022年6月23日~7月6日) から選定したものです。

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/>

フルクトースはグリセリン酸を介して糖尿病リスクを高める？

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=78158&-lay=lay&-Find.html> (2022/6/23)

フルクトースの代謝物であるグリセリン酸がインスリン産生細胞を障害して糖尿病リスクを高めるようだ、という米国テラサキ生物学医学創発研究所によるマウスを用いた動物実験の報告。-----

糖尿病新治療のカギに？画期的な発見

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=78159&-lay=lay&-Find.html> (2022/6/23)

血糖コントロールに有益な FAHFA と呼ばれる脂質の、体内での生成メカニズムが初めて明らかになった。この画期的な発見により、1型・2型両方の糖尿病治療に新たな道が開ける可能性があるという。米ベス・イスラエル・ディーコネス医療センターの研究。-----

フードミクス：食べ物を知るのに役立つ生体分子を探る

<https://www.nibiohn.go.jp/eiken/linkdediet/news/FMPro%3F-db=NEWS.fp5&Format=detail.htm&kibanID=78191&-lay=lay&-Find.html> (2022/6/28)

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と（情報元の下承が得られた場合は）冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

食による健康長寿の実現を目指す「セルフケアフード協議会」を農研機構と設立 カゴメ、カルビー、森永乳業、はくばく、北海道情報大学が参画を表明

株式会社 島津製作所 - 2022/7/7

<https://www.shimadzu.co.jp/news/press/of67nrzh70o1c8dk.html>

島津製作所および国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（本部：茨城県つくば市、以下農研機構）は、食による健康長寿社会の実現を目指す「一般社団法人セルフケアフード協議会」（以下 SCFC）を設立しました。SCFC は科学的な成分分析技術を基礎として、国民が自分の健康状態を把握して健康維持に必要な食を選択できる社会システムの構築・提供や日本の農林水産食品関連産業の振興という目的を掲げています。賛同する食品・飲料関連企業・研究機関に参画してもらい、健康長寿につながる商品・サービス開発に活用いただくことを目指します。7月6日までに、カゴメ株式会社、カルビー株式会社、森永乳業株式会社、株式会社はくばく、北海道情報大学から参画を表明いただきました。当社は「農作物などの機能性・安全性を検証」「アルツハイマー型認知症の診断・研究」などに用いる分析計測機器を開発しています。技術開発を通じて多くの共同研究に携わってきた知見を生かし、SCFC でも事務局の役割を務めます。-----

世界が注目する2つのサステナ開示基準案（1）「CSRD」

オルタナ - 2022/7/13 <https://www.alterna.co.jp/50585/>

まだ全貌が定まっていない2つの「サステナビリティ開示基準案」が、世界のIR/サステナビリティ担当者の注目を集めています。これらはサステナビリティ情報に求める質を財務

[COT]ターメリックとクルクミンサプリメントのヒト健康へのリスクの可能性についてのディスカッションペーパー及び補遺

食品安全情報 blog2 (2022/7/20)

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/07/20/180414>

7月20日分の最後の方の見出しです。

COT: 英国食品規準庁 (FSA) 傘下の毒性委員会 (Committee on Toxicity)

【FSA/COT/ANSES】ターメリック含有サプリメントについて

食品安全情報 (化学物質) No. 15/2022 (2022.07.20) <注目記事>

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202215c.pdf>

3 機関が、ターメリック (別称: ウコン) 及びそのサプリメントに関する記事を報告。

▶ 英国食品基準庁 (FSA) : 市販のターメリック及びそのサプリメントに含まれるクルクミンとピペリンの分析法開発と濃度調査の結果を報告した。

▶ 英国毒性委員会 (COT) : ターメリックサプリメントによる健康リスクに関して、今年 3 月に開催された前回会合以降の最新情報を対象に、FSA の調査結果も含めてレビューを行った。COT は以前と同様に、ターメリックをサプリメントとして多量摂取した場合には許容一日摂取量 (ADI) を超過する可能性があり、ADI の大幅な超過はヒトへの健康リスクとなり得ること、特に、他の医薬品を併用している場合と、肝胆道機能が変化している人ではリスクとなる可能性が高いと述べている。

▶ フランス食品・環境・労働衛生安全庁 (ANSES) : ANSES のニュートリビジランス計画では、ターメリックやクルクミンを含むフードサプリメントの摂取に関連する可能性がある 100 件以上の有害事象報告 (15 件の肝炎報告を含む) を受け取っている。最近の製品は従来品に比べて、ピペリンなどの他の成分との混合や、形状の変更などによって生物学的利用能を高めるよう製造されていることが多く、そのために有害影響が誘発される可能性がある」と注意を呼び掛けている。

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 被害関連情報および素材情報データベース

2022 年 7 月更新中

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2515>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2512>

素材情報データベース (新規) 2022 年 7 月 21 日 13 時現在、ありません

2022 年 6 月分

被害関連情報 <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2494>

素材情報データベース (更新) <https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2493>

素材情報データベース（新規） 6月は、ありませんでした。

食品安全情報（化学物質）No. 15/ 2022（2022. 07. 20）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202215c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 不適切な表示、販売など（行政機関情報、その他）

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

「食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示リスト」の一部改正に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/7/7

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495220083&Mode=0>

フィチン酸カルシウムに係る食品健康影響評価に関する審議結果（案）についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/7/7

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=095220620&Mode=0>

にんじんジュース及びにんじんミックスジュースの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/7/13

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003518&Mode=0>

りんごストレートピュアジュースの日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/7/13

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003520&Mode=0>

果実飲料の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/7/13

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003519&Mode=0>

有機加工食品の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/7/15

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003523&Mode=0>

「清酒の製法品質表示基準を定める件」及び「酒税法及び酒類行政関係法令等解釈通達の制定について（法令解釈通達）」の一部改正（案）に対する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/7/19

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=410040009&Mode=1>

■ 海外公的機関情報

カナダ保健省、包装済み食品に対する新栄養表示規制を発表（カナダ）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/7/7

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/07/65286581672b3abe.html>

免疫、メンタル、タンパク質吸収促進など広がるエビデンス(特集／殺菌乳酸菌)

健康メディア.com - 2022/7/13

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16478

加工特性の良さからサプリメントのみならず一般食品や外食産業にも一気に採用が広がった殺菌乳酸菌。殺菌体の素材が広く知られるようになったことで、国内での熱狂的な乳酸菌ブームを後押しした。現在その火は海外に広がりつつある。特にここ数年のコロナ禍では免疫領域への働きが高く評価され、殺菌体に海外からも大きな関心が寄せられている。-----

吸収性向上で「サプリ力」強化 “機能性素材のための機能性素材”に注目(特集／吸収性向上素材・技術)

健康メディア.com - 2022/7/14

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16482

“高吸収”に照準をあてた製品開発が活発化している。サプリメントや機能性表示食品の体感性や即効性を高めるエンハンス開発は、サプリメントはもとより、商品化に欠かせないキーワードになっている。素材分野では、(発酵、還元型、ナノ化、微粒など)素材自体の吸収性を高めたものや、主剤の吸収性をサポートする“機能性素材のための機能性素材”の採用が進む。技術分野では、ナノ(リポソーム)化、微粒化、発酵技術を活用することで、有効成分の高吸収を訴求するOEM供給や素材の一次加工を提案する受託製造企業が目立つ。吸収性の向上は「体感性アップ」に加えて、有効成分や摂取粒数の少量化にも繋がることから、「コストメリット」も評価されており、(NMNなど)主剤が高価なサプリメントへの応用が進んでいる。-----

米国のエナジードリンク・エナジーショット売上上位75製品に含まれている成分と量の調査結果

スポーツ栄養 WEB - 2022/7/7 <https://sndj-web.jp/news/001852.php>

米国で流通しているエナジードリンクやエナジーショットの売上上位75製品に含まれている成分と量を調査した結果が報告された。全般的にカフェインとビタミンB群が多く含まれており、成分非公表の“独自ブレンド”も15製品に含まれていた。-----

【前編】腸内細菌に注目した食品開発のヒント ～ファーマシューティカル化が進む発酵食品

ウェルネス総研レポート online - 2022/7/15 <https://wellnesslab-report.jp/2058/>

人体に「1000種、数十兆個」も存在すると言われている「腸内細菌」。近年、人の体にさまざまな影響を与えていることがわかってきました。それにともない、腸内細菌に着目した食品も続々と登場。「脳」や「皮膚」にまで影響を与えるとされる腸内細菌の最新研究と、関連商品の開発のヒントについて、西沢邦浩氏（株式会社サルタ・プレス代表取締役、日経 BP 総研客員研究員）に伺いました。-----

【後編】腸内細菌に注目した食品開発のヒント～ファーマシューティカル化が進む発酵食品

ウェルネス総研レポート online - 2022/7/20 <https://wellnesslab-report.jp/2113/>

【知っておくべき！学会レポート】“脳”と“見た目”をAIで解析！アンチエイジングを極める2つのターゲットを知る！第22回日本抗加齢医学会総会①

ウェルネス総研レポート online - 2022/7/20 <https://wellnesslab-report.jp/2089/>

AD（アルツハイマー型認知症）の原因として知られる脳内アミロイド β は他の臓器でも起こり、ADの必要条件であるものの十分条件ではありません。一方、酸化ストレスと血管病変によって起こる炎症は十分条件です。今回は、アンチエイジングで重要なターゲットとなるアミロイド β を血管病変や炎症の視点からひも解きつつ、AIを用いた新しい診断や予防方法と、さらに脳と見た目の相関も交えた講演「脳のアンチエイジングと見た目のアンチエイジング」についてレポートします。-----

【知っておくべき！学会レポート】新高機能性食材が筋肉の障害を救う！「宇宙飛行と加齢による筋萎縮と栄養対策」第22回日本抗加齢医学会総会②

ウェルネス総研レポート online - 2022/7/20 <https://wellnesslab-report.jp/2104/>

無重力や寝たきりの状態がまねく、筋肉の萎縮と著しい運動能力の障害を「廃用性筋萎縮（はいようせいきんいしゆく）」と言い、これに対する新しい高機能性食材の開発が進められています。これまで予防法や治療法のなかったこの障害に対し、栄養学的に食材で治療することを目的とした「宇宙飛行と加齢による筋萎縮と栄養対策」について、6月17日～19日に開催された第22回日本抗加齢医学会総会の中からレポートします。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

青魚などに含まれるオメガ3系脂肪酸を多く摂取している男性が、配偶者に対する暴力をふるうリスクが低いことを、富山大学学術研究部の松村健太講師らの研究グループが明らかにした。-----

腸内細菌が原因となる不安やうつ病からの回復を支援する有用菌、サイコバイオティクスとは？ バランスの取れた食事が究極のサイコバイオティクス

アトラス日本合同会社 - 2022/7/15

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000037.000075534.html>

世界で唯一、遺伝子と腸内フローラの検査結果を統合したレポートを提供しているパーソナライズドヘルスソリューション企業、Atlas Biomed（本社：英国 ロンドン、CEO：セルゲイ・ムシエンコ、子会社：アトラス日本合同会社（住所：東京都渋谷区、代表者：セルゲイ・ミュシエンコ、以下 Atlas Japan<<https://atlasbiomed.co.jp/>>は、Atlas Biomedに所属する、人と微生物の関係を研究しているロス・カーヴァー・カーターが6月10日に執筆した、「サイコバイオティクス：腸内細菌が原因となる不安やうつ病からの回復を支援する有用菌」と題する考察レポート〈<https://atlasbiomed.com/blog/psychobiotics-treating-the-mind-via-the-gut/>〉の抄訳を発表しました。-----

コーヒー・カフェインと認知症予防に強固な関連性、新潟大学が日本人高齢者で調査

大学ジャーナルオンライン - 2022/7/18 <https://univ-journal.jp/173373/>

新潟大学大学院の中村和利教授らの研究グループは日本人の中高年のコーヒー、緑茶、カフェインの摂取量と認知症リスクとの関連を調査し、コーヒー高摂取と認知症低リスク、およびカフェイン高摂取と認知症低リスクの強固なエビデンスを得た。緑茶の効果は明確ではなかった。-----

乳由来「βラクトペプチド」を用いた臨床試験で、メンタルヘルスや精神的活力を改善することを世界で初めて確認

キリンホールディングス株式会社 - 2022/7/19

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2022/0719_01.html

キリンホールディングス株式会社（社長 磯崎功典）のキリン中央研究所（所長 矢島宏昭）は、乳由来の「βラクトペプチド※1の1つであるGTWYペプチド※2（以下、βラク

トペプチド)」を用いた臨床試験で、日常的にストレスを感じている人のメンタルヘルスや精神的活力を改善することを、世界で初めて確認しました。

当社はこの研究成果を、2022年7月14日(木)～15日(金)に、日本うつ病学会が主催した「第19回日本うつ病学会総会」で発表しました。この研究と関連した成果は、6月17日(金)に行われた「第22回日本抗加齢医学会総会」においても発表し、「最優秀発表賞」に選出されました。

※1 乳タンパク質に由来し、トリプトファン-チロシン(WY)のアミノ酸配列を含み認知機能改善作用を有するペプチドの総称。

※2 β ラクトペプチドの主要な成分で、グリシン-トレオニン-トリプトファン-チロシンの配列を持つペプチドの総称。

世界初の発見　ホタテ由来プラズマローゲンがナチュラルキラー細胞を活性化し、ウイルス殺傷力を高める

一般社団法人プラズマローゲン研究会 - 2022/7/20

<https://www.zaikei.co.jp/releases/1733986/>

◆レオロジー機能食品研究所(藤野武彦代表、馬渡志郎所長、Shamim Hossain 基礎研究部長)の研究グループは、ホタテ由来プラズマローゲンがNK細胞を活性化してがん細胞やウイルス攻撃力を高めるメカニズムを発見しました。

資生堂、黒ショウガエキスが腸管バリア機能を強化する作用を発見 ～体内への異物侵入抑制に着目し、インナービューティーケアに応用～

株式会社 資生堂 - 2022/7/13

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003444>

資生堂は、広島大学大学院 統合生命科学研究科 鈴木卓弥教授との共同研究により、黒ショウガエキスの摂取により、ヒトの腸管バリア機能が強化されることを明らかにしました。黒ショウガエキスは、腸の細胞同士の隙間を閉じて異物の侵入を防ぐ「タイトジャンクション」の働きを強化し、炎症でダメージを受けた腸のケアを実現すると考えられます。また、関与成分やその作用メカニズムについても明らかにしました。本研究成果の一部は、日本農芸化学会 2022年度大会(2022/3/15-18)および日本栄養・食糧学会大会(2022/6/10-12)にて発表しました。-----

資生堂、老化の伝播を引き起こす「真皮老化細胞モデル」の開発に成功 ～再生医療研究の知見を活かした肌老化の根本原因解明への一歩～

株式会社 資生堂 - 2022/7/20

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003453>

資生堂は、再生医療研究の知見を活用し、老化細胞から分泌される SASP 因子等を介して周囲の細胞に老化を連鎖させる特徴を持つ「真皮老化細胞モデル」の開発に成功しました。これにより、これまで困難とされてきた老化細胞およびその周囲の細胞の様子、SASP 因子が及ぼす影響について、安定的に詳細な観察をすることが可能になります。また、開発した「真皮老化細胞モデル」を用いて、ニーム葉抽出液が SASP 因子分泌の制御に関わる NFκB 産生を抑制することを確認しました。本研究の成果の一部は「日本組織培養学会 第94回大会」(2022/7/8)にて発表しました。-----

日本メナード化粧品、唾液中のタンパク質から 認知機能の低下リスクを予測する技術を開発

@Press - 2022/7/7 <https://www.atpress.ne.jp/news/316880> (リリース元: 日本メナード化粧品株式会社)

日本メナード化粧品株式会社(愛知県名古屋市中区丸の内3-18-15、代表取締役社長: 野々川 純一)は、唾液中の炎症性タンパク質「フラクタルカイン」の量を調べることで、自身の認知機能の低下リスクを予測できることを発見しました。-----

骨格筋のビタミンC不足、性別関係なく筋萎縮や身体能力低下をもたらすー都長寿研ほか

QlifePro 医療ニュース - 2022/7/15

<http://www qlifepro.com/news/20220715/vitamin-c.html>

ビタミンC合成不全・雄マウス、ビタミンC投与群／非投与群で骨格筋の筋重量を測定

東京都健康長寿医療センターは7月14日、骨格筋でのビタミンC不足は、性別に関係なく筋萎縮や身体能力の低下をもたらすことを明らかにしたと発表した。この研究は、同大東京都健康長寿医療センターの石神昭人研究部長、滝野有花研究員、滝沢晶子連携大学院生らは、韓国釜山大学の Jaewon Lee 教授、順天堂大学の町田修一教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Biology」電子版に掲載されている。-----

東京都健康長寿医療センター プレスリリース

<https://www.tmg Hig.jp/research/release/2022/0714-2.html>

オリジナル原料、認証取得、SDGs 等 受託+αで多様化するニーズに対応（関東受託ガイド）

健康メディア.com - 2022/8/18 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16580

コロナ禍に伴う健康意識の高まりを背景に、健康食品の需要は拡大傾向が続いている。本紙上半期の健食受託市場調査では、44%の企業が増収に。関東圏の製造業は、全国的にも高い地価や人件費といったコストを踏まえ、事業存続のための生産性の向上が欠かせない。今回、関東圏にある健康食品受託メーカーの戦略にスポットを当てる。-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

ヘンプの CBD とテルペン類 -未来の食品と加工技術のための素材

日本臨床カンナビノイド学会 - 2022/8/12

http://cannabis.kenkyuukai.jp/information/information_detail.asp?id=128293

本学会に、ヘンプ由来の CBD とテルペン類についてのお問い合わせがあったので、それに該当する論文を仮訳しました。

ヘンプの CBD とテルペン類 -未来の食品と加工技術のための素材

- ヘンプのカンナビジオールやテルペン類に関する世界各国の法的規制についてまとめている。
- CBD とテルペンの食品への添加の現状と課題について議論されている。
- ヘンプの加工技術における最近の進歩と研究ニーズが強調されている。

「疲労感軽減」「腹部不快感」「呈味改善」等、幅広い訴求力 高まる スポーツ需要に対応（特集／アミノ酸・ペプチド）

健康メディア.com - 2022/8/17 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16576

スポーツ時における栄養補給や疲労回復などで活用されているアミノ酸。機能性研究も進み、今年には運動後の腹部不快感軽減で新たな知見が生まれた。スポーツ訴求以外では、高齢者のサルコペニア対策や日常の疲労感軽減、呈味改善訴求も。サプライヤーサイドではエビデンスデータ構築や、他素材との組み合わせ提案などで差別化を図り、新たな需要掘り起こしを進めている。食薬区分改正となったβ-アラニンは、栄養ドリンク・リポビタン D に配合され、トレーナーや栄養士、高校・大学の部活動監督やコーチの支持が広がっている。5-ALA は今年、疲労感軽減の機能性表示食品が登場した。-----

老化の原因として注目のサイトカイン。腸内細菌叢の制御が老化予防のカギ

ウェルネス総研オンラインレポート - 2022/8/22 <https://wellnesslab-report.jp/2350/>

老化の原因として、サイトカインの上昇を伴う軽度の慢性的な炎症が注目され、炎症を腸内細菌叢の制御で抑える研究が進んでいます。老化予防がプロバイオティクスなどの新たな価値となるかもしれません。今回はサイトカインについて解説します。-----

個別化栄養・ヘルスケアのカギを握るポストバイオティクスとは

ウェルネス総研オンラインレポート - 2022/8/22 <https://wellnesslab-report.jp/2347/>

いま、プロバイオティクスやプレバイオティクスの一歩先に行く「ポストバイオティクス」が注目されています。新しい市場として、個別化栄養・ヘルスケアの実現に重要な役割を果たすかもしれません。今回はポストバイオティクスの可能性について解説します。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

2030年に向けた「LIONオーラルヘルスイニシアチブ」設定のお知らせ

ライオン株式会社 - 2022/8/8

[https://lion-](https://lion-corp.s3.amazonaws.com/uploads/tmg_block_page_image/file/8251/20220808a.pdf)

[corp.s3.amazonaws.com/uploads/tmg_block_page_image/file/8251/20220808a.pdf](https://lion-corp.s3.amazonaws.com/uploads/tmg_block_page_image/file/8251/20220808a.pdf)

ライオン株式会社（代表取締役社長・掬川 正純）は、中長期経営戦略フレーム「Vision2030」^{※1} で定めた成長の方向性である4つの提供価値領域^{※2}のうち、オーラルヘルス領域^{※3}の基本的考え方に基づく企業活動の諸施策について、その総称を「LIONオーラルヘルスイニシアチブ」と設定しました。

※1：中長期経営戦略フレーム「Vision2030」については、本リリースの参考資料1に記載

※2、※3：4つの提供価値領域およびオーラルヘルス領域については、本リリースの参考資料2に記載

【インタビュー】キリンホールディングス 合原康成氏「協和発酵バイオの通販事業を一体化 免疫ケアサプリのEC強化」

マイナビニュース - 2022/8/18

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220818-2428147/>

■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

褐色脂肪細胞、ミトコンドリアを介した活性化・脂肪燃焼促進メカニズムを解明－九大

QLifePro 医療ニュース - 2022/8/19 <http://www.qlifepro.com/news/20220819/tfam.html>

褐色脂肪組織の活性化による根治的肥満治療薬開発を目指し TFAM 高発現マウスを解析九州大学は 8 月 18 日、脂肪を燃焼して熱を産生する褐色脂肪細胞を活性化させるメカニズムの研究に取り組み、活性化を促進する因子を褐色脂肪細胞自身で分泌し利用することで、持続的に脂肪燃焼を可能とする新たな仕組みを解明したと発表した。この研究は、同大大学院医学研究院臨床検査医学の藤井雅一非常勤講師、病院検査部の瀬戸山大樹助教、康東天名誉教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「iScience」に掲載されている。-----

九州大学 プレスリリース <https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/researches/view/798>

摂食抑制ニューロンの産生制御シグナルを解明 — メタボリックシンドローム予防へ向けた新たな展開 — (医学科学生も研究に参加)

大学プレスセンター - 2022/8/16 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-48723.html>

東京医科大学（学長：林 由起子／東京都新宿区）組織・神経解剖学分野 大山恭司准教授、金城ありさ、中村剛（ともに同大学医学科第 5 学年）の研究グループは、英国 Sheffield 大学 Place 博士、Manning 博士、米国 Johns Hopkins 大学 Kim 博士と日英米共同プロジェクトを推進し、その結果、ソニックヘッジホッグ(SHH) とノッチ(NOTCH)タンパク質が、POMC ニューロン産生維持のカギを握るシグナル伝達因子であることを明らかにしました。その研究成果が、国際神経科学専門誌である「Frontiers in Neuroscience」に、2022 年 8 月 11 日（日本時間）掲載されました。-----

D-トリプトファンに腸管病原菌の増殖を抑え腸炎を予防する作用があると発見－慶大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/8/22 <http://www.qlifepro.com/news/20220822/d-trp.html>

「D-アミノ酸」が腸管病原細菌や腸内細菌に与える影響は不明点が多かった

GlyNAC のサプリメントは、高齢者にみられる種々の加齢変化、障害を抑え、筋力、歩行速度、運動能力、腹囲、血圧を改善できるようだ、という米国バイラー医科大学からの研究報告。-----

以下の 4 件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022 年 8 月 9 日～23 日）から選定したものです。

8 月号 No.1 でもご紹介した研究ですが、この記事ではより詳しく解説されておりますので、あらためてご紹介いたします。

カカオの成分が寿命を延長することを確認 長寿遺伝子「サーチュイン」活性化を介する機序

<https://sndj-web.jp/news/001911.php> (2022/8/15)

カカオの種子に含まれる成分が、生命維持に重要な酵素であるサーチュインを特異的に活性化することが報告された。この酵素は、老化抑制や肥満、糖尿病、メタボリックシンドロームなどの予防にも関与するとされていて、特定成分によるこのような効果の確認は世界初という。-----

食物摂取頻度調査票（FFQ）による食塩・カリウム摂取量推定値は、スクリーニング目的で使用できる精度がある

<https://sndj-web.jp/news/001912.php> (2022/8/16)

食物摂取頻度調査票（FFQ）から得られる食塩、カリウムの摂取量の推定値は、スクリーニング目的で利用可能な程度の精度があるとする研究結果が報告された。国立がん研究センター 予防研究グループの研究によるもので、研究の成果が「Nutrients」に論文掲載されるとともに、同センターのサイトにニュースリリースが掲載された。-----

低強度運動とタマネギ・ブロッコリーのポリフェノールで、中高齢者の筋肉の質が改善

<https://sndj-web.jp/news/001920.php> (2022/8/17)

低強度レジスタンス運動とケルセチン配糖体の摂取を組み合わせることで、中高齢者の筋肉の質の一部である筋柔軟性が改善するとする研究結果が報告された。立命館大学、サントリーウエルネス（株）、順天堂大学、国立健康・栄養研究所、八戸学院大学の共同研究グループの研究によるもので、「Frontiers in Nutrition」に論文が掲載されるとともに、立命館大

不安やブルーになるのは、超加工食品を摂り過ぎているから？

リンク DE ダイエット - 2022/9/5（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所）2021.9.5, EurekAlert より:

スナック菓子やインスタント食品などといった超加工食品を多く摂る人は、メンタルヘルス上の観点からも食生活を見直した方がよいかもしれない。米フロリダ大西洋大学の研究。

9月1日付け「食品安全情報 blog2」 超加工食品と心疾患、大腸がん、死亡を調べた二つの研究への専門家の反応

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/09/01/165618>

9月1日分の下の方に記載されています。

専門家が言及しているのは以下の2報です。

「BMJ」掲載論文（オープンアクセス）：「Joint association of food nutritional profile by Nutri-Score front-of-pack label and ultra-processed food intake with mortality: Moli-sani prospective cohort study」 <https://www.bmj.com/content/378/bmj-2022-070688>

「BMJ」掲載論文（オープンアクセス）：「Association of ultra-processed food consumption with colorectal cancer risk among men and women: results from three prospective US cohort studies」 <https://www.bmj.com/content/378/bmj-2021-068921>

「一般財団法人ニチレイ MIRAIterrace 財団」設立のお知らせ

株式会社ニチレイ - 2022/8/23 <https://www.nichirei.co.jp/news/2022/423.html>

株式会社ニチレイ（代表取締役社長：大櫛頭也 本社：東京都中央区）は、「食」と「健康」に関連する社会課題の解決に長期的な視点で取り組むことを目的として、2022年8月10日に「一般財団法人ニチレイ MIRAIterrace 財団」を設立いたしました。-----

ブルボン、健康ビスケット創出へ始動 他社商品交えた売場づくりで市場拡大目指す 「カーボバランス」「MCT プラス」が軸足

食品新聞 - 2022/8/23 <https://shokuhin.net/60782/2022/08/23/kakou/kashi/>

プラスチック問題の解決に向けた取り組みを強化

◆家庭用の主力製品（1000gポリボトル）へ環境対応素材を導入

千葉大学は9月2日、脳内で一酸化窒素（NO）によって活性化される可溶性グアニル酸シクラーゼ（sGC）が加齢に伴い増加することが、認知症の発症リスクを上昇させる一つの要因であることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院薬学研究院の殿城亜矢子講師と伊藤素行教授、真菌医学研究センターの高橋弘喜准教授の研究グループが行ったもの。研究成果は「Aging Cell」に掲載されている。-----

千葉大学 プレスリリース <http://www.qlifepro.com/news/20220905/sgc-aging.html>

【前編】「免疫・感染制御」の中核を担う IgA の働きを知る

ウェルネス総研レポートオンライン - 2022/9/5 <https://wellnesslab-report.jp/2386/>

新型コロナウイルスの流行により、免疫への関心が高まっています。免疫の主役の一つである抗体のうち、IgA 抗体は、体内への病原菌の侵入を防ぐという重要な役割を担っています。今回は IgA 抗体を中心とした免疫システムについて、東京大学 定量生命科学研究所 免疫・感染制御研究分野の新藏礼子教授に伺いました。-----

■ その他

AI 創薬について現場の研究者が思うこと | コラム：現場的にどうでしょう

AnswersNews - 2022/9/1 <https://answers.ten-navi.com/pharmanews/23812/>

バズワードとなって久しい「AI 創薬」ですが、ここ数年で大きな変化が起こってきているように感じます。アカデミアやベンチャーによる技術開発が進み、国内外の複数の製薬企業とアカデミアが連携して大規模なコンソーシアムも立ち上がりました。論文や学会での発表を通じて多くの情報が共有され、AI でできること・できないことが明確になってきました。そうした中で、創薬の現場で働く研究者の意識も大きく変化してきたように思います。

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022年9月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

習慣的に摂取している加糖飲料を低・ノンカロリー飲料に替えると BMI上昇か オランダで成人8万人、4年間の縦断研究

スポーツ栄養 WEB - 2022/9/29 <https://sndj-web.jp/news/001974.php>

8万人近くの一般成人を中央値 4年間追跡し、加糖飲料や低カロリー飲料・ノンカロリー飲料、またはフルーツジュースの摂取量と、体重やウエスト周囲長の変化、および過体重・肥満、腹部肥満の罹患率との関連を調査した結果がオランダから報告された。低カロリー・ノンカロリー飲料では、摂取量が多いほど体重関連指標が悪化し、フルーツジュースについては150mL/日未満の場合、良い影響が認められたとのことだ。-----

■ 安全性関連情報

[FSANZ]食品添加物としての二酸化チタンのレビュー

食品安全情報 blog2 - 2022/10/3

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/10/03/174807>

補足コメント: 10月3日分の最初の見出しです。今回のFSANZ(オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関)のレビューは、“現在入手可能なデータを基にして、FSANZは食品グレードのTiO₂の食事暴露はヒトの健康の懸念となることを示唆する根拠はないと結論した。”としています。安全性への懸念を示した昨年欧州食品安全機関等の安全性評価と対照的な結論になっています。(冒頭のパラグラフが分かりにくいので追記しました)

「健康食品」の安全性・有効性情報サイト、リニューアルのためのサイトの情報更新休止

国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 - 2022/9/28

<https://hfnet.nibiohn.go.jp/notes/detail.php?no=2541>

「健康食品」の安全性・有効性情報サイトは、リニューアルのため、次の期間、情報更新を休止いたします。なお、閲覧はこれまで通り可能です。

予定期間：2022年10月～2023年1月末

● 現サイトは、2023年3月31日をもちまして閉鎖いたします。

● 新サイトのホームページアドレス(URL)のお知らせ時期

現サイト[最新ニュース]にて、お知らせします(2023年2月予定)。

食品安全情報（化学物質）No. 20/ 2022（2022. 09. 28）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202220c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

第4回ステルスマーケティングに関する検討会の資料を公表しました。

消費者庁 - 2022/10/6

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_05/030343.html

「有機加工食品の日本農林規格の一部改正案についての意見・情報の募集」の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/9/30

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=550003523&Mode=1>

■ 海外公的機関情報

[FDA]FDA は食品表示上の「ヘルシー」の定義の更新を提案する

食品安全情報 blog2 - 2022/10/3

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/10/03/174807>

補足コメント：10月3日分の2番目の見出しです。

[WHO]オンラインパブリックコメント：炭水化物摂取についてのガイドライン案

食品安全情報 blog2 - 2022/10/3

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/10/03/174807>

補足コメント：10月3日分の中ほどの見出しです。

ジェトロ、包装食品栄養表示規定の一部改定に伴い仮訳を公開（台湾）

JETRO（日本貿易振興機構） - 2022/9/22

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/09/376243ed5af0a770.html>

ベトナムの食品生産現場における添加物管理の実態

VIETJO [ベトジョー] - 2022/9/24

<https://www.viet-jo.com/news/social/220919175634.html>

ベトナム製の即席めんが多数、発がん性物質「エチレンオキシド(ethylene oxide=EO)」の検出によって各国で回収されている。ただこの物質は、ベトナムでは規制されていないものだ。各国が禁止しているにもかかわらず、ベトナムで使用されている物質は、他にも多い。-----

以下の3件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/10/5 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

40. [米国環境保護庁\(EPA\)、フッ素加工容器におけるPFAS浸出に関するデータを公表](#)

45. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2022年9月7日~9月20日\)](#)

53. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2022年9月5日~9月6日\)](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

矢野経済研究所、国内加工食品市場に関する調査、2021年度の市場規模はメーカー出荷金額ベースで前年度比99.6%の29兆7860億円に

マイライフニュース - 2022/9/28

<https://www.mylifenews.net/data/2022/09/2021996297860.html>

矢野経済研究所は、国内の加工食品市場を調査し、市場規模推移・予測や各カテゴリ別・品目別の動向、将来展望を明らかにした。その結果、コロナ禍の影響による業務用需要の減少を主な背景に、2021年度の国内加工食品市場は減少した。中長期的には、健康食品や高齢者対応食品、個食タイプの商品群、調理済の調理食品などの市場が堅調に推移する見通しとの見解を示す。-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

ボディメイク、備蓄需要で新たな市場開拓へ (特集／雑穀)

健康メディア.com - 2022/9/28

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16688

栄養価の高さやスーパーフードとしての認知度アップにより、ますます注目される雑穀。昨今では「ボディメイク」を目的とした新たな需要も生まれている。もち麦はブームから定着期に突入、おかゆ商品はコロナで自宅療養する人の需要もつかんだ。新品種「フクミファイバー」は、褐変程度の低さや賞味期限の長さを実現、食品ロス削減の観点で注目を集めている。キヌアはグルテンフリーのスーパーフードとして、スポーツ選手の利用が浸透。新たなレシピ開発等も需要増を後押しする。大麦の機能性研究では、Ⅱ型糖尿病患者の血糖値上昇を抑制したとする新たな知見が発表された。-----

イミュンヘルスで脚光、世界市場6億ドル規模へ(特集／β-グルカン)

健康メディア.com - 2022/9/30

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16693

長引く新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大を背景に、免疫機能への関心は引き続き高まっている。特にこれから乾燥時期に突入することで、その意識はより一層高まると予想される。現在、免疫力を高めることを目的としたβ-グルカンの食品利用は世界的に拡大しており、海外調査会社の発表では約4億ドル規模の市場が広がっているとされる。試算では2026年に6億ドル規模に拡大するとされ、“イミュンヘルス”としての引き合いはさらに強くなるという。-----

【寄稿】川崎医科大学 太田博明／女性の健康リスクに対峙するフェムテック・フェムケアへの期待と課題

ウェルネス総研オンライン - 2022/10/3 <https://wellnesslab-report.jp/2461/>

WHO では先進諸国の高齢化の進展により、加齢による健康リスクとなる疾患を「非感染性疾患（Non-Communicable Diseases: NCD）」（1）とし、女性ではエストロゲンの低下を起因とする認知症や骨粗鬆症などを対象疾患としている。しかし、Genitourinary syndrome of menopause（GSM）も加齢と共に進行し、慢性化することから女性の健康リスクを脅かす NCD としての基準を充たしている。-----

「健康投資」という新時代の投資哲学とは —— エイジングケアの鍵となるビタミン性物質「NMN」

[インタビュー] ノルデステ 代表取締役社長 阿部朋孝氏（ZUU Online、2022/10/3）
<https://zuuonline.com/archives/241108>

一昔前なら疑問符つきで語られるしかなかった「若返り」。しかし医療技術が急速な発展を遂げるなか、老化現象を引き起こす原因が解明されつつある。その鍵となる物質が「NMN」（Nicotinamide MoNoncleotide：ニコチンアミド・モノ・ヌクレオチド）だ。一体どのような物質であり、どのような効能／効果が期待できるのか。国内 NMN 市場のパイオニアであるノルデステの代表取締役社長 阿部朋孝氏に、抗老化の最前線を聞いた。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

ロート製薬、ナリス化粧品ベトナム子会社を買収 化粧品需要に対応

VIETJO [ベトジョー] - 22/9/27

<https://www.viet-jo.com/news/nikkei/220926190051.html>

■ 消費者意識等の調査・分

大鵬薬品、「妊活におけるサプリメント」に関する調査、6割以上の妊活経験者が知っていたら乳酸菌を摂取したかったと回答

マイライフニュース - 2022/9/24 <https://www.mylifenews.net/data/2022/09/6-9.html>

大鵬薬品工業（以下、大鵬薬品）は、妊活経験のある20代～40代女性を対象に「妊活におけるサプリメント」に関する調査を実施した。その結果、6割以上の妊活経験者が知っていたら乳酸菌を摂取したかったと回答した。-----

タニタ、人生100年時代の健康とフレイルに関する調査、"フレイル"の認知率は4割強で55歳未満では3割に満たない結果に

マイライフニュース - 2022/9/27

<https://www.mylifenews.net/data/2022/09/1004553.html>

健康総合企業のタニタは、「人生100年時代の健康とフレイルに関する調査」を実施した。同調査で特徴的だったのは、理想の健康寿命と統計上の健康寿命に男性12.87歳、女性11.61歳と大きく隔たりがあることが分かったこと。健康寿命に影響するといわれている“フレイル”の認知率は全体で4割強、55歳未満では3割を下回った。健康寿命の延伸にはフレイルの予防が重要だが、フレイルの認知が低いという実態が明らかになった。-----

矢野経済研究所、健康意識と食品消費行動に関する消費者アンケート調査、女性若年層の約4割は自身のBMI値と体形認識に齟齬あり

マイライフニュース - 2022/9/30 <https://www.mylifenews.net/data/2022/09/4bmi.html>

矢野経済研究所は、消費者アンケート調査を実施し、AI（機械学習）による分析や多変量解析を用いて、消費者の健康意識と食品消費行動の関係などを明らかにした。その結果、女性若年層の約4割は自身のBMI値と体形認識に齟齬があり、そのうち「実際より肥満傾向と認識」が約9割を占める。低体重の女性若年層には、健康のためにカロリーも意識した栄養摂取を心がけるように働きかける必要があることがわかった。-----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

セラミドのヒト脳内アミロイドβ蓄積抑制効果のメカニズムを解析 こんにやく由来セラミドに特長的な構造がエクソソーム放出の鍵に

～International Journal of Molecular Sciences 誌で発表～

株式会社ダイセル - 2022/9/27

<https://www.daicel.com/news/assets/pdf/20220927.pdf>

株式会社ダイセル(本社：大阪市北区)は、国立大学法人北海道大学(北海道札幌市)との共同研究において、ヒト脳内のアミロイドβ蓄積抑制効果に関係する神経由来エクソソームの放出誘導効果が植物由来セラミドの構造によって異なることを明らかにいたしました。

本研究結果は、2022年9月15日に、スイスの分子科学誌である International Journal of Molecular Sciences 誌のオンライン版で公開されました。-----

【共同研究成果】プロポリスが腸内細菌叢の乱れを改善してサルコペニア肥満を予防するメカニズムを解明

株式会社メタジェン - 2022/9/29 <https://metagen.co.jp/news/2022/09/01243.html>

株式会社メタジェンは、京都府立医科大学大学院医学研究科 内分泌代謝内科学 病院助教 岡村 拓郎、講師 濱口 真英、教授 福井 道明らおよび株式会社山田養蜂場の研究グループと共同研究を行い、プロポリスが腸内環境を介してサルコペニア肥満を改善するメカニズムを解明しました。その研究成果が科学雑誌「Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle」に2022年9月26日付で掲載されました。-----

食物繊維は「量」より「種類数」が健康に重要！腸内細菌の研究を行う AuB、「日本スポーツ栄養学会 第8回大会」で研究結果を発表

AuB 株式会社 - 2022/9/30 <https://aub.co.jp/archives/4404>

理想的な腸内環境を追求し、腸内細菌の研究をベースに腸ケア商品を開発・展開する AuB（オーブ）株式会社（本社：東京都中央区 代表：鈴木啓太）は、食物繊維の「量」より「種類の多さ（種類数）」が健康にとって重要であることを、腸内環境の研究結果から導き出しました。-----

【ファンケル×キリン】「紅茶クリーム由来成分」が長寿遺伝子サーチュイン3の増加に関与 “メラノサイトが正常機能を取り戻す” というシミへの新たなアプローチ

— 株式会社ファンケルとキリンホールディングス株式会社の共同研究成果 —

株式会社ファンケル - 2022/9/29

https://www.fancl.jp/news/20220011/news_20220011.html

株式会社ファンケル（本社：神奈川県横浜市／代表取締役社長 CEO 島田和幸 以降ファンケルと表記）は、キリンホールディングス株式会社（本社：東京都中野区／代表取締役社長 磯崎功典 以降キリンと表記）と2019年の資本業務提携を契機にさまざまな共同研究を進めています。

ファンケルは、紫外線などによりメラノサイト(1)が酸化ダメージを受けて活性化することが、シミ発生の大きな要因であることに着目し、長寿遺伝子(2)の一種で、高い抗酸化力を持つサーチュイン3(3)について研究を進めてきました。その結果、サーチュイン3がメラノサ

イトの過剰な活性化を抑えること、さらに、キリンから提供された「紅茶クリーム由来成分（4）」が、サーチュイン3を増やしてメラノサイトの正常機能を取り戻すという新たなシミへのアプローチとして有用であることを発見しましたのでお知らせします。なお、本研究成果は、第40回 日本美容皮膚科学会（2022年8月6日から7日 於：東京）で発表しました。-----

機能性表示食品「キリン βラクトリン」を活用した記憶力^{※1}対策の新習慣「キリン 脳ケアチャレンジ！」アンケート結果を発表

～“まちの健康研究所”「あ・し・た」（柏の葉スマートシティ）・「浜名湖エデンの園」で実施～

キリンホールディングス株式会社 - 2022/9/30

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2022/0930_02.html

キリンビバレッジ株式会社（所在：東京都中野区、代表取締役社長 吉村透留）は、“脳の健康習慣化”に向けた「キリン 脳ケアチャレンジ！」を、三井不動産株式会社（所在：東京都中央区、代表取締役社長 菰田正信、以下三井不動産）が運営する「柏の葉スマートシティ」の‘まちの健康研究所‘‘あ・し・た」^{※2}（千葉県柏市）で4月から5月にかけて、社会福祉法人聖隷福祉事業団（理事長 青木善治）が運営する有料老人ホーム「浜名湖エデンの園」（静岡県浜松市）で5月から8月にかけて^{※3}実施しました。今回、両取り組みに関するアンケート結果を発表します。

※1 手がかりをもとに思い出す力

※2 「あるく・しゃべる・たべる」で健康なあしたをつくるヘルスケアの最先端が集まる参加型の健康づくり拠点

※3 キリンホールディングス株式会社が静岡県浜松市で参画している「浜松ウエルネス・ラボ」の社会実証事業として、当社が実施したもの

<最新研究報告> 身体心理学者・山口 創先生との共同研究により フルーツグラノーラで幸せホルモン分泌上昇が判明

朝食のフルーツグラノーラ摂取が、幸せな気持ちで一日のスタートを切るために有効

カルビーオーツ麦 PR 事務局 - 2022/9/29 <https://www.atpress.ne.jp/news/327995>

カルビー株式会社(本社：東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO：伊藤 秀二)は、身体心理学者で幸せホルモン(オキシトシン)研究の第一人者である、桜美林大学・山口 創教授と、朝食主食摂取によるオキシトシン分泌の影響について共同研究を実施しました。その結果、朝食にフルーツグラノーラを摂取することで、オキシトシンの分泌が上昇されることを確認しました。-----

皮膚の感覚神経がメラニン産生を促進、シミ形成に影響 東京大学とポーラが解明

大学ジャーナルオンライン - 2022/9/29 <https://univ-journal.jp/185930/>

東京大学生産技術研究所の池内与志穂准教授、周小余特任研究者らとポーラ化成工業株式会社の合同チームは、感覚神経と色素細胞（メラノサイト）の関係に着目した研究を行い、感覚神経がメラノサイトの働きを活性化させることを突き止めた。-----

睡眠に関わるたんぱく質リン酸化酵素の働きを解明 ー入眠の促進と目覚めの抑制を異なる状態で制御ー

科学技術振興機構

東京大学

理化学研究所 - 2022/10/5 https://www.riken.jp/press/2022/20221005_1/index.html

JST 戦略的創造研究推進事業において、東京大学大学院医学系研究科機能生物学専攻システムズ薬理学分野の上田泰己教授（理化学研究所 生命機能科学研究センター合成生物学研究チームチームリーダー兼任）、戸根大輔助教、大出晃士講師、張千恵氏（博士課程4年（研究当時））らは、神経細胞で働く主要なたんぱく質リン酸化酵素 CaMKII β が、睡眠時間を延長する仕組みとして、入眠の促進と目覚めの抑制という異なるステップの両方で作用することを明らかにしました。-----

L-メントール、高強度ランニング運動の息苦しさ緩和で運動持続時間を延長ー東北大

QLifePro 医療ニュース - 2022/9/29

<http://www.qlifepro.com/news/20220929/l-menthol.html>

暑くない環境下／エリートランナー、L-メントールが運動能力改善に役立つかを実験的に検証

東北大学は9月28日、高強度ランニング運動におけるL-メントールの飲用が運動中の息苦しさを緩和し、持久運動能力を伸ばすことを初めて実験的に明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医工学研究科の永富教授、堤佳子大学院生、門間陽樹大学院生、海老原覚大学院生らの研究グループによるもの。研究成果は、「European Journal of Sport Science」に掲載されている。-----

東北大学 プレスリリース

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2022/09/press20220928-01-menthol.html>

老化関連 T 細胞が慢性炎症や自己抗体産生を引き起こすメカニズムを解明—京大

QLifePro 医療ニュース - 2022/9/29 <http://www qlifepro.com/news/20220929/sa-t.html>

老化関連疾患の発症に関わる「免疫老化」のメカニズムの全容は不明

京都大学は9月22日、SA-T細胞が慢性炎症や自己抗体の産生を引き起こすメカニズムを解明し、それを人為的に阻害することにより免疫老化や自己免疫疾患を抑制できることを、動物モデルで明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学研究科の福島祐二特定助教、服部雅一特定教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Cell Reports」にオンライン掲載されている。-----

京都大学 最新の研究成果を知る

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2022-09-22-1>

日本人腸内のバクテリオファージ、大規模データから全貌を明らかに—早大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/10/3

<http://www qlifepro.com/news/20221003/gut-virome-variation.html>

ヒト腸内のファージの多様性や生態系は未知の部分が多い「ダークマター」

早稲田大学は9月30日、Japanese 4D (Disease, Drug, Diet, Daily life) マイクロバイオームコホートの大規模データを用いた解析から、腸内に生息する膨大な数のバクテリオファージ（細菌に感染するウイルス）を網羅的に同定し、新規ファージグループを発見し全貌を解明、また、腸内ファージコミュニティに影響を与える宿主・環境因子を多数発見したと発表した。この研究は、同大ナノ・ライフ創新研究機構の西嶋傑次席研究員（現：欧州分子生物学研究所）、理工学術院の木口悠也博士課程学生（現：東京大学）、服部正平教授（現：東京大学名誉教授）、東京医科大学消化器内視鏡学分野の永田尚義准教授、河合隆教授、国立国際医療研究センター消化器内科の小島康志医長、糖尿病研究センターの植木浩二郎センター長、感染症制御研究部の秋山徹特任研究部長、上村直実国府台病院名誉院長らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Communications」にオンライン掲載されている。-----

早稲田大学 topic <https://www.waseda.jp/top/news/83864>

愛情ホルモンが脂肪組織の熱産生を増加させる神経路をラットで発見、名大

マイナビニュース - 2022/9/22

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220922-2460833/>

以下の5件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年9月23日～10月7日）から選定したものです。

ハーブサプリメントで有意な降圧効果を得られるか？ システマティックレビューとメタ解析

<https://sndj-web.jp/news/001973.php> (2022/9/26)

血圧に対するハーブサプリメントの影響のメタ解析の結果が報告された。収縮期血圧の有意な低下が確認されたという。-----

大豆製品やイソフラボン摂取は、一部の条件を除いて、認知症リスクと関連なし

<https://sndj-web.jp/news/001975.php> (2022/9/28)

日本人対象の研究から、大豆製品やイソフラボンの摂取量と認知症リスクとの間に、有意な関連はないとするデータが報告された。ただし、個別にみると、60歳未満の女性では納豆摂取が多いグループで認知症リスクが低下する傾向があったという。国立がん研究センター 予防研究グループの研究によるもので、研究の成果が「European Journal of Nutrition」に論文掲載されるとともに、同センターのサイトにニュースリリースが掲載された。-----

オメガ3 多価不飽和脂肪酸と運動で高齢者のがんリスク低下の可能性 ビタミンD 追加群はより低いハザード比に

<https://sndj-web.jp/news/001977.php> (2022/10/2)

オメガ3 多価不飽和脂肪酸 (ω 3 polyunsaturated fatty acids ; ω 3PUFA) の摂取と家庭内で実施可能な運動によって、高齢者の浸潤がんのリスクが低下する可能性が、無作為化比較試験の結果として報告された。ビタミンD を上乗せした場合には、浸潤がん罹患のハザード比がより低下していた。-----

ビタミンD 代謝物、遊離型ビタミンD のレベルがアスリートの身体能力と有意に関連

<https://sndj-web.jp/news/001979.php> (2022/10/3)

柔道選手とサッカー選手を対象とする研究で、ビタミンD代謝物や遊離型ビタミンDのレベルが身体能力と有意に関連しているとする研究結果が報告された。屋内競技である柔道選手で、その関連がより強く観察されたようだ。-----

食事ガイドラインは超加工食品をどのように扱っているのか？ 119 国 106 種類の食事ガイドラインを分析

<https://sndj-web.jp/news/001986.php> (2022/10/6)

超加工食品の摂取による健康への悪影響を指摘するエビデンスが増えているにもかかわらず、世界各国で使用されている食事関連ガイドラインの大半はいまだ栄養素ベースの推奨にとどまり食品ベースの推奨は少なく、よって超加工食品の摂取を避けることを明確に記したガイドラインが少ないとする研究結果が、オーストラリアの研究者らにより報告された。-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

発酵槽で作るパーム油代替油脂、実用化に向け世界トップレベルの生産量を実現

MONOist - 2022/10/5 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2210/05/news063.html>

NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）と不二製油グループ本社、新潟薬科大学の3者は2022年10月4日、オンラインで会見を開き、油脂酵母を用いたパーム油の代替油脂の生産において、培養液1L（リットル）当たり98gという世界トップレベルの生産量を6日間で実現したと発表した。培養液1L当たり100gの代替油脂の生産を4日間で実現する2026年度の最終目標の達成に大きく近づく成果であり、不二製油グループ本社では早ければ2030年にもパーム油の一部について油脂酵母による代替生産を始めたい考えた。----

【研究報告】おいしいポテトサラダの秘密を解明

ポテトサラダのふんわり感と調和感はじゃがいもとマヨネーズの混ざり具合がポイント

キューピー株式会社 - 2022/9/30 <https://www.kewpie.com/newsrelease/2022/2731/>

キューピー株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長執行役員：高宮 満、以下キューピー）は、惣菜の製造を手掛けるグループ会社のデリア食品株式会社（本社：東京都調布市、代表取締役社長：竹中 成人、以下デリア食品）とともにポテトサラダのおいしさについて研究を進めています。この度、じゃがいもとマヨネーズソースの混合時に程よくじゃ

がいもをつぶすことで、ポテトサラダのふんわり感（口当たりの軽さ）と調和感（じゃがいもとマヨネーズの味の一体感）が向上してよりおいしくなることが分かりました※1。

※1 9月2日～9月3日に開催された、一般社団法人 日本調理科学会 2022年度大会（オンライン形式）で発表しました。

コオロギの代替肉。昆虫食のスタートアップ企業フエゴインターナショナルと日本大学が、共同で食用コオロギたんぱくの肉様素材化に成功 食品ロスを利用して養殖したコオロギから生まれた代替肉

フエゴインターナショナル株式会社 - 2022/9/27

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000007.000086027.html>

国内で食用コオロギの養殖、食品製造などを行うフエゴインターナショナル株式会社（千葉県睦沢町、代表取締役：村山敏弘）と日本大学生産工学部（千葉県習志野市、教授：五十部誠一郎）は食用コオロギを脱脂処理せず乾燥粉末化したコオロギたんぱくと大豆たんぱくを原料に、エクストルーダー処理をした新たな代替肉として肉様組織化成功にしました。---

アラヤ、学習不要で食品中の毛髪混入検査が可能なソフトを提供開始

IoTNEWS - 2022/9/27 <https://iotnews.jp/archives/206065>

株式会社アラヤは、食品製造の現場において、従来の検査機では検出が難しかった「毛髪混入」に対応できる外観検査 AI ソフト「InspectAI」を提供している。しかし、これまでは製品ごとに AI を学習させる必要があったため、事前検証や導入に時間を要していた。-----

発がん性物質を検知する AI モデル開発→メルファラン、サルファーマスタード等を予測 インド

サイエンスポータルアジアパシフィック - 2022/9/29

https://spap.jst.go.jp/india/news/220905/topic_ni_01.html

■ その他の科学・技術情報

花王、プレシジョン・モニタリングをはじめて実用化 皮脂 RNA モニタリングを活用した肌解析サービスを導入

花王株式会社 - 2022/10/4

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/rd/2022/20221004-002/>

花王株式会社（社長・長谷部佳宏）は、健康課題に対し、その原因を精確に同定し（プレジジョン・モニタリング）、さまざまな角度からの確かなソリューション提案を行なう「プレジジョン・ライフケア」構想を進めています。今般化粧品分野において、このプレジジョン・モニタリングを具現化。核となる皮脂 RNA モニタリング技術*1 を活用し、今の肌の状態を精緻に把握するサービス「Skin Potential Analysis（スキんポテンシャルアナリシス）」として、2022年11月よりお客さまへの提供を開始します。これにより、個人が今の自分の状態を知り、必要なケアを的確に見つけることができる提案をめざしていきます。

*1 2019年6月4日 花王ニュースリリース

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/rd/2019/20190604-001/>

皮脂中に人の RNA が存在することを発見 独自の解析技術「RNA Monitoring（RNA モニタリング）」を開発

腸における栄養吸収の可視化に成功、モデル生物でー東北大

QLifePro 医療ニュース - 2022/9/26

<http://www.qlifepro.com/news/20220926/taylor-dispersion.html>

腸内における栄養の取り込みと流動の関係は明らかにされていなかった
東北大学は9月21日、モデル生物である線虫（C. elegans）を用いて、排便モータープログラム（DMP）による腸内の流動と腸壁からのグルコース吸収について、流体力学ではよく知られた「Taylor分散」によって腸内で栄養物質が攪拌され、腸壁での栄養吸収を助長していることを発見したと発表した。この研究は、同大大学院工学研究科の鈴木雄貴博士（研究当時、後期博士課程在籍）、菊地謙次准教授、同大大学院医工学研究科の沼山恵子准教授、石川拓司教授の研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」に掲載されている。-----

東北大学 プレスリリース

<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2022/09/press20220922-03-dmp.html>

オキシトシンをマウス脳内でリアルタイムに可視化するセンサー開発に成功ー阪大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/9/28

<http://www.qlifepro.com/news/20220928/fluorescent-sensor-oxytocin-dynamics.html>

生きた脳内からオキシトシンを直接測る新技術の開発が求められていた

大阪大学は9月23日、神経ペプチド「オキシトシン」を生きた動物の脳内から計測するための技術開発に成功したと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科の稲生大輔特任講師（常勤）、日比野浩教授（統合薬理学）、金沢大学医薬保健研究域医学系の西山正章

教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Methods」にオンライン掲載されている。-----

大阪大学大学院医学系研究科 主要研究成果

<https://www.med.osaka-u.ac.jp/activities/results/2022year/hibino2022-9-23>

老化関連 T 細胞が慢性炎症や自己抗体産生を引き起こすメカニズムを解明—京大

QLifePro 医療ニュース - 2022/9/29 <http://www qlifepro.com/news/20220929/sa-t.html>

老化関連疾患の発症に関わる「免疫老化」のメカニズムの全容は不明

京都大学は9月22日、SA-T細胞が慢性炎症や自己抗体の産生を引き起こすメカニズムを解明し、それを人為的に阻害することにより免疫老化や自己免疫疾患を抑制できることを、動物モデルで明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院医学研究科の福島祐二特定助教、服部雅一特定教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Cell Reports」にオンライン掲載されている。-----

「思い出せないこと」と「忘れること」の違いを遺伝子レベルで解明 九大

財経新聞 - 2022/9/29 <https://www.zaikei.co.jp/article/20220929/691347.html>

九州大学は28日、線虫を使った実験によって、記憶自体はあるが思い出せないことと、記憶自体が消去され忘れることの違いを遺伝子レベルで解明したと発表した。今回の研究成果は、認知症やPTSD（心的外傷後ストレス障害）などのより深い理解につながる可能性があるという。-----

■ その他

知りたい栄養成分情報をリアルタイムで得られる Glico「栄養成分ナビ」 使いやすく、見やすくなり、26年ぶりの大リニューアル 新たに糖質量の自動計算機能が追加され、適正糖質※の実践を推進します

江崎グリコ株式会社 - 2022/10/3

<https://www.glico.com/jp/newscenter/pressrelease/41141/>

江崎グリコ株式会社は、2022年10月3日（月）より、食品の知りたい栄養成分情報をリアルタイムで得られるサイト「栄養成分ナビゲーター」を、公開から26年ぶりに大幅リニューアルします。-----

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022年10月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております（民間の情報源には了承を確認した上で転載）。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

令和4年10月24日薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会新開発食品調査部会新開発食品評価調査会指定成分等含有食品等との関連が疑われる健康被害情報への対応ワーキンググループ（第3回）資料（非公開）

厚生労働省 - 2022年10月21日 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_28702.html

食品表示基準の一部改正案に関する意見募集について

消費者庁 - 2022/10/13 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/030517/>

2.一部改正案の概要

- (1) アレルギー原因物質を含む食品である「くるみ」については、現在、表示を推奨する品目としているが、即時型食物アレルギーによる健康被害に関する全国実態調査の結果等から表示が必要との方針を得たため、アレルギー表示の対象品目である特定原材料として「くるみ」を追加することとする。
- (2) 今後、厚生労働省による安全性審査を経て、エイコサペンタエン酸(EPA)及びドコサヘキサエン酸(DHA)を産生させるために遺伝子組換えが行われたなたねに由来する食品が国内に流通することが見込まれることから、遺伝子組換え表示制度における特定遺伝子組換え農産物としての表示の対象に当該なたねを追加することとする。

10月13日付け食品安全情報 blog2 上の注目コンテンツ

食品安全情報 blog2 - 2022/10/13

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/10/13/180049>

興味深いコンテンツが多数ありましたので、見出しの一部をご紹介します。

[WHO] 炭水化物摂取に関する WHO ガイダンス案へのパブリックコメント募集のためのイベント

[WHO] 海藻のための食品安全に関する専門家会合報告書：現状と今後の展望

[Codex] プレスリリース

-コーデックススパイス・料理用ハーブ部会：産業界と消費者にとって変化のきっかけ

論文

-Nature エディトリアル

食事と健康を関連付ける研究は何もかももっと良くならなければならない

-遺伝的リスク要因は健康生命年に相当な影響がある

■ 安全性関連情報

[EFSA]食品中のニトロソアミンについてのパブリックコメント募集：意見案の説明

食品安全情報 blog2 - 2022/10/14 *(14日分の2番目の見出しです)*

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/10/14/182509>

食品安全情報（化学物質）No. 21/ 2022（2022. 10. 12）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202221c.pdf>

以下の3件が注目記事として挙げられていました。

【FAO】 海藻のための食品安全に関する専門家会合報告書：現状と今後の展望

【FSANZ】 食品添加物としての二酸化チタンのレビュー

【TGA】 ビタミン B6(ピリドキシン)サプリメントによる末梢神経障害

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

連鎖販売業者【日本アムウェイ合同会社】に対する行政処分について

消費者庁 - 2022/10/14 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/030531/>

■ 行政・法令関連情報（その他）

健康日本 21（第二次）最終評価報告書を公表します

厚生労働省 - 2022/10/12 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_28410.html

厚生労働省では、生活習慣病やその原因となる生活習慣の改善等に関する課題について目標等を選定し、国民が主体的に取り組める新たな国民健康づくり対策として「21 世紀における国民健康づくり運動（健康日本 21）」を推進しています。

平成 25 年から開始した「健康日本 21（第二次）」については、目標設定後 10 年を目途に最終評価を行うこととされていることを踏まえ、令和 3 年 6 月から「厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会」及び「健康日本 21（第二次）推進専門委員会」において、「健康日本 21（第二次）」の最終評価を行い、その報告書を取りまとめたので、概要と全文を公表します。-----

第 102 回コーデックス連絡協議会(開催案内)

厚生労働省 - 2022/10/12 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_28338.html

厚生労働省、消費者庁及び農林水産省は、令和4年11月2日（水曜日）に、コーデックス委員会における活動状況の報告と検討議題に関する意見交換を行うため、「第102回コーデックス連絡協議会」を開催します。なお、ウェブ上での傍聴を受け付けます。

「食から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2022」を開催！ ～六本木ヒルズで、Z世代と「食の未来」を考える～

農林水産省 - 2022/10/14 <https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/anpo/221014.html>

農林水産省では、令和3年度から、食と農のつながりの深化に着目した国民運動「食から日本を考える。ニッポンフードシフト」を実施しています。

10月29日（土曜日）・30日（日曜日）の2日間、六本木ヒルズアリーナにおいて、農林漁業者・食品事業者及び消費者が、日本の食が抱える課題や目指す未来について、ともに考えるきっかけとするイベント「食から日本を考える。NIPPON FOOD SHIFT FES.東京 2022」を開催します。-----

■ 海外公的機関情報

タイ保健省、食品添加物の使用基準の改定案について意見公募（タイ）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/10/19

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/10/3ecb666c454b21fd.html>

以下の6件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/10/19 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

14. [英国食品基準庁\(FSA\)、技術報告書「食用昆虫に関するリスクプロファイル」を公表](#)

19. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、加工食品に含有される汚染物質としての3-MCPDに関するレビューの科学誌掲載を公表](#)

21. [フランス食品環境労働衛生安全庁\(ANSES\)、カフェインの有害影響を回避するためのアドバイスを公表](#)

[37. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、食品ラベルの「健康的な」という強調表示の定義更新を提案](#)

[38. オーストラリア・ニュージーランド食品基準機関\(FSANZ\)、食品添加物としての二酸化チタンの安全性に関するレビューを公表](#)

[40. 米国食品医薬品庁\(FDA\)、色素添加物証明書免除リストにある炭酸カルシウムに関する改正について公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

[機能性表示食品の 2022 秋・冬トレンド、トクホから機能性表示食品へ需要がシフトし拡大傾向](#)

ダイヤモンド・チェーンストア・オンライン - 2022/10/24

<https://diamond-rm.net/sales-promotion/232690/>

2020 年の新型コロナウイルスの感染拡大以降、生活者の健康意識が高まったことで健康・機能性を訴求する商品の需要が拡大。2 年以上が経過した現在もその傾向は続いている。今回は機能性表示食品とたんぱく補給食品の 2 つのカテゴリーと、注目店舗の特徴的な売場を取り上げる。-----

[矢野経済研究所、食品通販市場に関する調査、2021 年度は前年度比 2.9%増の 4 兆 4434 億円に](#)

マイライフニュース - 2022/10/7

<https://www.mylifenews.net/data/2022/10/20212944434.html>

矢野経済研究所は、2022 年度の国内食品通販市場を調査し、市場動向、参入企業動向、将来展望を明らかにした。その結果、2021 年度の食品通販市場は前年度比 2.9%増の 4 兆 4434 億円に達した。コロナ禍の継続で食品通販に対する需要は高止まりが続き、続伸している。-----

[富士経済、美容・健康関連商品に用いられる機能性素材の調査、ヘルスケア領域の注目訴求分野とブレイクが期待される注目素材とは](#)

マイライフニュース - 2022/10/14

<https://www.mylifenews.net/data/2022/10/post-131.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、美容・健康関連商品に用いられる機能性素材を調査し、今後成長が期待される訴求分野と素材を予想した。その結果を「ヘルスケア領域における注目訴求分野とブレイクが期待される機能性素材」にまとめた。消費者ニーズの高いヘルスケア領域の注目訴求分野とブレイクが期待される注目素材を調査している。-----

矢野経済研究所、介護食・高齢者食・病者食の市場に関する調査、加工食品、調理品ともに今後も堅調に拡大の見通し

マイライフニュース - 2022/10/19

<https://www.mylifeneews.net/data/2022/10/post-132.html>

矢野経済研究所は、国内の介護食、高齢者食、病者食の加工食品市場、調理品（病院や施設の給食、弁当等の配食サービス）市場を調査し、セグメント別の動向、参入企業動向、将来展望を明らかにした。その結果、介護食、高齢者食、病者食の市場規模は加工食品、調理品ともに今後も堅調に拡大の見通しとなった。高齢化、単身化、生活習慣病が市場の追い風になっていることがわかった。-----

富士経済、菓子・スナック菓子・スープ類 育児用食品の国内市場調査、グミキャンディ市場の2023年予測は2022年見込比4.4%増の587億円に

マイライフニュース - 2022/10/21

<https://www.mylifeneews.net/data/2022/10/-2023202244587.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、加工食品（27 カテゴリー403品目）のうち、グミキャンディやポテトチップス、フリーズドライみそ汁、育児用液体ミルクを始めとする菓子、スナック菓子、スープ類、育児用食品の4 カテゴリー56品目の市場を「2023年食品マーケティング便覧 No.1」にまとめた。その結果、グミキャンディ市場の2023年予測では、食感や形状など豊富な展開、機能性訴求商品の投入で、市場拡大し、587億円（2022年見込比：4.4%増）に達する見込みであることがわかった。-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

トクホの“サラ牛”登場 市場活性に期待感(特集／サラシア属植物)

健康メディア.com - 2022/10/17

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16718

今後の血糖値上昇抑制や糖の吸収抑制で注目を集めるサラシア属植物。今年は外食チェーン初の特定保健用食品が発売された。機能性表示食品では、サプリメント形状のほか、なめ茸や健康茶、粉末飲料など多種多様な商品が受理され、サラシア由来サラシノール・ネオコタラノールを関与成分とした届出は79品(9月26日現在)となった。サプライヤーサイドでは機能性表示対応やサラシノール規格化による差別化提案を加速させている。今年、10周年を迎えたサラシア属植物普及協会は、機能性表示食品の届出支援を行っており、法人会員も増加傾向に。サラシア市場拡大に向けた取り組みを進めている。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

花王とMILIZEが「AI健康可視化ツール」の開発に向けた協業に合意 ー「仮想人体生成モデル」を活用し、健康につながる行動変容を促すー

花王株式会社 - 2022/10/19

<https://www.kao.com/jp/corporate/news/business-finance/2022/20221019-001/>

花王株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長執行役員：長谷部佳宏、以下「花王」）と、株式会社MILIZE（本社：東京都港区、代表取締役社長：田中徹、以下「MILIZE」）は、このたび、MILIZEが開発する予定の「AI健康可視化ツール」に、花王の「仮想人体生成モデル」を活用する、新たな取り組みを行なうことで合意しました。「AI健康可視化ツール」は、いつまでも健康でい続けられるような意識づけを行なうため、その時点での将来の医療費を推計して可視化し、健康につながる行動変容を促すためのツールとして、2023年の提供開始に向けて開発を進めていきます。-----

すき家、ロカボプラス認証を受けた「チキン・お食事サラダ」を含む2 つの「お食事サラダ」を販売

マイライフニュース - 2022/10/13 <https://www.mylifenews.net/food/2022/10/2-63.html>

すき家が展開する牛丼チェーン店「すき家」は、10月5日から、外食業界初となる“ロカボプラス”認証（「一般社団法人食・楽・健康協会」から、外食業界で販売する商品として初めて“ロカボプラス”認証を受けた商品）を受けた「チキン・お食事サラダ」を含む2つの「お食事サラダ」を販売した。-----

産総研と全インドアーユルヴェーダ研究所が研究協力覚書を締結

ーインド伝統医学に最新の分析技術を用い、ストレスや老化の防止に役立つ天然物を探索・評価ー

国立研究開発法人産業技術総合研究所 - 2022/10/7

https://www.aist.go.jp/aist_j/news/pr20221007.html

ポイント

- 産総研とインド AYUSH 省官轄下の全インドアーユルヴェーダ研究所が、研究協力覚書に署名
- アーユルヴェーダの科学的原理に関し、ストレスと老化の防止に焦点を当て、特に植物の生理活性の研究を進める
- 日印の両機関は共同研究を通じ、健康長寿社会の実現に貢献

飲料製造に高度な自動化と品質を、オムロンがキリンテクノシステムに出資

MONOist - 2022/10/19 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2210/19/news057.html>

オムロンは2022年10月18日、キリンビールの子会社である飲料検査機大手のキリンテクノシステム（KTS）に出資すると発表した。キリンビールが保有するKTSの発行済み株式の内60%をオムロンに譲渡し、KTSはオムロンの連結子会社となる。-----

■ 消費者意識等の調査・分析

[29009] 健康によい成分に関するアンケート調査（第5回）

マイボイスコム株式会社

https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=29009

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

血糖値変動のメカニズムに影響 野菜を「噛む」ことが、食後の糖代謝を促す可能性を示唆

10月1日(土)~2日(日)開催の日本咀嚼学会で発表

本日10月17日(月)からオンデマンド配信開始

キューピー株式会社 - 2022/10/17 <https://www.kewpie.com/newsrelease/2022/2747/>

キューピー株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役 社長執行役員：高宮 満、以下キューピー）は、学校法人早稲田大学（総長：田中 愛治）の宮下 政司教授と研究助手・亀本佳世子先生と共同で、“噛むことの大切さ”の啓発と研究に2021年から取り組んでいます。今回、野菜（キャベツ）を「咀嚼して食べる時」と「咀嚼せずに食べる時」の食後における代謝への影響を調べたところ、噛むことで食後の糖代謝を促す可能性が示されまし

た。この研究成果について、2022年10月1日(土)~2日(日)に開催された「日本咀嚼学会第33回学術大会※1」にて発表を行いました。さらに、本日、10月17日(月)から、同発表内容のオンデマンド配信※2が始まります。

※1 「日本咀嚼学会 第33回学術大会」 <https://ichi674.wixsite.com/my-site>

※2 配信期間は、10月17日(月)~10月31日(月)まで。視聴には参加登録が必要です。

日清食品グループが保有する「ビフィズス菌 N61 株」が“認知機能を維持する”ことを発見

日清食品ホールディングス株式会社 - 2022/10/17 <https://www.nissin.com/jp/news/11050>

日清食品ホールディングス株式会社(社長・CEO:安藤 宏基)は、日清食品グループが保有する「ビフィズス菌 N61 株」が、加齢に伴って低下する認知機能を維持することを臨床試験で明らかにしました。-----

中高齢者において血中ドコサヘキサエン酸(DHA)組成が高いほど血管機能が良好である可能性を確認

- 第44回日本臨床栄養学会総会・第43回日本臨床栄養協会総会・第20回大連合大会で発表 -

サントリーウエルネス株式会社 - 2022/10/11

<https://www.suntory.co.jp/news/article/14252.html>

サントリーウエルネス(株)健康科学研究所(所長:中井正晃、京都府相楽郡精華町)は、東北メディカル・メガバンク計画地域住民コホート調査※1をもとに、中高齢者において血中ドコサヘキサエン酸(以下DHA)組成が高いほど血管機能が良好である可能性を確認しました。第44回日本臨床栄養学会総会・第43回日本臨床栄養協会総会・第20回大連合大会(2022年10月7日(金)~9日(日))にて発表しました。-----

食事制限によるダイエット後に「体重リバウンド」を起こすメカニズム解明ー岐阜大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/10/24

<http://www.qlifepro.com/news/20221024/regain-weight.html>

ダイエット後に生じる「体重リバウンド」の機構は明らかにされていなかった

岐阜大学は10月19日、食事制限(ダイエット)後に、体重リバウンドを起こすか否かを決定する脳視床下部の神経機構を発見したと発表した。この研究は、同大医学系研究科客員

教授・関西電力医学研究所統合生理学研究センター長の矢田俊彦らの研究グループによるもの。研究成果は、「Frontiers in Nutrition」オンライン版に掲載されている。-----

岐阜大学 研究・採択情報

<https://www.gifu-u.ac.jp/news/research/2022/10/entry19-11890.html>

ニコチンアミドモノヌクレオチド (NMN)のヒト安全性試験の学術雑誌への掲載について

三菱商事ライフサイエンス - 2022/10/7

https://www.mcls-ltd.com/news/pdf/20221007_01.pdf

三菱商事ライフサイエンス株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：岸本好司、以下「当社」）では、健康機能素材の研究開発を進めています。ニコチンアミドモノヌクレオチド (NMN)の過剰摂取によるヒトでの安全性を確認することを目的とした臨床試験を実施し、この研究成果が学術雑誌 Scientific Reports に掲載されました。当社は、引き続きライフサイエンスの技術の力で世界の人々に生きる喜びと豊かな生活をお届けできるよう努めてまいります。-----

プロテインを飲むタイミング。運動後の「ゴールデンタイム」に飲まないといけない？ (1/7)

MELOS - 2022/10/10 <https://melos.media/wellness/112298/>

「運動後〇分以内にプロテインを飲むのが効果的」という説が一般化していますが、近年、ゴールデンタイムに飲まなくても問題ないという説も聞くようになりました。

とはいえ、ゴールデンタイムに飲むことを推奨するトレーナーやサイトも多く、どちらが本当なのか混乱する声があります。本当のところはどうなのか？ 元ボディビルダーで東京医療保健大学医療保健学部医療栄養学科教授・御堂直樹先生にお話を伺いました。-----

「老化」は早くなったり遅くなったり、治ったりする…遺伝子レベルで見る“老化の本質”【医師が解説】

幻冬舎ゴールドオンライン - 2022/10/7 <https://gentosha-go.com/articles/-/46005>

「老化は治る」。今、医学の常識が一転しつつあります。WHO が 2019 年に採択した「IDC-11（国際疾病分類）」でも、明確に“老化”の概念が盛り込まれました。老化とは万病に共通する驚異的なリスク因子であり、もはや、人類が克服すべき治療対象の疾患と定められているのです。銀座アイグランドクリニック院長・乾雅人医師が、「遺伝子レベルで見る“老化の本質”」を解説します。-----

脂肪由来の物質がインスリンを体内でふやすことを発見～あたらしい糖尿病の治療法開発へ～

国立大学法人 群馬大学 - 2022/10/7 <https://www.gunma-u.ac.jp/information/142331>

群馬大学生体調節研究所の、白川純教授らの研究グループは、横浜市立大学、ハーバード大学医学部ジョスリン糖尿病センター（アメリカ）、アルバータ大学（カナダ）等との共同研究で、脂肪でつくられる物質により、体の中でインスリンをつくる膵β（ベータ）細胞を増殖させ、インスリンをふやすことを明らかにしました。-----

血中ビタミンD 欠乏、将来的なサルコペニア罹患率上昇と関連の可能性ー長寿研ほか

QlifePro 医療ニュース - 2022/10/20

<http://www qlifepro.com/news/20221020/nils-lsa.html>

血中ビタミンD 量低値者、4年後の筋力変化や筋量変化・新規サルコペニア発生数など検討

名古屋大学は10月18日、血中ビタミンD量が不足している者は将来的なサルコペニア罹患率が上昇すること、筋線維内ビタミンDシグナル伝達の低下が筋力低下と直接的に関連していることなどを、「NILS-LSA（国立長寿医療研究センター・老化に関する長期縦断疫学研究）」の縦断解析および、ビタミンD受容体を成熟した筋線維で欠損させた遺伝子組換えマウスを用いた基礎研究により明らかにしたと発表した。この研究は、国立長寿医療研究センター運動器疾患研究部の細山徹副部長、名古屋大学大学院医学系研究科整形外科学の水野隆文医員を代表とする研究グループと、国立長寿医療研究センター老化疫学研究部、名古屋学芸大学、東京大学、松本歯科大学、医療創生大学との共同研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Cachexia, Sarcopenia and Muscle」に掲載されている。-----

名古屋大学 プレスリリース

https://www.med.nagoya-u.ac.jp/medical_J/research/pdf/Jou_221018.pdf

糖尿病、インスリン作用低下が筋肉老化・全身寿命に及ぼす影響を明らかにー東大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/10/11 <http://www qlifepro.com/news/20221011/akt.html>

糖尿病で多いサルコペニア、筋肉特異的Akt欠損マウスを樹立し詳しい仕組みを解析
東京大学医学部附属病院は10月5日、インスリンシグナルの鍵分子Aktを筋肉のみで欠損させ、インスリン作用を低下させたマウスを樹立・解析した結果を発表した。この研究は、

国立国際医療研究センター研究所糖尿病研究センターの植木浩二郎センター長（東京大学大学院医学系研究科分子糖尿病学連携教授）、東京大学の門脇孝名誉教授（現・虎ノ門病院院長）、山内敏正教授、笹子敬洋助教らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nature Communications」に掲載されている。-----

東京大学医学部附属病院 プレスリリース

<https://www.h.u-tokyo.ac.jp/press/20221005-1.html>

尿中の鉄（フェリチン）と亜鉛の量がアスリートの競技パフォーマンスと関連することを確認

— 慶應義塾体育会競走部の「パーソナルワン」による栄養サポート研究 —

株式会社ファンケル - 2022/10/13

https://www.fancl.jp/news/20220017/news_20220017.html

株式会社ファンケルは、食習慣・生活習慣に関するWebアンケートと、尿中の微量栄養素 1)の分析結果から、最適な栄養素をサプリメントとしてお届けするサービスとして「パーソナルワン」を提供しています。2021年度に実施した慶應義塾大学SFC研究所（神奈川県藤沢市、所長：飯盛義徳）との共同研究 2)において、「パーソナルワン」を活用し、慶應義塾体育会競走部長距離ブロック選手の栄養状態と競技パフォーマンスの関連性を調査しました。その結果、10000メートル走の記録が速い選手ほど、尿中の鉄（フェリチン 3)）と亜鉛の量が他の選手に比べて多い傾向にあることが分かり、アスリートのコンディショニング 4)に非侵襲的 5)な尿検査を活用できる可能性を見いだしましたので、お知らせします。

なお、本研究は、2022年9月に開催された日本スポーツ栄養学会第8回大会（於：神奈川県相模原市）で報告しました。-----

腸内細菌が作るフェネチルアミンが末梢セロトニン産生を促進 骨粗しょう症や過敏性腸症候群の治療法開発への応用に期待

大学プレスセンター - 2022/10/19 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-49225.html>

近畿大学生物理工学部（和歌山県紀の川市）食品安全工学科准教授 栗原 新、群馬大学食健康科学教育研究センター（群馬県前橋市）助教 杉山 友太、金沢大学新学術創成研究機構（石川県金沢市）教授 岡本 成史を中心とする研究グループは、石川県立大学、京都大学と共同で腸内細菌により作り出された芳香族アミン※1 の一種である「フェネチルアミン※2」という化合物が、宿主の腸内でセロトニンの産出を促進していることを明らかにしました。本研究は、セロトニンの過剰産出が原因で発症する、骨粗しょう症や過敏性腸症候群の新たな治療法開発に応用できることが期待されます。

本件に関する論文が、令和4年（2022年）10月11日（火）に、腸内細菌叢や消化管関連の学術誌"Gut Microbes"にオンライン掲載されました。-----

角層細胞に刻まれた皮膚生理情報を解読する A I 技術の開発に成功 新カウンセリングサービス「A I パーソナル角層解析」にも応用

株式会社ファンケル - 2022/10/20

https://www.fancl.jp/news/20220021/news_20220021.html

株式会社ファンケルは、皮膚表面にある角層細胞の「かたち」と「タンパク質」を認識・推定する A I モデルを新たに開発し、数理モデルと組み合わせて解析することにより、1 枚の角層画像から、皮膚のさまざまな生理状態を評価する新たな A I 技術の開発に成功しましたのでお知らせします。

本成果は、2022 年 7 月に行われた第 25 回画像の認識・理解シンポジウム（MIRU 2022 姫路）、および 2022 年 9 月に行われた第 32 回国際化粧品技術者連盟 学術大会（IFS CC2022 ロンドン）にて発表しました。

また、同技術の一部は、従来当社が提供していた「角層バイオマーカー解析」を進化させ、無償サービスとして生まれ変わった日本初（※）のカウンセリングサービス「A I パーソナル角層解析」に応用しています。同サービスは、9 月 16 日（金）から全直営店舗で開始しています。

（※）角層細胞を A I で解析するカウンセリングサービス（2022 年 9 月時点）。当社調べ

資生堂、毛細血管が表皮再生を促していることを発見

～本柚子果実抽出液が毛細血管と表皮の距離を正常化する～

資生堂 - 2022/10/13 <https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003494>

資生堂は、真皮の毛細血管の外側に接着しているペリサイト※1 が毛細血管のループ構造上から表皮側に移動し、表皮幹細胞様に変化することで表皮の再生を促している可能性を世界で初めて発見しました(図 1)。また、加齢に伴って表皮に向かって伸びる毛細血管のループ構造の方向にばらつきが生じ、毛細血管と表皮の距離が離れてしまうことを見出しました(図 2、4)。-----これらの成果の一部は「第 47 回日本研究皮膚科学会」(2022/12/2-4)、
「第 30 回日本血管生物医学会」(2022/12/16-17)にて発表する予定です。-----

資生堂、細胞接着分子 E-カドヘリンがシミの発生・定着に関与することを発見 ～メラノサイトの 4D 動的解析にも成功、シミの予防・根本改善へ新たな一歩～

株式会社資生堂 - 2022/10/13

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003497>

資生堂は、細胞同士を接着させる分子である E-カドヘリンがシミ部位で減少していることを発見し、E-カドヘリン減少環境下にあるメラノサイトの動きを 3 次元かつリアルタイムに解析すること(4D 動的解析)に成功しました。そして、肌の E-カドヘリンの減少が、悪影響因子の分泌によるメラノサイトの活性化、メラニンの過剰生成、メラノサイトの停滞、メラニン取り込みといった、シミ部位特有にみられる様々な肌内部の悪化現象を引き起こす根源の一端であることを突き止めました(図 1, 2)。また、バラ科植物エキスに、E-カドヘリンの発現を高める効果があることを見出しています。減少した E-カドヘリンを正常化することで、シミの発生・定着の予防および根本的な改善へのアプローチが期待されます。今回の研究成果の一部は、「第 32 回国際化粧品技術者会連盟 (IFSCC※) ロンドン大会 2022」(2022/9/19-22)にて口頭発表し、今後「第 31 回日本色素細胞学会学術大会」(2022/11/12-13)にて発表予定です。-----

資生堂、ヒト皮膚組織におけるメルケル細胞反応のリアルタイム評価に成功 ～化粧品成分や肌へのタッチが及ぼす影響を詳細に理解することが可能に～

株式会社資生堂 - 2022/10/19

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003503>

資生堂は、ヒト皮膚組織を用いて、触覚を担うメルケル細胞の化学的・機械的な刺激に対する反応をリアルタイムに評価することに成功しました。従来は細胞を用いた実験系が一般的でしたが、本技術を用いることで、生きたヒトの皮膚により近い状態の反応を観察することが可能になりました。当社はこれまでに、メルケル細胞が末梢神経を通じてハリやたるみなどに関与すること、メルケル細胞が加齢により減少すること、香り成分によってメルケル細胞が活性化し美しく健やかな肌へ導く可能性などを見出しています。今回の発見により、化粧品成分や肌へのタッチがメルケル細胞にもたらす影響やそのメカニズムをより詳細に検討することが可能となります。今後、美容法なども組み合わせた多様なビューティーケアのアプローチの提案を目指し、研究を進めていきます。

本研究の成果の一部は「日本神経科学大会 (NEURO2022)」(2022/6/30-7/3)で発表しました。-----

資生堂、触感を司るメルケル細胞が香り成分で活性化することを発見 ～長年の皮膚感覚研究に基づく肌の五感に着目した新たなアプローチ～

株式会社資生堂 - 2022/10/19

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003502>

資生堂は、モナステリウム研究所※1 との共同研究により、触覚を担うメルケル細胞に香り受容体が発現していることを発見し、サンダルウッド様の香りを持つ香り成分により香り

受容体が活性化することを、ヒト皮膚培養系を用いた実験により証明しました。また、メルケル細胞が加齢とともに減少することを発見しました。当社の先行研究において、メルケル細胞と接続して触覚を脳に伝える神経線維がハリやたるみに関連する真皮の構造維持にも関与していることを明らかにしており、このことからメルケル細胞は肌の老化に影響していると考えられます。今回の発見により、直接肌に触れることなく、香りを用いて、肌を美しく健やかな状態に導く新たなアプローチの可能性が示されました。

本研究の成果の一部は「国際化粧品技術者会連盟カンクン中間大会 2021 (IFSCC※2 Conference 2021)」(2021/10/18-28)の口頭発表部門で発表し、最優秀賞を受賞しました。

※1 2015年に皮膚科学領域の著名な研究者である Ralf Paus によってドイツ ミュンスターに設立された皮膚・毛髪科学研究機関。

※2 IFSCC: The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists

外部環境の湿度変化に応じて自発的に水分透過をコントロールする技術を開発 ～環境と共生し、その恵みから美を生み出す技術第三弾～

株式会社資生堂 - 2022/10/20

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003507>

資生堂は、周囲の湿度変化に応答し、自発的に水分透過度合いをコントロールする新しい技術を開発しました。これまでに、周りの水分を取り込む/放出する性質(吸放水性)を有する素材は見出されていましたが、今回開発した技術は、湿度に合わせて素材の構造が変化することで水分の通りやすさを調節するという全く異なるメカニズムにより、幅広い湿度環境で長時間にわたり、肌に適切な潤いを保つことが期待されます。本研究成果の一部は「第32回国際化粧品技術者会連盟(IFSCC※1)ロンドン大会 2022」(2022/9/19-9/22)にて発表しました。-----

資生堂、皮膚の抗重力システム「ダイナミックベルト TM」を発見 ～見た目の老化の原因となる「たるみ」の原因を解明～

株式会社資生堂 - 2022/10/20

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003506>

資生堂は、国際医療福祉大学 医学部形成外科学 松崎恭一主任教授と自治医科大学、生理学研究所との共同研究により、皮膚が重力による変形に抵抗するシステムを発見し、これを「ダイナミックベルト TM」と名付けました。「ダイナミックベルト TM」は、顔面に高密度に存在する立毛筋群が重力に抵抗する仕組みです。研究チームはこれまで解明されてこなかった、重力で肌が垂れ下がり見た目の老化の原因となる「たるみ」が起きる原因を突き止

めました。この研究成果をもとに、重力で肌が垂れ下がり見た目の老化の原因となる「たるみ」に対して、研究開発を加速していきます。本研究の一部は、「第31回国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)※横浜大会(2020/10/21-30)」で発表し、最優秀賞を受賞しました。-----

資生堂、表皮由来 IL-34 の減少によりマクロファージバランスが崩れることを発見 ～ “インフラメイジング” に着目した新時代のビューティーケア～

株式会社資生堂 - 2022/10/20

<https://corp.shiseido.com/jp/news/detail.html?n=00000000003505>

資生堂は、表皮において分泌されるタンパク質、インターロイキン 34 (IL-34) ※1 が減少すると、免疫細胞として知られる 2 種類のマクロファージ(M1 マクロファージ、M2 マクロファージ)のバランス(M1/M2 バランス)が崩れることを新たに発見しました(図1)。さらに、表皮細胞の IL-34 産生を増やしマクロファージの M1/M2 バランスを整える効果が期待できる成分として、クリーピングタイム抽出液を見出しました。-----

以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事(2022年10月8日~24日)から選定したものです。

女性アスリートのパフォーマンス向上のための、β-アラニン、カフェイン、硝酸塩のエビデンス

<https://sndj-web.jp/news/001991.php> (2022/10/8)

代表的なエルゴジェニックエイドのうち、β-アラニン、カフェイン、硝酸塩という三つについて、現時点での女性アスリートのパフォーマンス向上に関するエビデンスをまとめた、米国の研究者によるレビュー論文が報告された。要旨を抜粋して紹介する。-----

筋トレ+たんぱく質摂取による筋力向上効果は、1.5g/kg/日が上限 筋トレなしでは効果なし

<https://sndj-web.jp/news/001988.php> (2022/10/11)

筋力トレーニングを行ないながらたんぱく質の摂取量を増やすと筋力が向上し、その効果は1.5g/kg/日で頭打ちになるとするデータが報告された。また、たんぱく質摂取量を増やしても筋トレを行わない場合は、筋力に対する有意な効果を得られないことも示された。早稲田大学スポーツ科学学術院の宮地元彦氏らが行った、システムティックレビューとメタ解析の結果であり、「Sports Medicine-Open」に論文が掲載された。-----

炭酸水の摂取で脳血流速度が増加し、暑熱環境下の気分が改善 非炭酸水とのクロスオーバー試験

<https://sndj-web.jp/news/001989.php> (2022/10/12)

炭酸水の摂取後には非炭酸水を摂取した後よりも、中大脳動脈の血流速度が増加し、暑熱環境下の気分が有意に改善するというデータが報告された。筑波大学体育系の藤井直人氏らがアサヒ飲料（株）の橋本秀紀氏と行った共同研究の結果であり、「Physiology & Behavior」に論文が掲載された。-----

イヤホン型光センサーで測定した咀嚼の回数・時間が、肥満女性の糖代謝指標と逆相関

<https://sndj-web.jp/news/001990.php> (2022/10/13)

食べ物を咀嚼する回数や咀嚼時間をイヤホン型の光センサーで計測し、代謝マーカーとの関連を性別・肥満の有無別に検討した結果が報告された。女性より男性は咀嚼回数や時間が少ないことや、肥満女性では咀嚼回数・時間がHbA1cやHOMA-Rなどの糖代謝マーカーと逆相関することなどが明らかになったという。関西医科大学健康科学教室の木村穰氏、黒瀬聖司氏、大阪産業大学の日高なぎさ氏らの研究であり、「Nutrients」に論文が掲載された。-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

米を原料に代替肉 山形大らが開発

財経新聞 - 2022/10/11 <https://www.zaikei.co.jp/article/20221011/692735.html>

山形大学学術研究院 渡辺昌規教授の研究チームは、株式会社サタケとの共同研究で「脱脂米糠」を原料に代替肉を作ることに成功した-----

食品のカロリーや栄養を測定できる電子レンジ 窓から漏れ出るマイクロ波をリアルタイム分析

IT media - 221019 <https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2210/19/news045.html>

米 The Ohio State University の研究チームが発表した論文「WiNE: Monitoring Microwave Oven Leakage to Estimate Food Nutrients and Calorie」は、マイクロ波を用いて食品の栄養成分やカロリーをリアルタイムに推定する電子レンジを提案した研究報告

だ。電子レンジを使用している際に窓（フロントパネル）から漏れ出るマイクロ波を捉え、その食品中の栄養成分とカロリーを測定する。-----

■ その他の科学・技術情報

ローコード開発で工場の現場 DX を推進する花王、「Power Platform」を活用

MONOist - 2022/10/24

<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2210/24/news050.html>

日本マイクロソフトは2022年10月20日、オンラインで会見を開き、同社の統合型ローコード開発プラットフォーム「Microsoft Power Platform（以下、Power Platform）」の最新機能を説明するとともに、花王 和歌山工場（和歌山県和歌山市）の製造現場における活用事例を紹介した。-----

医薬品の開発加速・合成コスト削減に貢献する複雑な光学異性体化合物を合成する新手法を開発 -二つの触媒が調和することで自由な分子設計が可能に-

国立研究開発法人産業技術総合研究所 - 2022/10/12

https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2022/pr20221012/pr20221012.html

ポイント

- 非対称性構造をもつ二種類の触媒を共存させる新しい触媒的有機合成法の開発に成功
- 二つの触媒が二つの原料を別々に活性化する反応機序により、自在な異性体選択性の発現が可能
- 複雑な光学異性体への構造変換が可能となることで、創薬研究の加速に貢献

植物脂質合成の鍵となる酵素の機能を解明

-代謝改変技術による「バイオものづくり」への応用に期待-

理化学研究所 - 2022/10/13 https://www.riken.jp/press/2022/20221013_4/index.html

理化学研究所（理研）環境資源科学研究センター植物脂質研究チームの中村友輝チームリーダーらの研究チームは、植物の酵素 LPAT2[1]が脂質（油）の合成量と植物体の成長に重要な役割を果たすことを明らかにしました。

本研究成果は、植物が脂質を合成する代謝経路の理解を深めるとともに、代謝改変技術[2]により環境中の二酸化炭素を植物体内で有用な油に変換して活用する「バイオものづくり[3]」に貢献すると期待できます。-----

ハチノスツヅリガの幼虫、唾液にポリエチレンを分解する酵素

財経新聞 - 2022/10/10 <https://www.zaikei.co.jp/article/20221010/692695.html>

ポリエチレン (PE) の酸化と解重合を可能にする酵素がハチノスツヅリガの幼虫の唾液から発見された-----

【東京薬科大学】蛋白質アクチンの高分解能構造と ATP 加水分解反応メカニズムの解明 -- 地球上の生命の最も重要な化学反応の一つの理解の前進 --

大学プレスセンター - 2022/10/21

<https://www.u-presscenter.jp/article/post-49216.html>

【本研究のポイント】

- ・ 蛋白質 アクチンの F 型の高分解能構造を解明。
- ・ それら構造を基に量子化学の計算法を使って ATP 加水分解反応 (注 1) のメカニズムを解明。
- ・ 地球上の生命維持にとって最も重要な化学反応の一つである ATP 加水分解反応の共通メカニズムの理解を大きく進めた。

今回解明されたのは ATP アーゼ過程 (注 4) 全体の前半部分 (加水分解反応過程) のみであり、後半部分 (Pi 解離過程) は、未解明です。今後は Pi 解離過程の研究が進むことが期待されます。

本研究成果は、2022 年 10 月 18 日付アメリカ科学雑誌「米国科学アカデミー紀要 (PNAS)」のオンライン速報版に掲載-----

以上

健康食品等に関する

日本語記事情報 (2022 年 11 月号 No.1)

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、(公財)日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

(例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等)

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております（民間の情報源には了承を得た上で転載）。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

英文記事情報 10月号 No.1 で取り上げましたが、改めてご紹介いたします。

記事の中で FDA 幹部は、「Healthy」の条件改訂の狙いとして、「一部の食品メーカーがこの規則に則した商品ラインナップに再構成する場合（例えば、基準を満たすために野菜や全粒穀物を追加するなど）、社会への健康的な食品供給を促進するのに役立つ可能性がある」と、コメントしています。

米国 FDA が食品パッケージに「Healthy」と強調表示できる条件を改訂

スポーツ栄養 WEB - 2022/11/3 <https://sndj-web.jp/news/002023.php>

米国食品医薬品局（Food and Drug Administration ; FDA）は 9 月 28 日、食品のパッケージに「Healthy（ヘルシー）」と強調表示してよい場合の条件を改訂することを発表した。提示された新たな規則は、現在の栄養学と現在の米国人のための食事ガイドラインと、整合性のあるものとなる。-----

■ 安全性関連情報

[ANSES] ビタミン D：食品に内分泌かく乱物質の表示はいらぬ

食品安全情報 blog2 - 2022/11/8

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/11/08/175039>

追記：11月8日分の中ほどの見出しになります。フランス食品環境労働衛生安全庁（ANSES）は、“他のビタミン類とは異なり、ビタミンDはホルモンのように機能するため、内分泌系に作用する。摂取量が多すぎると内分泌バランスが乱され、その後健康に有害影響がある。”と指摘しつつ、“ANSESは、フランスAGEC法実施の一環として、食品上の内分泌かく乱物質として挙げる物質のリストにビタミンD3を含むことに反対するよう助言している。”との内容等。

-ターメリックとクルクミンのヒト健康へのリスクの可能性についての最初の声明案

食品安全情報 blog2 - 2022/10/26

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/10/26/190641>

食品安全情報（化学物質）No. 22/ 2022（2022. 10. 26）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202222c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

景品表示法に基づく法的措置件数の推移及び措置事件の概要の公表(令和4年9月30日現在)

消費者庁 - 2022/10/31 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/024740/>

第1回ステルスマーケティングに関する検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2022/11/9

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_05/029951.html

■ 行政・法令関連情報（その他）

「食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示リスト」の一部改正に関する意見募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/10/24 <https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=495220198&Mode=0>

別添 1 「専ら医薬品として使用される成分本質（原材料）リスト」への追加

N-フェニルプロポキシフェニルカルボデナフィル

別添 2 「医薬品的効能効果を標ぼうしない限り医薬品と判断しない成分本質（原材料）リスト」の削除

名称：イチイ（他名等：アララギ） 部位：果実 備考：枝・心材・葉は「医」

「食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示リスト」の一部改正に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/10/24 <https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495210477&Mode=1>

コウトウスギ関連

第 5 回ステルスマーケティングに関する検討会の資料を公表しました。

消費者庁 - 2022/10/24

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_05/030513.html

スポーツにおける使用を禁止すべき物質及び国際規約に違反する行為を定める省令の一部を改正する省令

e-Gov パブリック・コメント - 2022/10/27

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=185001262&Mode=0>

■ 海外公的機関情報

米 FDA、外国食品施設などの査察拒否に関するガイダンスの最終版公表（米国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/11/1

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/11/f66f3feb5826e468.html>

-スパイス部会がサフラン、ナツメグ、トウガラシ・パプリカの新規規格を提供する

食品安全情報 blog2 - 2022/10/26

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/10/26/190641>

2023 年からの包装材への鉱物油使用禁止、一次包装以外も対象（フランス、EU）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/10/26

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/10/aac025faf6a41847.html>

以下の 9 件は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/11/2 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

1. [英国食品基準庁\(FSA\)、迅速なリスク評価「食品中のひまわり油が精製なたね油で代用された場合、英国の消費者に対するエルカ酸\(Erucic acid\)の長期的リスクはどのようなものか？」を公表](#)

11. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)及び世界保健機関\(WHO\)、食品安全・品質シリーズ No.18「食品におけるマイクロプラスチック：食事性ばく露に関する食品安全レビュー」を公表](#)

25. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)、様々な国及び管轄区域における細胞ベース食品に関する規制枠組みをまとめた「細胞ベース食品の食品安全面 背景文書 3：規制枠組み」を公表](#)

30. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としてのβ-ヒドロキシ酪酸塩の安全性に関する科学的意見書を公表](#)

35. [EFSA ニュース：欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中のニトロソアミンのリスク評価に関する意見書案及び公開協議の開始を公表](#)

39. [世界保健機関\(WHO\)、出版物「WHO 食品安全世界戦略 2022-2030：食品安全システムの強化と世界的な協力に向けて」を公表](#)

49. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)、総説論文「代替たん白質は食物アレルギーを増加させるか？傾向・要因・今後の見通し」の科学誌掲載を公表](#)

50. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2022年10月5日～10月18日\)](#)

56. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品中のN-ニトロソ化合物に関する広範な文献検索の外部委託機関による科学的報告書を公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

富士経済、ユーザーが増加しているサプリメントの国内市場調査、機能志向食品の2022年国内市場は1兆651億円の見込

マイライフニュース - 2022/10/27

<https://www.mylifenews.net/data/2022/10/20221651.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、新型コロナウイルス感染症の流行で体調管理ニーズが高まり、ヘルスケアへの意識向上によりユーザーが増加しているサプリメントの国内市場を調査した。その結果を「H・B フーズマーケティング便覧 2023 No.1 機能志向食品編」にまとめた。その結果、2022年見込（前年比）では、機能志向食品（サプリメント）の国内市場は、新型コロナ流行の特需は落ちついたものの、定番の訴求が好調を維持し、1兆651億円（2.3%増）の見通しだ。ストレス緩和・睡眠サポート市場は、……

届出者 1,300 超 新規参入続々 機能性表示食品ユーザー、2割が毎日利用（別冊／機能性表示ガイド）

健康メディア.com - 2022/10/27

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16767

昨年9月に受理数4,000品を超えた機能性表示食品。今年6月に5,000品の大台を突破し、届出者数は9月、1,300に到達した。今年はやくろと本社の「Yakult1000」「Y1000」が大ヒット。一方、一昨年に初めて受理された「免疫」表示は、キリンのプラズマ乳酸菌の

みという状況となっている。各企業による新表示へのチャレンジは続いており、新規性のある画期的な表示の登場が期待されている。（本号で紹介するデータは、2022年9月16日までの情報をまとめたものである）-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

抗ロコモ・メタボ、抗老化まで 冷え対策に留まらない通年商材に

健康メディア.com - 2022/10/27

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16772

香辛野菜のみならず民間薬としても古くから利用されてきたショウガ。国内では健康食品から一般食品に至るまで、幅広い商品に応用されている。機能性表示食品は、6- ショウガオールや 6- ジンゲロール、黒ショウガ由来（5,7- ジメトキシフラボン、5- ヒドロキシ-7-メトキシフラボン）、ブラックジンジャー由来ポリメトキシフラボンを関与成分とする機能性表示食品が続々登場。受理数は 232 件となった。（9月27日現在）。機能性研究では「アンチエイジング」の知見が報告されている。-----

マカ、フェムケア素材で注目度上昇（特集／南米・機能性素材）

健康メディア.com - 2022/10/31

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16778

天然素材の宝庫として知られる南米地域。南米産の機能性素材は、伝承的薬効に、原料サプライヤー等によるエビデンスの蓄積が進み、健康食品から一般食品まで幅広い分野で利用されるようになった。メジャー素材・マカは、活力系ハーブとしての地位を確立。また、女性のホルモンバランス調整作用、更年期症状の改善、睡眠障害改善作用などが確認され、新たな市場開拓に成功。最近では、フェムケア素材としての利用も進む。南米発のスーパーフード素材は、外食産業などにも利用が進み、-----

シークワサー、多彩な健康機能で脚光（特集／沖縄）

健康メディア.com - 2022/11/4

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16819

沖縄の健康食品産業界は、産官学がスクラムを組み、ブームに依存しない沖縄ブランドづくりを進める。「食はクスイムン(薬になるもの)」「ヌチグスイ(命の薬)」と言われる、長寿を支えてきた伝統的な島野菜や果実、海藻などの農海産物にエビデンスデータが蓄積。沖縄独自の健食認証制度は認定証商品が 26 品になり、シークワサー、クワンソウなど県産

素材を活用した機能性表示食品も登場した。アイテム別では、様々な健康機能の解明が進むシークワサーが人気に。フコイダン、ウコンは海外の需要が伸びている。-----

矢野経済研究所、フェムテック（女性関連ヘルスケア・医療）市場に関する調査、2021年度の市場規模は74億円に

マイライフニュース - 2022/11/1 <https://www.mylifenews.net/data/2022/11/202174.html>

矢野経済研究所は、国内のフェムテック（女性関連ヘルスケア・医療）市場を調査し、参入企業の動向、および将来展望を明らかにした。その結果、2021年度のフェムテック（女性関連ヘルスケア・医療）市場規模は74億円に達した。政府の後押しを受け、参入企業が拡大。今後も日本における市場の活性化が期待される。-----

矢野経済研究所、スリープテック市場に関する調査、2022年の市場規模は60億円になると予測

マイライフニュース - 2022/11/2 <https://www.mylifenews.net/data/2022/11/202260.html>

矢野経済研究所は、国内の睡眠関連ビジネス市場を調査し、関連する製品およびサービスの動向、参入企業の事業展開、今後の方向性などを明らかにした。ここでは、スリープテック市場予測について、公表する。2022年の国内スリープテック市場規模は60億円になると予測した。多様化するセンシングを基盤とした睡眠改善サービスが拡大するとみられる。--

四国食品健康フォーラム 初の東京開催 「地域の食品産業振興」「消費者ヘルスリテラシーの向上」など宣言（特集／四国企業ガイド トピック）

健康メディア.com - 2022/10/30

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16782

（一社）四国産業・技術振興センター（通称STEP、香川県高松市）は9月27日、東京ビックサイトで催された「ダイエット&ビューティーフェア2022」にて、四国食品健康フォーラム2022を開催した。「地域発の制度で変える！これからの食品の機能性表示」と題し、消費者庁や業界団体、健康医療ジャーナリストなど有識者7人がパネリストとして参加。食品機能性表示制度の普及拡大や、地域独自の認証制度が持つ役割等について議論が行われた。同フォーラムの開催は今年で16回目であり、初の東京開催となった。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

キリンと花王が、内臓脂肪と免疫の関連について共同研究を開始

～和歌山県立医科大学が主宰するコホート研究において、両社の強みである「内臓脂肪」「免疫」領域の研究力を掛け合わせ、新たなエビデンス獲得をめざす～

キリンホールディングス株式会社 - 2022/11/7

https://www.kirinholdings.com/jp/newsroom/release/2022/1107_01.html

止まらないラインで不良をゼロに、M&A で価値強化進めるオムロンが実現したいこと

MONOist - 2022/10/27 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2210/27/news121.html>

オムロンは2022年10月18日にキリンビールの子会社である飲料検査機大手のキリンテクノシステム（KTS）への出資を発表。飲料製造における検査領域を強化するとともに、製造ラインにおいて不良品を作らない「ゼロディフェクト」などの新たな価値実現を推進していく方針を示した。KTS出資への狙いやオムロンの制御機器事業として実現したい将来像などについて、オムロン執行役員常務 インダストリアルオートメーションビジネスカンパニー社長の辻永順太氏に話を聞いた。-----

脳の健康推定による最適なワークスタイルの在り方解明に向けた 共同実証研究開始のお知らせ

株式会社ジョルテ、一般社団法人ブレインインパクト、株式会社梓設計 - 2022/10/25

<https://www.atpress.ne.jp/news/331654>

株式会社ジョルテ(代表取締役社長：下花 剛一、以下：ジョルテ)と、BHQプロジェクト*1が主導する一般社団法人ブレインインパクト(理事長：山川 義徳、以下：ブレインインパクト)、株式会社梓設計(代表取締役社長：有吉 匡、以下：梓設計)の3社は共同で、Apple Watch(R)と「脳の健康」可視化を活用した健康経営の促進に向けた実証研究を2022年秋より開始いたします。-----

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

食べ過ぎを防ぐ脳の仕組み –オキシトシンを介して食欲を抑制する神経回路を同定–

理化学研究所 - 2022/10/27 https://www.riken.jp/press/2022/20221027_3/index.html

理化学研究所（理研）生命機能科学研究センター比較コネクトミクス研究チームの稲田健吾基礎科学特別研究員、宮道和成チームリーダーらの共同研究グループは、マウスを用いて、食欲を抑制する脳神経回路の機能にオキシトシン[1]が必須であることを明らかにしました。

オキシトシンを介した食欲抑制神経回路の存在をはっきりと捉えた本研究成果は、食欲制御の神経基盤を解明する上で重要な知見であり、将来的にはヒトの肥満や摂食障害に関する理解を深めるものと期待できます。-----

ダイエットで起こるリバウンドの仕組みを解明 岐阜大ら

財経新聞 - 2022/10/27 <https://www.zaikei.co.jp/article/20221027/694982.html>

肥満は糖尿病などの成人病をはじめとする様々な疾患の原因となる。そのため治療目的でダイエットが必要になることもあるだろう。食事制限によるダイエットにはしばしばリバウンドが起こることは知られているが、どうしてリバウンドが起こるのか、その仕組みは明らかでなかった。岐阜大学らの研究グループは、絶食により起こる脳の不可逆的な変化が、リバウンドの原因となることを突き止めたと発表した。-----

脂肪を燃焼させる“脂肪組織のベージュ化”を制御するしくみ 東北大学が解明

大学ジャーナルオンライン - 2022/10/31 <https://univ-journal.jp/192009/>

わたしたちヒトを含む恒温動物は、寒冷環境に長く晒されると、エネルギーを脂肪として蓄える「白色脂肪細胞」から、脂肪を消費して熱を産生する「ベージュ脂肪細胞」へと、脂肪組織の質を変化させるしくみをもっている。

ベージュ脂肪細胞は脂肪を活発に燃焼させることから、肥満の新規治療・予防戦略として注目されている。しかし、ベージュ化を誘導する細胞内シグナル伝達系のメカニズムの詳細は、これまで明らかとなっていなかった。-----

老化による抗腫瘍免疫低下、「スペルミジン」で回復できる可能性—京大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/10/31

<http://www.qlifepro.com/news/20221031/spd-mt-trifunctional.html>

加齢による T 細胞の免疫力低下と SPD 欠乏の関連は未解明だった

京都大学は 10 月 28 日、細胞の生存、増殖、ミトコンドリアの機能維持に必須の生体内ポリアミンであるスペルミジン（spermidine : SPD）が、若齢 T 細胞と比較し老化 T 細胞において減少し、エネルギー産生や脂肪酸酸化等のミトコンドリア機能の低下の原因になって

いることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大医学研究科附属がん免疫総合研究センターの本庶佑センター長、Fagarasan Sidonia 教授（兼：理化学研究所チームリーダー）、茶本健司特定准教授、Al-Habsi Muna 研究員（兼：National Genetic Center, Oman）、医学研究科の野村紀通准教授、東北大学の松本健助教らの研究グループによるもの。研究成果は、「Science」にオンライン掲載されている。-----

京都大学 最新の研究成果を知る

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/research-news/2022-10-28>

赤ビーツ飲料摂取で末端部の冷えが早く改善、健常人対象の検証実験で －北大

QLifePro 医療ニュース - 2022/11/2

<http://www qlifepro.com/news/20221102/red-beets.html>

赤ビーツ含有の硝酸塩は体内で血管拡張作用のある NO に変化

北海道大学は 10 月 31 日、赤ビーツ飲料の摂取により、冷えた手指が早く温まることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院工学研究院の若林齊准教授、同大学大学院農学研究院の崎浜靖子講師、橋本誠教授ら、同大学ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点の研究グループによるもの。研究成果は、「European Journal of Applied Physiology」に掲載されている。-----

北海道大学 プレスリリース <https://www.hokudai.ac.jp/news/2022/10/post-1117.html>

日常的な「電解水素水」の飲用で炎症性腸疾患モデル動物の症状が緩和 －日本トリムほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/10/28

<http://www qlifepro.com/news/20221028/electrolyzed-hydrogen-water-2.html>

日常的な電解水素水の飲用が IBD の症状を緩和するのか動物モデルで検証

株式会社日本トリムは 10 月 26 日、電解水素水の日常的な飲用が、炎症性腸疾患（IBD）モデルラットの腸炎の症状を軽度抑え、早期に回復させることを明らかにしたと発表した。この研究は、同社と理化学研究所との共同研究によるもの。研究成果は、「Nutrients」オンライン版に掲載されている。-----

株式会社日本トリム 研究開発 発表論文一覧

<https://www.nihon-trim.co.jp/research/4355/>

微細藻類ユーグレナの継続的な摂取が、免疫の維持や調整を介して感冒症状（かぜ様症状）の発生および諸症状の重症化を抑制することをヒト臨床試験によって確認しました

株式会社ユーグレナ - 2022/11/1 <https://www.euglena.jp/news/20221101-2/>

株式会社ユーグレナ（本社：東京都港区、代表取締役社長：出雲充）は、微細藻類ユーグレナ（和名：ミドリムシ、以下「ユーグレナ」）の継続的な摂取が、免疫の維持や調整を介して、感冒症状（かぜ様症状）の発生および諸症状の重症化を抑制することを、ヒト臨床試験によって確認しました。なお、今回の研究成果は、「第27回日本フードファクター学会学術集会」（2022年10月22～23日開催）で発表しました。-----

新潟医療福祉大、神経ペプチド「ガラニン」が食欲を制御することを発見

マイナビニュース - 2022/10/24

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20221024-2490987/>

夜遅くの食事は食欲を倍増させる!? 新たな研究結果が発表に

ウィメンズヘルス - 2022/10/24

<https://www.womenshealthmag.com/jp/diet/a41747553/eating-late-hungry-study-221024-hns/>

長寿サプリ「NMN」の上位互換…長寿研究で再注目の「日本が90年代に発見した物質」【医師が解説】 前編 ～基礎研究～

幻冬舎ゴールドオンライン - 2022/10/31 <https://gentosha-go.com/articles/-/46627>

『老化は治る』。今、医学の常識が一転しつつあります。WHOが2019年に採択した「IDC-11（国際疾病分類）」でも、明確に“老化”の概念が盛り込まれました。老化とは万病に共通する驚異的なリスク因子であり、もはや、人類が克服すべき治療対象の疾患と定められているのです。銀座アイグラッドクリニック院長・乾雅人医師が、今注目の「5デアザフラビン」を前編・中編・後編に分けて解説します。-----

老化という“病”を治す「有望な物質」は発見済み…社会実装されるには何が必要か【医師が解説】 中編 ～臨床研究～

幻冬舎ゴールドオンライン - 2022/11/2 <https://gentosha-go.com/articles/-/46738>

老化治療を社会実装させるには？今「日本の現役医師」に求められる役割【医師が解説】 後編 ～公衆衛生～

幻冬舎ゴールドオンライン - 2022/11/4 <https://gentosha-go.com/articles/-/46744>

時間栄養学 「いつ」「何を食べるか」で健康を管理

荒川 直樹＝科学ライター 2022.11.4

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/11/4

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/keyword/19/00187/>

「体力」を見える化する技術を開発

— 酸素飽和度測定による世界初の技術 幅広い応用に期待 —

株式会社ファンケル - 2022/11/8

https://www.fancl.jp/news/20220029/news_20220029.html

株式会社ファンケルは、個人の「体力」を見える化する指標として、従来から用いられてきた「無酸素性作業閾値（Anaerobic Threshold：以下「AT」）※1」を簡便に推定できる技術に関する研究を進めています。

このたび、酸素飽和度（以下「SpO₂」）※2を用いた「酸素飽和度性作業閾値（SpO₂ Threshold：以下「ST」）※3」を利用し、「AT」を簡便に推定する方法を開発しましたのでお知らせします。この「ST」は「SpO₂」を用いた測定方法であり、個人の「体力の指標」にすることができる世界初*の技術となります。

本技術によって個人の「体力」に合った最適な運動強度を簡便かつ正確に推定することができるため、医療分野、スポーツ分野以外にも多くの応用が期待されます。なお、本技術については特許を取得しています（*特許第 6990333 号）。

分裂方向指示タンパク質(1)NUMA(2)とメラニン蓄積の関係を発見

シミのケアに表皮細胞の分裂方向を整えるという新アプローチ

株式会社ファンケル - 2022/11/7

https://www.fancl.jp/news/20220028/news_20220028.html

株式会社ファンケルは、肌のシミ部位では表皮細胞の分裂方向が乱れ、表皮の構造が変化することに着目し、表皮細胞の分裂方向を調整する機能について研究を続けています。

このたび、シミ部位では垂直方向へ細胞分裂を指示するタンパク質が少ないこと、そのタンパク質の中でもNUMA（ニューマ）の減少が、皮膚構造の乱れとメラニンの蓄積を引き起こすことを見いだしました。さらに、NUMAを増加させることがシミをケアする新しい

アプローチとして有用であり、アルテミアエキス (3) がNUMAの減少を抑えることを発見しましたのでお知らせします。

なお、本研究成果の一部は、イギリスのロンドンにて2022年9月19日から22日まで開催された世界最大の化粧品学術大会：第32回国際化粧品技術者連盟 学術大会 (IFSCC 2022) で発表しました。-----

以下の5件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事 (2022年10月25日~11月9日) から選定したものです。

世界アンチドーピング機構 WADA が最新の禁止物質リストを公開 2024年からトラマドール禁止に

<https://sndj-web.jp/news/002009.php> (2022/10/25)

世界アンチドーピング機構 (World Anti-Doping Agency ; WADA) は9月29日、2023年の禁止物質リストを公開した。2023年の変更点は比較的限定的だが、2024年には、鎮痛剤であるトラマドールの競技期間の使用が禁止されることも示され、「とくに注目すべき点」としてアナウンスされている。WADAは、これらの変更に関する情報について、アスリート本人とコーチなどのスタッフ、およびすべての利害関係者が注意するよう呼び掛けている。-----

食事と運動、がん死亡リスクに対してより強い影響を及ぼすのはどちら？ 米国女性で検討

<https://sndj-web.jp/news/002012.php> (2022/10/29)

食事や運動の習慣が、がんリスクを抑制する可能性を示唆するデータは少ない。では、食事によるリスク低下と運動によるリスク低下を比較した場合、どちらのほうにより大きな影響力があるのだろうか？ 米国の女性を対象とする研究の結果が報告された。-----

スポーツ領域へ応用可能？ 分枝鎖アミノ酸 BCAA の外傷性脳損傷に対する予防作用をマウスで確認

<https://sndj-web.jp/news/002022.php> (2022/11/2)

分枝鎖アミノ酸 (BCAA) が、外傷性脳損傷 (TBI) に対して予防的な神経保護作用を示すとする動物実験の結果が報告された。著者らは、「コンタクトスポーツのアスリートや軍人のTBIの影響の軽減のために、BCAAのメリットは見過ごされるべきではない」と述べている。-----

メントールの冷感が運動持続時間を延長 運動に伴う息苦しさを和らげ有酸素運動を心地よく継続

<https://sndj-web.jp/news/002025.php> (2022/11/5)

高強度ランニング中の L-メントール溶液の摂取が、運動中の息苦しさを緩和させ、ランニング時間を伸ばすことが、実験的に証明された。東北大学の研究チームの研究によるもので、「European Journal of Sport Science」に論文が掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載された。研究チームでは、L-メントールの冷感による運動時間の延長効果は、すでに運動に取り組んでいる人の運動能力向上だけでなく、運動習慣のない人の運動取り組みへの第一歩や運動継続に役立つと期待されるとしている。-----

「失われた 30 年」で日本の食事の質が低下か？ 世界 185 カ国、過去 30 年の食事の質を調査

スポーツ栄養 WEB - 2022/11/8 <https://sndj-web.jp/news/002033.php>

1990 年から 2018 年までの世界 185 カ国の食事の質の変化を検討した研究結果が報告された。この 30 年近くで世界の人々の食事の質はほとんど向上していないという。評価スコアの変化を国別に比較した場合、日本は-2.7 ポイントであり、これは人口規模の大きい国の中では、タンザニア、ナイジェリアに続くワースト 3 位にあたる。-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

食品に食べられるデータを埋め込む技術、大阪大学がフード 3D プリンタで実現

大学ジャーナルオンライン - 2022/10/26 <https://univ-journal.jp/191120/>

大阪大学大学院の佐藤宏介教授らの研究グループは、フード 3D プリンタを用いて食品の内部に特殊なパターンを形成することで、食べられるデータの埋め込みを世界で初めて実現した。食の安全性向上や新たな食体験の開拓が期待される。-----

豆腐由来の"食べられるインク"を武庫川女子大学の有井研究室が開発。実用化に向け研究を進めています。

大学プレスセンター - 2022/11/5

<https://www.u-presscenter.jp/article/post-49258.html>

武庫川女子大学食物栄養科学部食創造科学科の食品科学研究室（有井康博教授）が、3Dフードプリントに使える豆腐由来の”食べられるインク”を開発しました。「畑のお肉」と呼ばれるほど良質のたんぱく質が豊富な豆腐は、食品印刷分野で大きな期待を集めそうです。イギリスの学術雑誌「Journal of Food Engineering」に掲載されています。-----

■ その他の科学・技術情報

資生堂が化粧品の付け替え容器を開発、プラ使用量7割削減

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2022/10/21

<https://www.alterna.co.jp/57427/>

資生堂は10月20日、容器製造と充填作業をワンステップで行う新技術「LiquiForm（リキフォーム）」を使った化粧品の付け替え容器を開発したと発表した。容器単体に比べプラスチック使用量を約70%削減、CO2排出量は従来比70%削減を実現した。同技術は高価格帯ブランドの化粧品容器に導入する。（オルタナ編集部・下村つぐみ） -----

ネスレがキットカットの紙パッケージを線維化、子ども服に

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2022/10/24

<https://www.alterna.co.jp/57842/>

ネスレ日本は10月24日、「キットカット」などの紙パッケージや市販の牛乳パックから紙糸をつくり、子ども服にアップサイクルして寄付する取り組みを開始した。子ども服は神戸市内の児童養護施設で暮らす子どもたちに2023年2月ごろに届ける予定だ。都内23カ所に専用ボックスを設置して紙パッケージの回収を行う。（オルタナ副編集長＝吉田広子） -----

奈良先端大と月桂冠総合研究所、「高活性型」PET分解酵素を麹菌で生産！

マイナビニュース - 2022/10/27

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/kinmirai-technology-kenbunroku-222/>

植物は既存の遺伝子を活用して新しい器官を進化させる シンガポール

アジア科学技術ニュース - 2022/10/25

https://spap.jst.go.jp/asean/news/221004/topic_na_04.html

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022年11月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております（民間の情報源には了承を得た上で転載）。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 安全性関連情報

食品衛生法に基づく安全性審査を経ていない遺伝子組換え微生物を利用した添加物についての対応

厚生労働省 - 2022/11/15 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_29195.html

今般、食品衛生法第13条第1項に基づく「組換えDNA技術応用食品及び添加物の安全性審査の手続」（平成12年厚生省告示第233号）第3条で定める安全性審査を経ていない遺伝子組換え微生物を利用した添加物が確認されたことから、当該添加物の製造者に対し、製造、販売の中止等を指示するとともに、安全性審査のために必要なデータの提出等を指示しました。……

[CFIA]食品安全検査報告

-発酵野菜と大豆製品のカルバミン酸エチル（2019年～2020年）

食品安全情報 blog2 - 2022/11/22

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/11/22/173022>

補足：22日更新分の3番目の太字見出し。カナダ食品検査庁（CFIA）の検査によれば、“この調査で観察された食品中のECの量がヒトの健康に懸念となることはないと判断し、この調査によるフォローアップ措置は行われなかった。”とのことです。

関連情報：

食品安全委員会 ハザード概要シート（案）（カルバミン酸エチル）

https://www.fsc.go.jp/sonota/hazard/osen_8.pdf

国税庁 カルバミン酸エチル

<https://www.nta.go.jp/taxes/sake/anzen/joho/joho01.htm>

食品安全情報（化学物質）No. 23/ 2022（2022. 11. 09）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202223c.pdf>

食品安全情報（化学物質）No. 24/ 2022（2022. 11. 22）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202224c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/hse/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

一般社団法人免研アソシエイツ協会に対する景品表示法に基づく措置命令について

消費者庁 - 2022/11/18 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/030912/>

消費者庁は、本日、一般社団法人免研アソシエイツ協会に対し、同法人が供給する「免研糖鎖機能性食品 G」と称する食品等 10 商品に係る表示について、それぞれ、景品表示法に違反する行為(同法第 5 条第 1 号(優良誤認)に該当)が認められたことから、同法第 7 条第 1 項の規定に基づき、措置命令を行いました。-----

一般社団法人免研アソシエイツ協会に対する食品表示法に基づく指示について

消費者庁 - 2022/11/18 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/030940/>

消費者庁は、本日、一般社団法人免研アソシエイツ協会に対し、同法人を表示責任者として販売する食品(商品名「免研糖鎖エキspreミアム LD」ほか 5 商品)について、食品表示法第 4 条第 1 項に規定する食品表示基準に違反する表示を行っていたことから、同法第 6 条第 1 項の規定に基づく指示を行いました。-----

■ 行政・法令関連情報（その他）

第 7 回 ステルスマーケティングに関する検討会の開催について

消費者庁 - 2022/11/22 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/030999/>

傍聴希望締切：11月25日（金）15時

第 6 回ステルスマーケティングに関する検討会の資料を公表しました。

消費者庁 - 2022/11/10

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_05/030681.html

2022年11月11日開催分です。

第 2 回ステルスマーケティングに関する検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2022/11/10

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_05/030255.html

2022年9月22日開催分です。

■ 海外公的機関情報

保健省、食品ラベル表示や機能性表示など告示案 5 本の意見公募（タイ）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/11/10

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/11/361c443e46347df5.html>

以下は、食品安全委員会 食品安全総合情報システム (<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/11/16 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

3. [国際連合食糧農業機関\(FAO\)、第 97 回 FAO/世界保健機関\(WHO\)合同食品添加物専門家会議\(JECFA\)において、評価又は評価見直しが予定されている物質のリスト及びデータ募集を公表](#)

二酸化チタンの評価見直しが予定されています。

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

温活関連市場、成長続く (特集／冷え対策)

健康メディア.com - 2022/11/9 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16825

“温活”が定着したことで、身体を温める商材は季節商材から年中商材に成長している。とはいえ、売れ行きが最も伸びるのは秋冬だ。今回の取材およびアンケート調査では、家庭用医療機器や健康機器類、入浴剤、温感衣料品などノンフーズ分野は堅調な動きが見られた。またショウガやヒハツ、高麗人参などの温感素材を用いたサプリメントなどフーズ市場では、機能性表示食品の受理品数が1年で約50品増加。商品開発ニーズは旺盛で、-----

骨・筋肉サポートの製品開発が活発化 (特集／アクティブシニアサポート)

健康メディア.com - 2022/11/11

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16840

高齢者の介護予防が課題となっている。日本の介護費用は10兆円を超え、いかに介護費用を削減するかが焦点となっている。そうした中、高齢者のフレイル対策が注目され、産学官を挙げて、様々なプログラムや製品開発が行われている。フレイルは介護を受ける前の現象で、身体的・精神的な脆弱化が顕著になっていく様を表わす。フレイル対策としては、口腔周囲を含む全身の骨や筋肉の強化・維持も重要とされている。コロナ禍で外出機会が減る一方、健康意識の高いシニア層は、適度な運動を心掛け、必要な栄養素を食事や、サプリメントなどで補っている。健食メーカーもそうした高齢者向けの製品開発を活発化している。-----

「関節・膝ケア」「抗疲労」「美容」に照準、ウコン市場拡大の兆し (特集／ウコン)

健康メディア.com - 2022/11/15

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16846

肝機能・二日酔い対策の大型素材・ウコンが、新たな市場開拓に向けて動き出している。市場形成の下地が急速に整っているのは、関節・膝ケア、抗疲労、美容素材としてのウコン。関節・膝ケア、（起床時の）疲労感軽減については今年、機能性表示食品での受理もあり、エビデンスの充実化と抜群の素材認知度が、新たな市場形成を強く後押ししそうだ。市場の中核を担うアルコール・肝機能対応のドリンク製品は、新型コロナウイルス感染者の減少に伴い、回復基調に。「今年のゴールデンウィークは瞬間的にはコロナ前を上回る売上を記録した時もあった」と言うコメントも。ハウスウェルネスフーズ（ウコンの力）、ゼリア新薬工業（ヘパリーゼ）の2強の販売状況を含め、最新のウコン市場をレポートする。……

コロナ禍で糖化ストレス過多に 糖化対策、ニューノーマルのエイジングケアへ (特集／抗糖化)

健康メディア.com - 2022/11/17

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16888

運動不足や食生活の乱れなど、新型コロナウイルスがもたらした影響は糖化ストレスをも高めた。その結果、コロナ禍で老化の促進や疾患リスクが上がり、看過できない深刻な問題になりつつある。糖化ストレスを研究する同志社大学教授の八木雅之氏は「アフターコロナにおける糖化ケアの重要性が一層注目されている」と話す。糖化は現代人が日々の生活を送るなかで常に直面しているリスクであり、健康増進という観点から切っても切り離せない重要なテーマとなりつつある。糖化対策はニューノーマル時代のエイジングケアの切り札となるか、注目が集まる。……

■ 消費者意識等の調査・分析

「健康と食、栄養に関する調査」結果を公開

国分グループ本社株式会社 - 2022/11/18

<https://www.kokubu.co.jp/news/2022/detail/1118100000.html>

㈱リンクアンドコミュニケーションと協働 「健康と食、栄養に関する調査」結果を公開

国分グループ本社株式会社〔本社：東京都中央区、代表取締役会長兼 CEO：國分勘兵衛〕は、栄養士をネットワークし、食や健康・栄養に関するコンテンツを発信する、株式会

社リンクアンドコミュニケーション〔本社：東京都千代田区、代表取締役社長：渡辺敏成〕の協力のもと、生活者アンケートを実施し、調査レポートを公開いたしました。-----

[29111] コラーゲンの摂取に関するアンケート調査

マイボイスコム株式会社 - 2022/11/10

https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=29111

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

果物／フラボノイド豊富な果物の摂取量が多いほど、うつ病発症リスク低減－国がんほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/11/16

<http://www qlifepro.com/news/20221116/fruits-flavonoids.html>

野菜・果物、フラボノイドの豊富な果物の摂取はうつ病のリスク低下と関連するのか？

国立がん研究センターは11月15日、野菜・果物およびフラボノイドの豊富な果物の摂取とうつ病との関連を調べた結果、果物およびフラボノイドの豊富な果物の摂取量が多いほど、うつ病が発症するリスクが低いことを明らかにしたと発表した。この研究は、同センターと国立精神・神経医療研究センターなどで構成される研究グループによるもの。研究成果は、「Translational Psychiatry」に掲載されている。-----

国立がん研究センター プレスリリース

https://www.ncc.go.jp/jp/information/pr_release/2022/1115/index.html

キサンタンガム系とろみ調整食品で食後血糖上昇抑制、ラットモデルで－東京医歯大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/11/24

<http://www qlifepro.com/news/20221124/xanthan-gum.html>

キサンタンガム系とろみ調整食品、食後血糖や腸内細菌叢への影響は？

東京医科歯科大学は11月18日、誤嚥防止に用いられている「キサンタンガム系とろみ調整食品」が食後血糖の上昇を抑制し、長期摂取により回腸の糖・脂質代謝関連遺伝子発現量、腸内細菌叢を変化させることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院医歯学総合研究科 歯周病分野の片桐さやか准教授、同大学摂食嚥下リハビリテーション学分野の戸原玄教授、中川量晴准教授、長澤祐季大学院生らの研究グループと、同大認知神経生物学分野の上阪直史教授、東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 分子遺伝学研究部の

廣田朝光准教授との研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Functional Foods」オンライン版に掲載されている。-----

東京医科歯科大学 プレスリリース <https://www.tmd.ac.jp/press-release/20221118-1/>

嗅覚が全身の脂質利用を促進する新しい代謝調節機構を発見 ～匂いを利用して糖尿病を予防する～

医薬基盤研究所(NIBIO) - 2022/11/15

<https://www.nibiohn.go.jp/information/nibio/2022/11/008189.html>

この度、弊所ワクチン・アジュバント研究センター感染症制御プロジェクト 安居輝人プロジェクトリーダーの研究グループは、国立大学法人富山大学学術研究部（薬学・和漢系）の恒枝宏史教授、笹岡利安教授との共同研究により、五感機能の一つである「嗅覚」が「脂質」の代謝調節に重要な役割を果たすことを発見しました。-----

注目の幸せホルモン「オキシトシン」が食べるものによって促進できることを確認

ウェルネス総研レポートオンライン - 2022/11/14 <https://wellnesslab-report.jp/2526/>

デジタルの活用が進み、買い物や仕事、遊びや出会いも、人とのつながりの多くをオンラインが占めるようになりました。そんな社会の変化に伴って、注目されるようになってきたのが幸せホルモン「オキシトシン」です。

脳科学の視点では、幸福感は脳から分泌される3つの物質によってもたらされるといいます。そのうちの1つ、日常生活での幸福感の決め手ともいえるオキシトシンの分泌が、朝食摂取によって促進されることが近年の研究でわかってきました。さらに最新の研究では、オキシトシンを測定することで、食べたものと幸福感の関係を数値化するところまでできています。今回は、身体心理学者でオキシトシンの第一人者である桜美林大学教授 山口創先生にお話を伺いました。-----

20kHz 以上超高周波を豊富に含む音、ブドウ糖負荷後の血糖値上昇を抑制—NCNP ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/11/11

<http://www.qlifepro.com/news/20221111/diabetes-3.html>

超高周波、内受容感覚や自律神経系と密接な関係のある耐糖能に及ぼす影響は？

国立精神・神経医療研究センター（NCNP）は11月10日、ヒトの耳に音として感じることのできない20kHz以上の超高周波を豊富に含む音が、ブドウ糖負荷後の血糖値上昇を

顕著に抑制することを、世界で初めて発見したと発表した。この研究は、同神経研究所疾病研究第七部の本田学部長らと、国際科学振興財団（FAIS）情報環境研究所の大橋力所長、河合徳枝特任上級研究員らの研究グループによるもの。研究成果は、「Scientific Reports」にオンライン掲載されている。-----

国立精神・神経医療研究センター（NCNP） プレスリリース

<https://www.ncnp.go.jp/topics/2022/20221110p.html>

AIによるダイエットアドバイスが届くアプリの体重減量効果を科学的に実証－筑波大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/11/11

<http://www qlifepro.com/news/20221111/weight-loss.html>

「カロママ プラス」による介入群と非介入群を比較

筑波大学は11月10日、食事や運動、睡眠などのライフログや健康診断結果を記録すると、AIが減量や健康維持のためのアドバイスをリアルタイムに届けるダイエットサポートアプリの使用における体重減量効果を、科学的に実証したことを発表した。この研究は、同大体育系の中田由夫准教授、株式会社リンクアンドコミュニケーションの佐々木由樹氏らの研究グループによるもの。研究成果は、「Nutrients」に掲載されている。-----

筑波大学 TSUKUBA JOURNAL

<https://www.tsukuba.ac.jp/journal/medicine-health/20221110141500.html>

機械学習を用いることで腸内環境情報からビフィズス菌による便通改善効果を得られる人の予測に成功 ～オーダーメイドヘルスケアへ向けて～

株式会社メタジェン - 2022/11/18

<https://prt看mes.jp/main/html/rd/p/000000032.000051373.html>

株式会社メタジェン（本社：山形県鶴岡市、代表取締役社長 CEO・CGDO：福田真嗣、以下「当社」）は、森下仁丹株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長：森下雄司）を含む研究グループと共同研究を行い、「メタボロゲノミクス®」を用いて、「生きたビフィズス菌を摂取することにより、便通が改善する人」の腸内環境の特徴を明らかにしました。また、機械学習を用いて腸内環境の特徴からビフィズス菌摂取により便通が改善する人を予測できることを明らかにしました。その研究成果が科学雑誌「Computational and Structural Biotechnology Journal」に2022年10月25日付で掲載されました。-----

以下の4件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年11月10日～24日）から選定したものです。

乳製品の摂取量が多いほど骨折、心血管疾患、全死亡リスクが低下 コペンハーゲン在住 1,746 人を 30 年間追跡

<https://sndj-web.jp/news/002031.php> (2022/11/12)

平均 30 年という長期間追跡した縦断研究から、発酵乳製品の摂取量が骨折リスクと逆相関し、低脂肪乳の摂取量が心血管疾患や冠動脈心疾患のリスク、さらには全死因リスクとも逆相関するというデータが報告された。デンマークの一般市民 1,700 人以上を対象とする研究の結果である。-----

「朝食を多く、夕食は少なく」の減量効果に疑問符 ただし 1 日の食欲は抑制される可能性

<https://sndj-web.jp/news/002040.php> (2022/11/17)

体重管理のためには夕食を控えめにして、その分、朝食は多めに食べて良いとする考え方が既に広く浸透している。ところがこのような方法の有効性に疑問符を投げかける研究結果が「Cell Metabolism」に掲載された。クロスオーバー法による検討で減量効果に有意差は認められなかったという。ただし、食欲や空腹感は、朝食を多く食べる条件のほうが低かったとのことだ。-----

アスリートのプロバイオティクス摂取による免疫や炎症マーカーへの影響のメタ解析

<https://sndj-web.jp/news/002043.php> (2022/11/2)

高強度トレーニングに伴い筋組織の炎症や免疫能の低下が生じる。それに対して抗炎症または免疫賦活能を有するプロバイオティクスの摂取がどの程度有効なのかを、メタ解析により検討した結果が報告された。9 件の研究から、TNF- α 、IL-6、IFN- γ 、唾液中 IgA など、計 10 種類のマーカーへの影響が検討されている。台湾の研究者らの報告。-----

健康日本 21（第二次）の目標 53 件はどのくらい達成できた？ 厚労省が最終評価報告書を公表

<https://sndj-web.jp/news/002050.php> (2022/11/23)

厚生労働省はこのほど、平成 25 年にスタートした「健康日本 21（第二次）」の最終評価報告書を公表した。「健康日本 21（第二次）」では、53 項目の目標が設定されていたが、目標設定から 10 年後を目途に最終評価を行うこととされていた。-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

食品に金箔を貼って回路化、食べると電気で“塩味増強” お茶大などが技術開発

ITmedia - 2022/11/21

<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2211/21/news041.html>

お茶の水女子大学、東京大学、ヤフー株式会社、東京工科大学に所属する研究者らが発表した論文「FoodSkin:金箔（きんぱく）回路を用いて電気味覚を実現する食品拡張手法の提案」は、食品表面に金箔を貼ることで回路の一部とし、食べた際に電気刺激により味が変わる技術を提案した研究報告だ。チョコレートやクッキーに金箔を貼って実験した結果、電気味覚が生起され塩味などが増強したという感想が得られた。-----

世界初、食品・医薬等を対象としたマイクロ波多段式凍結乾燥装置「SiriusWave」の販売を開始～大幅な時間短縮と高品質化を実現～

マイクロ波化学株式会社 - 2022/11/21 <https://mwcc.jp/news/1995/>

この度、マイクロ波化学株式会社（本社：大阪府吹田市、代表取締役社長 CEO：吉野巖、以下「当社」）は、食品・医薬等を対象としたマイクロ波多段式凍結乾燥装置「SiriusWave」の販売を開始いたします。

凍結乾燥は、凍結させた固体へ熱を加えることで水分などを気化させる方法で、インスタント食品などの固形物を得たり、抗体や核酸といった熱に弱い医薬を粉末化したりするために広く使われています。しかし、熱の伝わり方が間接的かつ非効率な従来の方法では、乾燥時間を長く要することが課題になっていました。-----

■ その他

幸福学（Well-being study） 人が幸せを感じるメカニズムを研究する 学問 伊藤 瑛恵＝ライター 2022.11.10

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/11/10

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/keyword/19/00188/>

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022年12月号 No.1）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております（民間の情報源には了承を得た上で転載）。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

CBDに関する米 FDA の見解に関する内容

食品安全情報 blog2 - 2022/11/28 より

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/11/28/175754>

11月28日分の4番目と5番目の太字見出しのコンテンツ

[FDA]FDAはCBD含有食品・飲料品を違法販売する企業に警告

[FDA]食品中のカンナビジオール(CBD)から消費者を保護するためにFDAがしていること

■ 安全性関連情報

-緑茶抽出物はある種の遺伝的変異のある人の肝臓を害する可能性

食品安全情報 blog2 - 2022/12/2 より

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/12/02/181016>

12月2日分の中ほどの太字見出し「論文」の4番目の見出しになります。

食品安全情報（化学物質） 国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

12月7日時点では、前号でご紹介済みの「食品安全情報（化学物質）No. 24/ 2022（2022. 11. 22）」が最新ですが、数日中に更新があると思われます。最新版は以下の「全リスト」のURLから確認出来ます。

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示に対する改善指導について(令和4年7月～9月)

消費者庁 - 2022/11/28

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/extravagant_advertisement/assets/representation_cms214_221128_01.pdf

消費者庁では、令和4年7月から9月までの期間、インターネットにおける健康食品等の虚偽・誇大表示の監視を実施しました。

この結果、インターネットにおいて健康食品等を販売している206事業者による207商品の表示について、健康増進法第65条第1項の規定に違反するおそれのある文言等があったことから、これらの事業者に対し、表示の改善指導を行うとともに、当該事業者がショッピングモールに出店している場合には、出店するショッピングモール運営事業者に対しても、表示の適正化について協力を依頼しました。消費者庁では、引き続き、健康食品等の広告その他の表示に対する継続的な監視を実施し、法に基づく適切な措置を講じてまいります。-----

第7回ステルスマーケティングに関する検討会の資料を公表しました。

消費者庁 - 2022/11/28

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_05/031000.html

11月29日開催分です。

■ 行政・法令関連情報（その他）

食品表示法に基づく食品表示基準の一部改正に係る消費者委員会への諮問について

消費者庁 - 2022/11/30 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/031282/>

消費者庁では、本日、食品表示法(平成 25 年法律第 70 号)第 4 条第 6 項の規定により準用することとされた同条第 2 項の規定に基づき、食品表示基準(平成 27 年内閣府令第 10 号)の一部改正に係る消費者委員会への諮問を行いましたので公表します。-----

アレルギー表示の対象品目である特定原材料として「くるみ」を追加、他。

「健康食品に関する景品表示法及び健康増進法上の留意事項について」の一部改定（案）に関する意見募集の結果の公示について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/12/5

<https://public-comment.e->

[gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=235070040&Mode=1](https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=235070040&Mode=1)

健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ 2022 年度第 3 回参画事業者の募集を開始いたします。

厚生労働省 - 2022/12/1 <https://sustainable-nutrition.mhlw.go.jp/>

■ 海外公的機関情報

米 FDA、食品安全強化法による食品トレーサビリティ規則の最終規則発表、2026 年 1 月から施行（米国）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/11/24

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/11/2a9e972090f07782.html>

英政府、包装の拡大生産者責任に関するデータ報告方法を公表（英国、EU）

日本貿易振興機構（ジェトロ） - 2022/12/6

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2022/12/ada7082a7c8fd183.html>

以下の 13 件は、[食品安全委員会 食品安全総合情報システム](#)

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/12/7 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

3. [世界保健機関\(WHO\)、第 92 回 JECFA 報告書\(2021 年\)「特定の食品添加物の評価\(テクニカルレポートシリーズ No.1037\)」を公表](#)
5. [世界保健機関\(WHO\)、第 91 回 JECFA\(2021 年\)報告書「特定の食品添加物及び汚染物質の評価\(テクニカルレポートシリーズ No.1036\)」を公表](#)
18. [米国環境保護庁\(EPA\)、PFAS から地域社会を保護する上での重要な進捗について公表](#)
38. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、ヘンプ\(麻\)を含む食品/飼料の健康リスクに関する Q&A を更新](#)
42. [論文紹介: 「産業用ヘンプを給餌した乳牛におけるカンナビノイド類の乳への移行は、急性参照用量超過する \$\Delta\$ 9-THC ばく露となる可能性がある」](#)
43. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、動物飼料としてのヘンプ\(麻\)が牛の健康に影響を与える可能性についての研究結果を報告](#)
48. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、色素添加物証明書免除リストにあるスピルリナ抽出物に関する改正についての最終規則を公表](#)
50. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての *Labisia pumila* の水性エタノール抽出物の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
57. [欧州食品安全機関\(EFSA\)は、新食品としてのセロビオースの安全性に関する科学的意見書を公表](#)
59. [カナダ保健省\(Health Canada\)、食品中の栄養補助成分\(supplemental ingredient\)としてヨウ素の使用を可能とする提案\(NOP/ADP SI-005\)を通知](#)
63. [欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2022 年 11 月 9 日~11 月 22 日\)](#)
66. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、食品中のミネラルオイル成分に関する FAQ を更新](#)
67. [米国会計検査院\(GAO\)、米国食品医薬品庁\(FDA\)に対し、食品の製造、包装、及び輸送に使用される物質に対する FDA の監視を強化するよう勧告](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

米国展示会盛況、見えたトレンド（オピニオン）

健康メディア.com - 2022/11/28

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16915

11月4日までラスベガスで開催されたサプライサイドウェストは、1,100社を超える出展があり、盛況となった。編集部からも久しぶりに記者を派遣できた。

日本では“第8波”が喧伝されているが、現地でマスクをしている人はほとんどいなかったといい、アフターコロナの次なるステージに入っていることがうかがえる。

スーパーフルーツやCBDなど、米国のトレンドが日本に波及するケースは多々ある。今回は従前からのプラントベースに加え、「スポーツ」「睡眠」分野の提案が目立った。剤型では植物性カプセルのほか、「グミ」が多かった。-----

富士経済、調理済食品・アルコール飲料の国内市場調査、2023年の冷凍調理済食品市場は2022年見込比101.7%の7136億円と予測

マイライフニュース - 2022/11/29

<https://www.mylifenews.net/data/2022/11/2023202210177136.html>

総合マーケティングビジネスの富士経済は、加工食品（27カテゴリー403品目）のうち、業務用が回復に向かい、市販用の好調が続く冷凍調理済食品、夕食メニュー需要を獲得するチルド調理済食品、外食や中食総菜向けが回復しているその他調理済食品、高付加価値型商品の好調や有力ブランドのフルリニューアルで活性化するアルコール飲料の4カテゴリー63品目の市場を「2023年 食品マーケティング便覧 No.2」にまとめた。-----

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 (市場予測・動向等)

市場規模、1.2%増の211億円（特集／水素）

健康メディア.com - 2022/12/6 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16935

4年連続の市場拡大も外的要因で成長率に急ブレーキ——。本紙が今回2022年通期の水素商材の市場動向について調査した結果、市場規模は約211億円（前年比1.2%増）となったことが分かった。2022年の市場は昨年同様、水素商材の多くがニーズを拡大した一方、外的要因で製品開発面等に支障をきたし商機を逸するなど、ジレンマに陥った1年だった。この数年で水素商材のエビデンスデータも充実し、メディカル・コメディカル業界やスポーツ業界をはじめ、美容業界などでニーズが拡大。さらにコロナの影響も徐々に薄れる中、訪

日外国人の大幅な規制緩和を受け、海外展開も復活の兆しが見られる。水素初の機能性表示食品誕生にも期待が掛かる。2023 年も外的要因への懸念は残るものの、躍進の材料は整っている。-----

世界的なカシス不足、市場に打撃(特集／カシス)

健康メディア.com - 2022/12/2

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16932

カシスは、ビタミンやミネラルの豊富なスーパーフルーツ。近年はアイケアに加えて、カシス特有のアントシアニンに着目した研究が進み、血流改善、脳機能改善、更年期症状の軽減など、多彩なエビデンスが蓄積され、フェムテック、eスポーツ等の分野でも活用が進んでいる。一方で、気候変動の影響から昨年は、世界的にカシスの収穫量が減少。円安、輸送コストの上昇なども影響し、今春は原料の値上げも見受けられた。-----

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

コニカミノルタとアンリツ、食品工場 DX 推進に向けたソリューションを共同開発

MONOist - 2022/11/24

<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2211/24/news054.html>

コニカミノルタは 2022 年 10 月 31 日、食品工場の DX（デジタルトランスフォーメーション）推進に向けたソリューションをアンリツと共同開発すると発表した。また、アンリツのローカル 5G 体験施設「ANRITSU 5G LAB」にて、両社の技術を生かしたソリューションの展示を開始した。-----

■ 消費者意識等の調査・分析

今回は特に見当たりませんでした。

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

高カロリー一食の過食による肥満、分子メカニズムの一端を解明—大阪公立大

QLifePro 医療ニュース - 2022/11/25 <http://www.qlifepro.com/news/20221125/crtc1.html>

CRTC1 欠損マウスは肥満、同じく欠損で肥満する MC4R を発現する神経細胞が関連？

大阪公立大学は 11 月 21 日、遺伝子転写補助因子 CRTC1 (CREB regulated transcription coactivator-1) が受容体タンパク質 MC4R (Melanocortin-4 receptor) の肥満抑制作用の一部を媒介していること、油脂への欲求を調節するとともに高脂肪食に対して代謝を適応させ、血糖を調節していることを明らかにしたと発表した。この研究は、同大学院生活科学研究科の松村成暢准教授らの研究グループによるもの。研究成果は「FASEB Journal」に掲載されている。

大阪公立大学 プレスリリース

https://www.omu.ac.jp/info/research_news/entry-03132.html

アスリート、総トレーニング量が筋力増を決定する重要な要因の可能性 －芝浦工大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2022/11/28

<http://www qlifepro.com/news/20221128/physiology.html>

等尺性膝関節伸展・股関節屈曲トレーニング量と筋力向上の個人差を研究
芝浦工業大学は 11 月 14 日、筋力を向上させるためにはトレーニング量が重要であり、特にトレーニングによる筋力向上度合いが相対的に小さい人たちにとって、そのことが顕著であることを発見したと発表した。この研究は、同大システム理工学部の赤木亮太教授、静岡産業大学スポーツ科学部・江間諒一准教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Frontiers in Physiology」誌に掲載されている。-----

芝浦工業大学 プレスリリース

<https://www.shibaura-it.ac.jp/news/nid00002770.html>

腸内細菌の持つ「5AR 遺伝子」が、ヒトの健康指標として有用な可能性 －藤田医科大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2022/11/28

<http://www qlifepro.com/news/20221128/5ar.html>

プレバイオティクスで腸内細菌の持つ 5AR 遺伝子レベルは変化するのか？

藤田医科大学は 11 月 25 日、胆汁酸代謝物であるイソアロリトコール酸 (IsoalloLCA) とプレバイオティクスの関係の一部を解明したと発表した。この研究は、同大消化器内科学医科プレ・プロバイオティクス学の廣岡芳樹教授、栃尾巧教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Nutritional Science and Vitaminology」オンライン版に掲載されている。----

藤田医科大学 プレスリリース <https://www.fujita-hu.ac.jp/news/j93sdv000000gt3k.html>

ビフィズス菌 BB536 摂取で、高齢者の慢性便秘症や上腹部症状が改善 —順大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/11/30

<http://www qlifepro.com/news/20221201/bb536.html>

高齢者の慢性便秘症における「ビフィズス菌 BB536」の有効性・安全性を検証

順天堂大学は 11 月 28 日、高齢者慢性便秘症患者に対してビフィズス菌（*Bifidobacterium longum*） BB536（以下、ビフィズス菌 BB536）摂取介入のプラセボ対照二重盲検試験を日本で初めて実施し、便秘症状の改善と上腹部症状の改善を確認したと発表した。この研究は、同大医学部附属 順天堂東京江東高齢者医療センター 消化器内科の竹田努准教授、浅岡大介先任准教授、同大大学院医学系研究科 ジェロントロジー研究センターの大草敏史特任教授、佐藤信紘特任教授らの研究グループによるもの。研究成果は、「the American Journal of GASTROENTEROLOGY」オンライン版に掲載されている。-----

順天堂大学 プレスリリース <https://www.juntendo.ac.jp/news/20221128-03.html>

日本人腸内細菌・ウイルス叢ゲノムをデータベース化、病気や食生活との 関連解明—阪大

QlifePro 医療ニュース - 2022/12/2

既存データベースの腸内細菌ゲノム、日本人集団に由来するものは少ない

大阪大学は 12 月 1 日、日本人集団 787 人の腸内微生物叢シーケンス情報から、細菌・ウイルスのゲノム配列を再構築してデータベース化し、開発したデータベースと既存のデータベースとの統合解析により、日本人集団の腸内細菌の特徴、および海外を含めた食事・病気・人種集団と腸内微生物との関係を明らかにしたと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科の友藤嘉彦博士課程学生、岡田随象教授（兼 理化学研究所生命医科学研究センター システム遺伝学チーム／東京大学大学院医学系研究科遺伝情報学）らの研究グループによるもの。研究成果は、「Cell Genomics」にオンライン掲載されている。-----

大阪大学大学院医学系研究科・医学部 主要研究成果

https://www.med.osaka-u.ac.jp/activities/results/2022year/okada2022-11-29_1

大妻女子大学の青江誠一郎教授らによる研究で、金色のユーグレナ（パ ラミロン EOD-1）の摂取によるメタボリックシンドローム関連指標の 改善を世界で初めて確認

大学プレスセンター - 2022/12/7 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-49591.html>

大妻女子大学（東京都千代田区）家政学部食物学科の青江誠一郎教授と株式会社神鋼環境ソリューション（神戸市中央区）は、軽度肥満の成人男女を対象として「金色のユーグレナ（パラミロン EOD-1）」の摂取によるメタボリックシンドローム関連指標の改善効果について共同研究を実施。その研究成果が 2022 年 11 月 17 日に国際学術誌「Food Science & Nutrition」に掲載された。ヒト試験により改善が確認された世界初の論文となる。（Food Science & Nutrition ; <https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1002/fsn3.3130>） -----

◎毛細血管やリンパ管からの健康、最新知見揃う◎

Tie2（タイツー）・リンパ・血管研究会 第 8 回学術集会盛況に開催 医薬・食品など加速する実用化

ウェルネス総研レポートオンライン - 2022/11/30 <https://wellnesslab-report.jp/2560/>

Tie2（タイツー）・リンパ・血管研究会(会長:大阪大学微生物病研究所情報伝達分野 教授 高倉伸幸氏)は 10 月 20 日、第 8 回学術集会を都内・八芳園(港区白金台)で開催した。加齢に伴う未病から老化関連疾患への移行を防ぐ上で、毛細血管の内側(血管内皮)に存在する Tie2 受容体の活性化の重要性を訴え十余年、近年では Tie2 理論による治療薬の登場など、その活動がいよいよ実を結んできた。今会合では基礎から臨床、食品成分まで縦断的に 4 題の講演が行われ、眼科での実用化やリンパ管、糖化との関係、皮膚の 3 次元的可視化など、今後の研究領域の広がりを予感させる内容となった。-----

研究結果：CBD の用途はリラクゼーション・睡眠改善・不安軽減・健康増進・抑うつ軽減であることが明らかに

日本臨床カンナビノイド学会 - 2022/11/30

http://cannabis.kenkyuukai.jp/information/information_detail.asp?id=131773

日本臨床カンナビノイド学会と Green Zone Japan が国内初のユーザー調査結果を学術誌にて報告

概要：

日本臨床カンナビノイド学会副理事長の正高佑志医師（一般社団法人 Green Zone Japan）と同学会前理事長の新垣実医師（医療法人新美会）らの研究チームは、日本国内のカンナビジオール（CBD）製品ユーザーを対象とした匿名のオンライン調査を実施し、日本における CBD 製品の用途や有効性について初めて明らかにしました。本研究成果は国内の査読学術誌である『日本統合医療学会誌 Vol.15 No.2(2022 年 11 月)』に掲載されました。-

チロシン不足は腹ペコの合図

理化学研究所 - 2022/11/30 https://www.riken.jp/pr/closeup/2022/20221130_1/index.html

自然界の生きものは、食べ物に含まれる栄養素の不足に敏感です。中でも、タンパク質に含まれるアミノ酸を感知する仕組みは「アミノ酸センシング機構」と呼ばれ、タンパク質不足を回避するための「飢餓適応応答」を起こします。小坂元 陽奈 基礎科学特別研究員らは、非必須アミノ酸であるチロシンの感知が、タンパク質の不足に備えた重要な役割を担っていることを明らかにしました。-----

「NMN、ブームへの警鐘」、今井眞一郎ワシントン大学卓越教授

老化・寿命研究の最前線を語る 取材・文／福島 安紀＝医療ライター 2022.12.2

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/12/2

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/feature/00004/112900384/>

以下の3件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年11月25日～12月7日）から選定したものです。

体内の水分量は1日で1割が失われる 23カ国、5,604人の国際共同研究から世界初の予測式を構築

<https://sndj-web.jp/news/002057.php> (2022/11/29)

23カ国、5,604人を対象とする国際共同研究の結果を基に、ヒトの体の水分の代謝回転を予測する計算式が構築された。国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所、早稲田大学、京都先端科学大学、筑波大学の研究者らの研究の成果であり、ライフサイエンス領域のトップジャーナル「Science」に論文が掲載されるとともに、各大学のサイトにプレスリリースが掲載された。-----

コーヒー好きにはサルコペニアが少ない？ 交絡因子調整後も摂取量と逆相関 日本人での調査

<https://sndj-web.jp/news/002060.php> (2022/12/2)

コーヒーの摂取量が多い人にはサルコペニアが少ない可能性を示すデータが報告された。早稲田大学スポーツ科学研究センター招聘研究員・明治安田厚生事業団体力医学研究所の川上諒子氏らが、早稲田大学の卒業生や配偶者を対象に行われている「WASEDA' S Health

Study」のデータを解析した結果であり、「The British Journal of Nutrition」に論文が掲載された。-----

女性は魚介類を摂ると動脈硬化が抑制される可能性 日本人約 2,000 人の頸動脈 IMT を解析

<https://sndj-web.jp/news/002065.php> (2022/12/3)

女性は、魚介類を摂取することで、頸動脈内膜中膜複合体厚に予防的に作用する可能性が報告された。愛媛大学が主導する共同研究チームの研究の成果であり、「Journal of Atherosclerosis and Thrombosis」に論文が掲載されるとともに、同大学のサイトにプレスリリースが掲載された。-----

■ その他の食品関連科学・技術情報

NOSTER、腸内細菌が作り出す脂肪酸代謝物を包括的に分析する手法を構築

NOSTER 株式会社 - 2022/11/25

<https://kyodonewsprwire.jp/release/202211240340>

Noster（ノステル）株式会社（本社：京都府向日市、代表取締役 CEO：北尾浩平、以下「NOSTER」）は、慶應義塾大学薬学部の有田誠教授との共同研究で、LC-MS/MS を用いて、機能性脂肪酸「HYA™（エイチワイエー）[*1]」を含む 45 種の脂肪酸代謝物を包括的に解析する手法を確立しました。本研究成果は、学術誌「Medical Mass Spectrometry」に掲載されました。-----

[味香り戦略研究所 自主調査結果リリース]

《分析発表》コロナ禍でも売れ続けた「水」の“おいしさ”をビッグデータで解明 ～「水」でこんなに変わる、いつもの食卓～

コシヒカリ 6 産地を味比べ&検証「水と鍋」の相性

株式会社味香り戦略研究所 - 2022/11/24

<https://www.mikaku.jp/case/press20221124.html>

10 万品を超える味覚データベースを基に、「食」を科学する株式会社 味香り戦略研究所（本社：東京都中央区、代表取締役社長：小柳 道啓）は、感性工学技術を活用した「味覚センサー」を用いて、各社のミネラルウォーターの味わいと、水が及ぼす料理などへの影響について、味覚分析した。

株式会社 味香り戦略研究所は、世界中の食品の味覚ビッグデータや AI 解析技術を駆使し、食品の「味」を数値化する手法で、「味」をわかりやすく表現する次世代のフードテックシンクタンク企業である。-----

植物の栄養素「リン酸」の吸収・利用効率を高める新手法を開発 -- 肥料を低減した持続可能な農業などへ応用に期待 -- 東京工科大学応用生物学部

大学プレスセンター - 2022/11/28 <https://www.u-presscenter.jp/article/post-49534.html>

東京工科大学（東京都八王子市、学長：大山恭弘）応用生物学部の多田雄一教授らの研究チーム（注1）は、植物の重要な栄養素「リン酸」の吸収・利用効率を高める新手法を開発、低リン酸および通常のリン酸の両条件において高い生産性を示す植物を作出することに成功しました。

本研究成果は、植物科学専門誌「Plant Science」（インパクトファクター：5.363）電子版に2022年11月19日に掲載されました。-----

■ その他の科学・技術情報

医薬品等の副作用で生じるミトコンドリア毒性※1の指標分子を特定

国立研究開発法人産業技術総合研究所 - 2022/12/1

https://www.aist.go.jp/aist_j/press_release/pr2022/pr20221201/pr20221201.html

医薬品等の副作用で生じるミトコンドリア毒性※1の指標分子を特定

—創薬研究における医薬品の新たな毒性評価法への応用に期待—

近畿大学生物理工学部（和歌山県紀の川市）教授 財津桂、国立研究開発法人 産業技術総合研究所（茨城県つくば市）主任研究員 井口亮、田辺三菱製薬株式会社（神奈川県藤沢市）主任研究員 日比野優衣の研究グループは、メタボローム解析※2と生物情報科学※3を用いて、医薬品などの副作用として生じる薬物性肝障害※4の要因となる、ミトコンドリア毒性の機序を判別するための指標分子を明らかにしました。本研究成果は、今後、創薬研究における医薬品の新たな毒性評価法確立への応用が期待されます。

本研究成果は令和4年（2022年）12月1日（木）AM8：45（日本時間）に、毒性学に関する国際的な学術誌“Toxicology and Applied Pharmacology”に掲載されます。-----

中外製薬がデジタルプラント実現に向け、浮間工場でデジタル基盤を稼働

MONOist - 2022/12/1 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2212/01/news062.html>

中外製薬は2022年11月7日、日本アイ・ビー・エムと共同で、デジタルプラントの実現に向けた、新しい生産オペレーションを支えるデジタル基盤を構築したと発表した。グループ会社の中外製薬工業の浮間工場で、既に稼働を開始している。-----

フローティングリニア技術の活用で、複雑な同時多品種生産が可能に

MONOist - 2022/12/1 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2212/01/news068.html>

花王は2022年11月10日、フローティングリニア技術を活用した、加飾成形技術とダイナミックセル生産技術を開発したと発表した。B&Rと京都製作所との協働による成果で、新たな生産システムを構築し、2023年中に稼働する予定だ。

永久磁石を内蔵した物体を浮遊させて搬送するフローティングリニア技術は、-----

PLANT DATA・アグリマインド・マクニカ、植物の生体データとAIを用いた収量予測やコスト最適化を行う実証実験を開始

IoT News - 2022/11/29 <https://iotnews.jp/archives/208160>

農業における就業人口の減少と高齢化は社会的な課題となっており、営農ノウハウの可視化や栽培技術の継承など、日本の農業を守り、また発展させていく取り組みが必要である。また、農林水産省がカロリーベースの食料自給率37.17%（2020年）から45%（2030年）に高める目標を掲げている一方で、気候変動による収穫量の減少、生産現場でのフードロスの増加など、持続的・安定的な食料の供給のための課題がある。-----

■ その他

商品の環境性、どう表示すれば消費者に伝わるのか

株式会社オルタナ/オルタナオンライン（無断転載を禁じます） - 2022/12/1

<https://www.alterna.co.jp/61508/>

記事のポイント

1. 環境配慮を主張する根拠が明確に示されている商品は決して多くない
2. 消費者は「なんとなく」環境にやさしいであろう商品を買うしかない状況だ
3. 商品の環境性を正確に提示していくにはどのようなやり方があるのか

以上

健康食品等に関する 日本語記事情報（2022年12月号 No.2）

本文書では、インターネットの日本語記事情報から、（公財）日本健康・栄養食品協会 学術情報部が独自の視点で皆様の事業遂行に役立つと判断したものをご紹介します。

（例：法令・行政情報、新製品・新分野の製品の企画開発及び研究開発のお役立ち情報、安全性確保の取組みに活用出来る情報、その他ビジネス環境変化に係る情報等）

なお、記事の内容の正確性を当協会が保証するものではありません。また、特定の企業、食品素材・成分、製品などの情報が含まれる場合においても、当協会が支援・推進・推奨するものではありません。

英文記事情報については別途お送りいたします。

記事によっては短期間でリンク切れになるものがあります。その点ご了承ください。

○ 記事一覧

基本情報（記事見出し、出典・日付、URL）と冒頭文または記事のポイントとなる部分を表示しております（民間の情報源には了承を得た上で転載）。なお、基本情報のみで記事内容の把握が可能と思われる場合は基本情報のみとしております。

■ 注目記事

NNB10 キートレンド著者に聞く！ 食品健康ビジネスにおける成功の鍵

ウェルネス総研レポート online - 2022/12/14 <https://wellnesslab-report.jp/2570/>

食品健康ビジネスでチャンスをつかみ、自社製品を成功へと導くには国内トレンドに加えてグローバルなメガトレンドを把握し、戦略を立てることが必要です。しかし、トレンドの背景にある社会情勢や多角的な視点での分析をおこなうことは容易ではありません。

そこで、世界的な大手企業やスタートアップ企業など幅広い専門家が参考にしている「NNB10 キートレンド 2023」の著者で New Nutrition Business の Julian Mallentin 氏に、ニュートリション業界の最新海外トレンドについてうかがいました。とくに、日本と欧米の相違点をふまえたビジネスチャンスや参考となる成功事例、さらに失敗事例に関する解説は必見……

花王、CDP から 3 年連続「トリプル A」 世界でもわずか 1.3%

「株式会社オルタナ/オルタナオンライン」（無断転載を禁じます） - 2022/12/13
<https://www.alterna.co.jp/62850/>

記事のポイント

1. 花王は 12 月 13 日、国際 NGO CDP からトリプル A 評価を受けたと発表
2. CDP は企業が開示した環境情報をもとに 8 段階で格付けする国際 NGO
3. トリプル A 評価を受けた企業は評価対象 1 万社以上の内わずか 12 社（1.3%）

補足：CDP A リスト企業ならびに他の公開スコア

<https://www.cdp.net/en/companies/companies-scores>

日本経済新聞の記事によると、評価対象（3分野）のどれか1つでも最高評価のA評価を取得した日本企業は91社とのことです。ネットで検索したところ、花王株式会社以外にも当協会会員企業（関連企業含む）の名前が9社ほどヒットしました。

■ 安全性関連情報

食品安全情報 blog2 - 2022/12/7

<https://uneyama.hatenablog.com/entry/2022/12/07/173719>

興味深い内容が多かったので取り上げました。以下、特に気になった見出しです。

[MPI]一般消費者への直接販売を意図しないポピーシードのリコール

[EFSA]亜硫酸塩：多量摂取者に安全上の懸念、だがデータ不足

安全性の閾値に関する EFSA（欧州食品安全機関）パネルの議長のコメントの中に、暴露マージン（MOE）への言及がありましたのでご紹介いたします。

「入手可能な毒性学データは、許容一日摂取量(ADI)を導出するには不十分だった。その代わりに、食事摂取量や動物実験の神経毒性と関連する用量を考慮して暴露マージン(MOE)を算出した。----- MOE は、有害影響が見られる最小推定量とその物質の暴露量との割合である。亜硫酸塩の場合、割合が 80 未満だと安全上の懸念を示す可能性がある。

[EPA]EPA は州に有害 PFAS 汚染を減らすためのガイダンスを発表

[COT]ポジションペーパー

- 母親の食事中的カドミウムによるリスクの可能性についての声明
- 食品中 PFAS の存在に関連するヒト健康リスクについての EFSA の意見への声明
- 過剰なビタミン A の母親の健康への影響についての声明
- 妊娠前、妊娠中、授乳中の過剰なヨウ素摂取の影響の可能性についての声明

[COT]2022 年 12 月 14 日の会合

議題

- ・ EFSA の 2022 年のアクリルアミドの遺伝毒性評価についてのディスカッションペーパー
- ・ ターメリックとクルクミンサプリメントのヒト健康リスクの可能性についての二次声明案

その他

-SMC UK

超加工食品摂取と認知低下の関連を調べた研究への専門家の反応

「**英文記事情報（2022年12月号 No.1）**」でご紹介した研究に関連したコンテンツ。批判的な意見が多いようです。

食品安全情報（化学物質） No. 26/ 2022（2022. 12. 21）

国立医薬品食品衛生研究所 安全情報部

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/2022/foodinfo202226c.pdf>

全リスト

<http://www.nihs.go.jp/dsi/food-info/foodinfonews/index.html>

■ 表示、販売等に関する行政機関のアクション情報等

今回は特に見当たりませんでした。

■ 行政・法令関連情報（その他）

第 7 回 景品表示法検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2022/12/9

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_04/030350.html

第 8 回 景品表示法検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2022/12/9

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_04/030660.html

第 10 回 景品表示法検討会の資料を公表しました

消費者庁 - 2022/12/21

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_04/031362.html

2022年12月22日開催

第5回ステルスマーケティングに関する検討会の議事録を公表しました。

消費者庁 - 2022/12/15

https://www.caa.go.jp/policies/policy/representation/meeting_materials/review_meeting_05/030513.html

第8回 ステルスマーケティングに関する検討会の開催について

消費者庁 - 2022/12/20 <https://www.caa.go.jp/notice/entry/031490/>

傍聴の申込締切は、12月23日15時です。

「フードテック推進ビジョン（案）」及び「ロードマップ（案）」についての意見・情報の募集について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/12/11

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCMMSTDETAIL&id=550003602&Mode=0>

「日本薬局方の一部を改正する件（案）について」に関する御意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/12/12

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495220114&Mode=1>

「食薬区分における成分本質（原材料）の取扱いの例示リスト」の一部改正に関する意見募集の結果について

e-Gov パブリック・コメント - 2022/12/19

<https://public-comment.e-gov.go.jp/servlet/Public?CLASSNAME=PCM1040&id=495220198&Mode=1>

■ 海外公的機関情報

以下の 16 件は、**食品安全委員会 食品安全総合情報システム**

(<https://www.fsc.go.jp/fsciis/>) の更新情報 (2022/12/21 確認) の中から、気になったものを選定しました。

[見出しのクリックで内容をご覧頂けます。](#)

1. [カナダ食品検査庁\(CFIA\)、「特定の缶詰食品に含まれるビスフェノール A\(BPA\)と BPA 代替物質」を対象とした調査の最終報告書を公表](#)
5. [世界保健機関\(WHO\)、ヒ素に関するファクトシートを更新](#)
9. [欧州委員会\(EC\)、食品中の 4 種類の化学物質\(PFOS、PFOA、PFNA、PFHxS\)から市民を守るための新規則を採択した旨を公表](#)
11. [ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、ヒト乳オリゴ糖\(HMO\)あるいはガラクトオリゴ糖\(GOS\)を含む乳児用調整乳、フォローアップ調整乳の健康効果に関する意見書を公表](#)
17. [英国毒性委員会\(COT\)、パーフルオロアルキル化合物およびポリフルオロアルキル化合物の健康影響に基づく指標値\(Health-Based Guidance Values \(HBGVs\)\)のサマリーを公表](#)
19. [英国毒性委員会\(COT\)、ウコン及びクルクミン含有サプリメントがヒトの健康に及ぼす潜在的リスクに関する第 2 声明草案を公表](#)
21. [米国環境保護庁\(EPA\)、有害化学物質排出目録\(TRI\)への PFAS データの報告を強化するための規則を提案し、特定の PFAS 排出の開示を避けるために利用される免除を廃止することを公表](#)
22. [米国環境保護庁\(EPA\)、産業廃水及び PFAS 許可に関する州への新たな覚書を発行](#)
40. [欧州食品安全機関\(EFSA\)、新食品としての Lemna minor 及び Lemna gibba の植物全体に由来する原材料の安全性に関する科学的意見書を公表](#)
46. [米国食品医薬品庁\(FDA\)、食物アレルギーの表示要件に関するガイダンスを公表](#)

[50. 米国環境保護庁\(EPA\)、有害物質規制法\(TSCA\)の PFAS の報告及び記録保持要件に関する規則案を公表](#)

[51. 欧州連合\(EU\)、食品安全に関する規則等を官報で公表\(情報収集対象期間:2022年11月23日~12月6日\)](#)

[52. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、二酸化硫黄-亜硫酸塩類\(E220-E228\)の再評価に関する科学的意見書の簡略版を公表](#)

[53. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、二酸化硫黄-亜硫酸塩類\(E220-E228\)の再評価に関する科学的意見書を公表](#)

[54. 欧州食品安全機関\(EFSA\)、食品接触材料における可塑剤として用いられる可能性があるフタル酸エステル類、化学構造類似物質及び代替物質のリスク評価の一部としてのハザード評価用の実施計画書に関するテクニカルレポートを公表](#)

[56. ドイツ連邦リスク評価研究所\(BfR\)、ニッケルについて BfR-MEAL・スタディに基づく食品経由の長期摂取の評価について公表](#)

■ 市場予測、動向（食品・健康食品全般）

[SNSで理想のライフスタイル追求 健康トレンドは、腸活、細胞美容など](#)

健康メディア.com - 2022/12/21

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16979

天猫（Tモール）、淘宝（タオバオ）などを運営する中国ネット通販の雄・アリババ。年間アクティブユーザーは10億人を超える。また、越境ECプラットフォーム「天猫国際」では、日本企業を含む海外ブランドを積極的に誘致しており、今年の「独身の日セール」には、約29万ブランド、1,700万品以上の商品が出品された。天猫国際、医薬保健部門リーダーの王紅梅氏に話を聞---

■ 具体的健康ニーズ・素材・成分、製品情報 （市場予測・動向等）

[健康と美容求め 成長続くスポーツサプリ（特集／スポーツニュートリション）](#)

健康メディア.com - 2022/12/7 https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16942

スポーツニュートリション市場は急成長を続け、1,100億円市場を超える勢いだ。スポーツ庁の調査によると、週1日以上スポーツを行う人は56.4%と、3年間高水準で推移。その内、スポーツを行う理由を「健康のため」と回答した人は76.2%に上り、スポーツ愛好家以外にも、健康維持を目的に軽運動を行う人や、健康美を望む女性、アクティブシニアなど、スポーツ実施者は広がりを見せている。特にプロテインの人気は幅広い世代で高まり、市場は2019年より2ケタ成長を続ける。また、従来の機能性原料を新たなエビデンスに基づいて、スポーツ向けに提案を行う動きや、新素材の提案も一層活発化して……

「白色着色料」「低アレルゲン育種」など 食用昆虫、利用シーン拡大 (連載／話題追跡)

健康メディア.com - 2022/12/13

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16951

食用昆虫の利用がじわじわと拡大している。国内市場では、大手コンビニがコオロギ粉末を使用したプロテインバーとクッキーの販売を開始したほか、国際線機内食での提供も始まった。利用の裾野は化粧品やペットフードにも。今年は大手ペットフードメーカーがコオロギ粉末入りおやつを開発し新規参入を果たした。一方で食品以外での新たな用途開発も進む。海外市場では白いカブトムシでつくる白色着色料が話題に。二酸化チタンの代替品として注目を集めている。また、研究面では、脂肪蓄積抑制効果についての知見が報告されるなど有用性が明らかにされつつある。ゲノム編集による育種では、低アレルゲン系統の実用化に向けた研究開発も進んで……

馬油製品、フェムケア分野に商機 (特集／馬の油)

健康メディア.com - 2022/12/14

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16965

新型コロナ禍でマスク常用に伴う肌荒れや大人ニキビ対策、アルコール消毒による手荒れ対策として、馬油製品のニーズが伸長している。馬油の脂肪酸組成はヒトの皮下脂質に近く、肌への浸透性は抜群。古来より火傷やアカギレなど皮膚治療の民間薬として用いられてきた実績を持つことから、コロナ禍で肌荒れに悩む女性の心を掴んでいる。さらに、産後の妊娠線やデリケートゾーンケアなどへの有用性は、最近話題の“フェムケア”対応としてもビジネスチャンスに繋がる可能性を秘める。10月には外国人観光客への入国が大幅に緩和され、円安が進む中、インバウンド需要の回復にも期待される。ここに来て再び、馬油市場にフォローの風が吹いて……

米国で人気剤型に変化 グミサプリ席卷 (連載／話題追跡)

米国でグミ剤型のサプリメントが増えている。食品原料の展示会では、グミの提案が活発化。ドラッグストアではビタミン補給や睡眠サポートグミが棚をにぎわしている。国内でもZ世代を中心にグミの重要が増えガムを抜く市場規模に。メーカー各社からは男性向け、スポーツ向けグミなどの発売が相次いでいる。こうした中、健康訴求のグミサプリが注目を---

■ 市場・企業動向、注目ビジネス情報

花王、生活者と直接つながる双方向デジタルプラットフォーム「My Kao」を運用開始

IoTNews - 2022/12/16 <https://iotnews.jp/ai/209554/>

-----。My Kaoでは、暮らしのお役立ち情報や、サステナブルな暮らし・社会に向けた、花王の「もったいないを、ほっとけない。」取り組みの紹介、花王の各ブランドの旬な情報などを集約して発信する。例えば、生活者研究やモノづくりを通して得た、エビデンスに基づく知見や役立ち情報を配信したり、花王ならではのモニタリング体験を通じて一人ひとりに最適な解決方法を提供-----

■ 消費者意識等の調査・分析

「クラシル」が2022年の食トレンド分析結果を発表 食品値上げで節約志向が高まり、食材代用レシピの再生数が伸長

コロナ禍で定着した自炊、2022年は”ちょい足し”で健康を意識する傾向に

dely 株式会社 - 2022/12/16

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000299.000019382.html>

国内 No.1 のレシピプラットフォーム「クラシル」(※1)は、「クラシル」内の検索キーワードや検索数をもとに分析した2022年の食トレンドを公開します。(※2)

2022年は行動制限が緩和され、日常を取り戻しつつありますが、原材料高騰や円安の影響で食品の値上げが相次ぎ、家庭における食意識にも変化が見られました。

■2022年の検索結果から見てきた、2つの食意識

①”ちょい足し”で、飽きずに健康的な食事に

コロナ禍の2020年以降、体型維持や予防の観点から「健康」を意識するユーザーが増加。2022年は健康的で完璧な食事を目指すのではなく、「ちょい足し」で飽きずに健康的な食事を継続する傾向にありました。その中から3つのキーワードをご紹介します---

第17回中高年者縦断調査 健康状態「ずっとよい」、4割下回る

健康メディア.com - 2022/12/21

https://www.kenko-media.com/health_idst/archives/16972

厚生労働省は11月24日、第17回中高年者縦断調査の概況を発表、健康状態が「第1回からずっとよい」の割合は、前回調査を2ポイント下回る38.3%となり、4割を割り込んだ。「ずっとよい」は年々減少-----

[29202] 大豆食品に関するアンケート調査（第7回）

マイボイスコム株式会社

https://myel.myvoice.jp/products/detail.php?product_id=29202

■ 食品・食品成分の生理機能、健康関連科学情報

CKD患者に向けた「低たんぱく質米」、食事療法のアドヒアランスを向上 - 新潟大ほか

QlifePro 医療ニュース - 2022/12/8

<http://www.qlifepro.com/news/20221208/low-protein-rice-ckd.html>

慢性腎臓病患者の食事療法、タンパク質制限の難しさから臨床研究は極めて困難だった新潟大学は12月7日、「慢性腎臓病患者における治療用特殊食品（低たんぱく質米）の使用がタンパク質摂取量に与える効果に関する多施設共同無作為比較試験」を行い、その結果、低たんぱく質ごはんの使用がCKD患者の食事療法における、タンパク質制限のアドヒアランスを向上させるだけでなく、腎障害の程度を示す尿タンパク量を減少させたと発表した。この研究は、同大学院医歯学総合研究科腎研究センター病態栄養学講座の細島康宏特任准教授、蒲澤秀門特任助教、亀田製菓株式会社、サトウ食品株式会社、株式会社バイオテックジャパン、ホリカフーズ株式会社らの研究グループによるもの。研究成果は、「Kidney360」に掲載されて-----

▼関連リンク

新潟大学 ニュース <https://www.niigata-u.ac.jp/news/2022/302994/>

冒頭だけ見ると誤解してしまいそうですが、記事を読むと「コリンセラ属の増加」と「ビフィズス菌の減少」が関連しているとの内容でした。また、「健常者に比べてDLBで減少した細菌は、全てSCFA産生菌だった。」との記述もありました。

認知症の発症に、共通の腸内細菌が関与している可能性一名大ほか

QLifePro 医療ニュース - 2022/12/14

<http://www.qlifepro.com/news/20221214/dementia-5.html>

DLB と PD の違いに関わる腸内細菌や代謝産物を調査

名古屋大学は 12 月 13 日、腸内細菌コリンセラ属やビフィズス菌が、レビー小体病の一つ「レビー小体型認知症 (DLB)」の発症に関係する可能性があることを発見したと発表した。この研究は、同大大学院医学系研究科 (研究科長・木村宏)・オミックス医療科学の平山正昭准教授、神経遺伝情報学の大野欽司教授、同・西脇寛助教らの研究グループと、岡山能神経内科クリニックの柏原健一院長、岩手医科大学神経内科老年科学の前田哲也教授、福岡大学能神経内科学の坪井義夫教授らの共同研究によるもの。研究成果は、「npj Parkinson's Disease」オンライン版に掲載されて……

▼関連リンク

・名古屋大学 研究成果発信サイト

<https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2022/12/post-375.html>

細胞膜中の過剰なコレステロールを感知し、恒常性を保つメカニズムの一端を解明—京大

QLifePro 医療ニュース - 2022/12/16

<http://www.qlifepro.com/news/20221216/cholesterol.html>

哺乳類の細胞の小胞体でコレステロール濃度が 5mol% に維持されている理由は不明だった京都大学は 12 月 8 日、細胞膜中のコレステロール濃度を感知し恒常性を保つメカニズムの一端を明らかにしたと発表した。この研究は、同大アイセムス (高等研究院 物質—細胞統合システム拠点) の植田和光特定教授、小笠原史彦特定研究員らの研究グループによるもの。研究成果は、「Journal of Biological Chemistry」に掲載されて……

▼関連リンク

・京都大学アイセムス 物質—細胞統合システム拠点 研究

<https://www.icems.kyoto-u.ac.jp/news/7648/>

大麦β-グルカンと同様にアラビノキシランは短鎖脂肪酸の産生を増加させることにより GLP-1 分泌を促進する

株式会社はくばく - 2022/12/21 [d45708-108-94d5ab9b0f0e8026a9b83c2e7efcd5b3.pdf](https://www.hakubaku.co.jp/press/20221221_01.pdf)

穀物のリーディングカンパニー株式会社はくばく(本社：山梨県中央市、代表取締役社長：長澤 重俊)は、大妻女子大学家政学部青江誠一郎教授との共同研究により、大麦に含まれる水溶性食物繊維であるアラビノキシランは大麦β-グルカンと同様に短鎖脂肪酸の産生を増加させることにより GLP-1 分泌を促進することを明らかにしました。これにより大麦はアラビノキシランとβ-グルカンの2つの水溶性食物繊維により腸内発酵を通じて生理機能に影響を与えていることを示しました。

本研究は科学雑誌『Biochemistry and Biophysics Reports』(Biochem Biophys Rep. 2022 :101343)に掲載-----

フレイル※1 に関与する自律神経機能※2 と生活習慣病関連因子※3 や腸内細菌叢※4 の関係を見出し — 健康ビッグデータを活用したフレイル予防研究 —

株式会社ファンケル - 2022/12/21

https://www.fancl.jp/news/20220044/news_20220044.html

株式会社ファンケルと国立大学法人弘前大学(所在：青森県弘前市／学長・福田眞作、以下、弘前大学と表記)の研究グループは、弘前大学が実施する「岩木健康増進プロジェクト※5 健診」で得られた健康ビッグデータを活用し、フレイルに関与する自律神経機能や生活の質(=Quality of Life、以下QOLと表記)の向上に関する因子を調査しました。

その結果、自律神経機能の一つである心拍変動※6 は、加齢や肥満に伴って低下するとともに、生活習慣病関連因子や腸内細菌叢に関係していることを発見しました。さらに、生活習慣病関連因子の一つである糖化マーカー※7 が、QOLに関連していることも発見-----

皮膚常在細菌「S.ホミニス」が美肌に導くことを発見 肌上に共生する細菌のはたらきを活かした美肌ケアの提案

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス - 2022/12/8

http://www.pola-rm.co.jp/pdf/release_20221208.pdf

ポーラ・オルビスグループの研究・開発・生産を担うポーラ化成工業株式会社(本社：神奈川県横浜市、社長：釘丸和也)は、皮膚に共存する S.ホミニス※1 と肌状態の関係性を研究し、以下の知見を発見しました。

※1 Staphylococcus hominis (スタフィロコッカス ホミニス) (補足資料 1)

- ① 肌の状態が良い人は S.ホミニスが肌上に多く、S.ホミニスが毛穴等の改善効果を有することを発見
- ② S.ホミニスの増殖を促すエキス、また、肌トラブルの原因細菌の増殖を阻害できるエキス

を発見

本知見は、人間と共生する細菌のはたらきを活かす肌ケアの発展に寄与すると考えています。なお、研究成果①の結果は国際学術誌である「Skin Research & Technology」に掲載されました（補足資料 2）

皮膚マイクロバイオームの多様性が 特定の肌状態だけでなく加齢変化にも関わることを発見

株式会社コーセー - 2022/12/20

<https://www.kose.co.jp/company/ja/content/uploads/2022/12/20221220.pdf>

株式会社コーセー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：小林 一俊）は、234 名の日本人女性の顔のマイクロバイオーム（細菌叢）と油分量などの皮膚状態を網羅的に解析することで、皮膚マイクロバイオームの多様性（複数種類の常在菌が共存していること）が、毛穴やキメなどの肌状態の違いだけでなく、肌の明るさの加齢変化にも相関があることを明らかにしました（図 1）。なお、この研究成果の一部は、フランス化粧品協会が発行する化粧品や肌に関する国際学術誌「International Journal of Cosmetic Science (IJCS)」に掲載され、2021 年に同誌に掲載された 77 論文の中で最も優れた論文として「ベストペーパー賞」を受賞-----

生薬「甘草」の染色体スケールのゲノム解読に成功 一薬効成分を作る遺伝子クラスターを解明

理化学研究所 - 2022/12/20 https://www.riken.jp/press/2022/20221220_1/index.html

かずさ DNA 研究所

千葉大学

大阪大学

国立遺伝学研究所

理化学研究所（理研）環境資源科学研究センター 統合メタボロミクス研究グループのアミット・ライ 研究員、斉藤 和季 グループディレクター、かずさ DNA 研究所の平川 英樹 主任研究員、千葉大学大学院 薬学研究院の山崎 真巳 教授、大阪大学大学院 工学研究科の村中 俊哉 教授、国立遺伝学研究所の豊田 敦 特任教授らの共同研究グループは、漢方薬や天然甘味料の原料として使われる重要生薬の甘草（カンゾウ）の染色体スケールの高品質ゲノム配列を解読しました。

本研究成果は、今後、バイオテクノロジーを用いた甘草の品種改良や薬効成分の生産向上に役立つと期待-----

【寄稿】 Tie2 活性化のリアルワールド ～基礎・臨床・未病～

ウェルネス総研レポート online - 2022/12/22 <https://wellnesslab-report.jp/2595/>

-----。

私たちが開催している Tie2（タイツー）・リンパ・血管研究会で注目している血管内皮細胞に発現する Tie2 受容体の活性化は、血管構造の安定化による血管透過性の抑制をもたらし、病的血管新生を抑制することでさまざまな疾患に効果があることが基礎医学的に証明されてきた。そこで、これまでこの研究会では、老化関連疾患の未病からの進行の抑制に向け Tie2 を活性化させる食材などの研究開発について議論を行ってきた。一方で、実臨床では最近、眼科領域で「Tie2 活性化」原理に基づく、治療薬が臨床現場で用いられるようになってきていることから、Tie2 活性化の有効性が以前にも増して重要であることが認識されていくと考えられる。

そこで本寄稿では、血管形成の機序を振り返りながら、Tie2 受容体が有する機能とは一体どのようなものであるのか、現在用いられている Tie2 受容体の制御薬とはどのような治療薬なのかを紹介したい。

眠りの量と質が決まる仕組みを解明、柳沢正史筑波大教授ら

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/12/14

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/news/weekly/00139/>

老化細胞の除去、がん免疫療法でも成功

Beyond Health（日経 BP 総合研究所） - 2022/12/14

<https://project.nikkeibp.co.jp/behealth/atcl/news/domestic/00201/>

阪大など、産後うつを身体症状を基に早期発見する調査尺度を開発

マイナビニュース - 2022/12/19

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20221219-2541561/>

大阪公大、「光濃縮」でがん細胞内導入に必要な薬剤濃度を 1/100 に削減

マイナビニュース - 2022/12/19

<https://news.mynavi.jp/techplus/article/20221219-2541422/>

以下の7件は、一般社団法人日本スポーツ栄養協会 公式情報サイト「スポーツ栄養 Web」掲載記事（2022年12月8日～22日）から選定したものです。

追記：先日の英文記事情報（2022年10月号 No.2）でご紹介済みですが、詳しくまとめられているので、再度ご紹介いたします。

魚油サプリで認知症リスクが低下、ただしアルツハイマー型は非有意 英国 21 万人超のコホート研究

<https://sndj-web.jp/news/002077.php> (2022/12/8)

魚油サプリメントを摂取している高齢者は、認知症のリスクが有意に低いというデータが報告された。ただし、認知症の原因別にみた場合、アルツハイマー型認知症については関連が非有意だという。英国の50万人以上の一般住民を対象に続けられている「UK バイオバンク」のデータを解析した……

スポーツドリンクの塩分を3倍に増やすと、暑熱環境の長時間運動で有利になる可能性

<https://sndj-web.jp/news/002079.php> (2022/12/10)

暑熱環境での長時間の運動の際には、一般的なスポーツドリンクをそのまま飲むよりも、塩分を加えて摂取したほうが、循環血漿量などの点で有利になる可能性を示した研究結果が報告された。体温感覚にも差異が生じる可能性が示されたと……

ω3 脂肪酸摂取で最高酸素摂取量が有意に上昇 男性長距離ランナーで の無作為化プラセボ対照試験

<https://sndj-web.jp/news/002076.php> (2022/12/12)

今回紹介する論文は、オメガ3脂肪酸（omega-3 fatty acid； ω 3FA）による持久力パフォーマンスへの影響を検討した報告で、米国スポーツ医学会発行の「Medicine and science in sports and exercise」に掲載された論文。12週間の ω 3脂肪酸摂取により、対プラセボで最高酸素摂取量（VO₂peak）が有意に上昇したが、1500m タイムトライアルの成績は有意差がなかったと……

10 日間の断食でどのような変化が生じるか？ 中国で成人男性 13 人を 対象に医学管理下で調査

<https://sndj-web.jp/news/002080.php> (2022/12/13)

医学的な管理の下で、13人の成人男性が水だけで10日間過ごし、その後の回復期間も含めて諸々の検査値がどのように変化するかを調べた調査結果が報告された。体脂肪量は減少し、断食後に除脂肪体重は回復する可能性などが示されたと……

持久系アスリートのための炭水化物研究とその適用のオーバービュー

<https://sndj-web.jp/news/002081.php> (2022/12/14)

今回は、「Sports medicine」誌に最近掲載された、「持久系アスリートのための炭水化物研究と適用の新たな展望 (New Horizons in Carbohydrate Research and Application for Endurance Athletes)」という、英国の研究者による総説を取り上げる。論文全体はイントロダクションに続き、(1) 競技会や高強度のトレーニングセッションにおける炭水化物の重要性、(2) トレーニングでの炭水化物摂取の適用、(3) 炭水化物摂取量の個別化——という三つのテーマでのナラティブレビューとしてまとめられている。ここでは(1)の要旨を中心に紹介……

ビタミンDの健康アウトカムに関するエビデンス 観察研究とRCTのレビュー

<https://sndj-web.jp/news/002082.php> (2022/12/15)

ビタミンDの機能性については古くから知られている骨代謝への影響に加え、近年、さまざまな疾患リスクに関連のある可能性が報告されるようになった。それにもかかわらず一連の研究に一貫性がないことがしばしば指摘される。このような状況を総括したレビュー論文を紹介する。著者らによると、観察研究では有用性が認められるものの、無作為化比較試験 (randomized controlled trial ; RCT) ではそれが否定される傾向があるとし、その背景の考察も加えて……

BMI カテゴリー別にみた日本人若年女性の食品群摂取量の経年推移 — 過去20年間の国民健康・栄養調査の解析から —

<https://sndj-web.jp/news/002092.php> (2022/12/22)

2001年から2019年の20年弱の間、日本人若年女性の食品群摂取量がどのように推移したかを、BMI カテゴリー別に検討した結果が報告された。非肥満女性では果物や乳製品の摂取量が減り、肥満女性では菓子の摂取量が増加したという。国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所の松本麻衣氏、瀧本秀美氏らの研究によるもので、「Nutrients」の国民健康・栄養調査特集号に論文が掲載……

■ その他の食品関連科学・技術情報

今回は、特に見当たりませんでした。

■ その他の科学・技術情報

エクソソームを包む脂質膜は「生きた膜」、大阪大学などが解明

大学ジャーナルオンライン - 2022/12/7 <https://univ-journal.jp/198590/>

大阪大学大学院の安田智一特任助教らの研究グループは、岐阜大学、東北大学大学院と共同で、細胞から生産される直径 100nm 程度の微小小胞（エクソソーム）を包む脂質膜は、表裏が異なる物性を示し、非対称な二重層から構成されていること、細胞膜の信号伝達を担う脂質ラフトのような揺らぎが抑えられた領域が存在することを世界で初めて明らかに……

大阪大、蛍光センサーINCIDER を新開発 ～生きた細胞の細胞接着タンパク質 N-cadherin 間の相互作用を可視化～

日経バイオテク - 2022/12/15 <https://bio.nikkeibp.co.jp/atcl/release/22/12/15/15411/>

歩行分析を簡単かつ高精度に カメラベース姿勢推定と慣性計測装置を融合

大学ジャーナルオンライン - 2022/12/13 <https://univ-journal.jp/199666/>

東京理科大学の山本征孝助教、石毛雄斗大学院生、竹村裕教授、県立広島大学の島谷康司教授の研究グループは、1 台の RGB カメラ映像からの姿勢推定と 1～2 個の小型慣性計測ユニットから取得した情報を組み合わせ、高精度かつ簡便に歩行分析を行う新しい手法を開発することに成功……

工場設備やキッチンの温度監視、200℃まで測定可能なサーマルダイオード赤外線センサー

MONOist - 2022/12/7 <https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2212/07/news070.html>

三菱電機は 2022 年 12 月 6 日、オンライン上で記者会見を開き、赤外線センサー「MeIDIR（メルダー）」の新製品として 200℃まで測定可能な 80×60 画素の「MIR8060B3」を開発し、2023 年 2 月 1 日からサンプル提供を開始すると発表した。発売は 2023 年 5 月を予定して……

NEC、AI活用により消費者の興味・関心などを推定する「消費者属性拡張」技術を開発

IoTNEWS - 2022/12/15 <https://iotnews.jp/ai/209437/>

日本電気株式会社（以下、NEC）は、企業がマーケティング施策を立案する際などに必要な顧客の興味や関心などの特性（属性）を、AIを活用して推定する「消費者属性拡張」技術を開発した。

今回開発された技術は、様々な分野での消費者の一般的な行動傾向の知識を、Web上のオープンな文書データや他社データなどから学習----

福岡工業大学、血管の硬さ・血圧・心拍数を指で測る約9センチの小型なデバイスを開発

IoTNEWS - 2022/12/16 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/209540/>

福岡工業大学情報システム工学科の李研究室は、心臓や血管の病気のリスクを減らすために、「血管の硬さ（血管弾性度）」「血圧」「心拍数」の3つの情報を指に着けるだけで測ることができる指輪型の血管健康度チェックシステムを開発-----

Healbe Japan、スマートバンド「GoBe3」に神経系の活動を可視化する機能を追加

IoTNEWS - 2022/12/16 <https://iotnews.jp/medical-healthcare/209528/>

株式会社 Healbe Japan は、摂取カロリーや体内水分バランスの自動計測、睡眠の質やストレスレベルの把握などの機能を備えたスマートバンド「GoBe3」に、神経系の活動を計測する「ニューロアクティビティー」機能の追加を発表-----

以上